

# 第3期島根県がん対策推進計画 中間評価報告書 (素案)

令和 年 月  
島 根 県

# 目 次

はじめに .....	1
第 I 章 計画の変更、修正 .....	2
1. 本文 .....	3
2. 数値目標 .....	5
3. 計画の体系 .....	11
4. 計画のロードマップ .....	11
5. 軽微な修正 .....	11
計画の体系 .....	12
計画のロードマップ .....	20
第 II 章 進捗状況 .....	26
・ 基本理念 .....	27
・ 全体目標 I（1次予防、がん検診） .....	28
・ 全体目標 II（がん医療、緩和ケア） .....	31
・ 全体目標 III（患者家族支援、がん教育） .....	34
数値目標（計画策定時、中間年、目標値） .....	38
第 III 章 中間評価 .....	50
参考資料 .....	68
取組状況（H30～R2 年度） .....	70
数値目標（H30～R2 年度） .....	102

# はじめに

平成 30（2018）年 3 月に策定した「第 3 期島根県がん対策推進計画（平成 30（2018）年度～令和 5（2023）年度）」は、計画策定から 3 年を目処に中間評価を行い、がん医療に関する状況の変化や中間評価の結果等により、計画期間内であっても必要に応じて見直し、後半計画の推進に反映することとしている。

このため、計画に掲げた目標の進捗状況等を把握し、島根県がん対策推進協議会の意見を聴きながら、評価及び今後の取組等について検討した。

# 第 I 章 計画の変更、修正

# 第 I 章 計画の変更、修正

中間評価における変更、修正については、全て本章に記載した。

## 1. 本文

### (1) 新規追加

項目	内容	理由	備考
中間 アウカム 2	<p>◎<b>感染症に起因したがんの発症を防ぐ取り組みを実施している</b></p> <p>がんの発生リスクである肝炎ウイルスやヒトパピローマウイルスなどの感染症について、国の動向を見ながら、必要な対策を実施します。</p>	<p>現計画中「計画の体系」で肝炎ウイルス対策として文言を検討することとなっていたため</p> <p>※他の感染症対策も含めて整理した</p>	<p>全体目標 I / 1 次予防</p>
具体的 施策 24	<p>●<b>がんゲノム医療体制の整備</b></p> <p>令和元年度に 4 拠点病院が、がんゲノム医療連携病院として整備されました。</p> <p>県及び拠点病院は、ゲノム医療を提供するための必要な情報を適切に患者に伝えることやゲノム医療に従事する人材の確保等の体制整備に取り組めます。</p>	<p>国の「第 3 期がん対策推進基本計画」に基づきゲノム医療提供体制が段階的に構築されたため</p>	<p>全体目標 II / がん医療 / ア拠点病院体制の維持と医療機能の向上</p>
具体的 施策 32	<p>●<b>がんゲノム医療体制の整備</b> (具体的施策 24 の再掲)</p>	<p>(具体的施策 24 の再掲)</p>	<p>全体目標 II / がん医療 / ウ高度医療等へのアクセス</p>
具体的 施策 33	<p>●<b>【小児・AYA】生殖機能の温存等に関する施策の実施</b></p> <p>令和 3 年度に、拠点病院等は「島根県がん・生殖医療ネットワーク」を構築し、小児・AYA 世代のがん患者に対し、妊孕性温存療法の適切な情報提供や、治療のすみやかな実施のための連携に取り組んでいます。</p> <p>県は「島根県がん・生殖医療ネットワーク」と連携して、放射線治療や化学療法により生殖機能が損なわれる可能性のある小児・AYA 世</p>	<p>令和 2 年度に拠点病院等が「島根県がん・生殖医療ネットワーク」を構築し、令和 3 年度より「小児・AYA 世代のがん患者等の妊孕性温存療法研究促進事業」(費用助成事業) が開始となったため</p>	<p>全体目標 II / がん医療 / ウ高度医療等へのアクセス</p>

	代のがん患者に対し、妊孕性温存療法に係る費用の助成を行い、患者の経済的負担の軽減を図るとともに、将来、子を授かることへの希望を繋ぎます。		
具体的 施策 55	<p>●【小児・AYA】生殖機能の温存等に関する施策の実施</p> <p>(具体的施策 33 の再掲)</p>	(具体的施策 33 の再掲)	全体目標Ⅲ／患者家族支援／オライフステージ別支援の実施

※参照：57頁～「数値目標（計画策定時、中間年、目標値）」

## 2. 数値目標

### (1) 新規追加

番号	項目	理由	備考
数 24	がんゲノム医療連携病院数	<ul style="list-style-type: none"> <li>本文の追加（具体的施策 24、32）及び国の「第3期がん対策推進基本計画」中間評価指標に「がんゲノム医療中核拠点病院等が整備されている都道府県数」が設定されたため</li> <li>併せて、国の第7次医療計画の中間見直しにより本文にがんゲノム医療連携病院数が記載されたため</li> </ul>	全体目標Ⅱ／がん医療／ア拠点病院体制の維持と医療機能の向上／具体的施策 24 がんゲノム医療体制の整備
	【目標値】 4（維持）		
数 31	がんゲノム医療連携病院数 (数 24 の再掲)	(数 24 の再掲)	全体目標Ⅱ／がん医療／ウ高度医療等へのアクセス／具体的施策 32 がんゲノム医療体制の整備

## (2) 変更

番号	変更前	変更後	理由	備考
数 7	今後5年間で肝炎ウイルス検査未受診者のうち、未発見の感染者数の半減	肝炎ウイルス検査受検者数	算出に用いる島根県肝炎対策推進基本指針が改定となったため、改定後の項目に変更	全体目標Ⅰ／1次予防／イ感染症対策
数 36	拠点病院全医師 【目標値】90%以上	拠点病院等1年以上所属するがんに携わる医師・歯科医師 【目標値】増加	算出に用いる拠点病院等現況報告書の様式変更に伴い「拠点病院全医師」及び「卒後2年目の医師」の項目が変更となったため、様式変更後の項目を設定	全体目標Ⅱ／緩和ケア／ア緩和ケア提供体制の強化
数 36	卒後2年目の医師 【目標値】100%	拠点病院等臨床研修医 【目標値】増加	同上	同上
数 37	苦痛のスクリーニングを行っている施設数 【目標値】28施設	同左 【目標値】27施設	県内の拠点病院等及びがん情報提供促進病院の全病院での実施を目標としていたが、令和2年度に1病院が診療所に移行したため全数が変更	全体目標Ⅱ／緩和ケア／ア緩和ケア提供体制の強化
数 60	がん教育の外部講師養成研修の累計受講者数（H29～R4年度の累計） 【目標値】200人	同左 【目標値】増加	令和2年度において目標値を達成したため、目標値を「増加」に変更	全体目標Ⅲ／がん教育／ア子どもへのがん教育



(3) 中間評価で設定することとしていた目標値（患者体験調査、遺族調査を除く）

番号	項目	対応	備考
数 7	今後5年間で肝炎ウイルス検査未受診者のうち、未発見の感染者数の半減	項目を変更し、設定した	全体目標Ⅰ／1次予防
数 49	ピアサポート利用者満足度	コロナウイルス感染症の影響により、測定・設定困難	全体目標Ⅲ／患者家族支援／ウピアサポートの充実
数 50	小児・AYA患者家族が、相談体制が整っていると感じている割合	※小児・AYA部会で検討	全体目標Ⅲ／患者家族支援／オンラインステージ別支援の実施
数 51	小児・AYA患者家族が、不安や悩みが軽減されていると感じている割合	※小児・AYA部会で検討	同上
数 52	小児・AYA患者家族が、保育・教育を受けられていると感じている割合	※小児・AYA部会で検討	同上
数 58	学校におけるがん教育の実施	設定した	全体目標Ⅲ／がん教育／ア子どもへのがん教育
数 59	学校におけるがん教育に関する校内研修の実施	設定した	同上
数 61	がん教育を公開実施した学校の割合	設定した	全体目標Ⅲ／がん教育／イ大人へのがん教育

#### (4) 患者体験調査及び遺族調査にかかるもの（国立がん研究センター実施）

##### ア 「参考値」への変更

###### ① 患者体験調査

- ・平成 30 年度に行われた患者体験調査は、平成 26 年度の 1 回目に引き続き、国のがん対策の進捗評価を行うことを目的とした調査である。第 3 期がん対策推進基本計画に沿って、平成 26 年度に使用された患者体験調査の質問紙の改定が行われたとともに表現や内容がより明瞭となるように変更され、また、回答選択肢が変更された。
- ・このことにより、前後比較は困難な状況（平成 26 年度調査と平成 30 年度調査の比較は困難な状況）である。
- ・よって、患者体験調査にかかる項目は、前後比較を行う「数値目標」から「参考値」（平成 30 年度のみ値）に変更した。

###### ② 遺族調査

- ・次回調査は未定であるため、前後比較は困難な状況である。
- ・よって、患者体験調査に同じく、遺族調査にかかる項目は、前後比較を行う「数値目標」から「参考値」（平成 30 年度のみ値）に変更した。

## イ 項目の変更

区分	項目及び変更内容	理由
詳述	用いる調査が「患者体験調査」及び「遺族調査」である項目全て	正確を期すため、内容の記載を各調査の質問項目にあわせて詳述
新規追加	数 44 (家族への支援・サービス・場所)	平成 30 年度患者体験調査に新設された「家族」についての質問項目を追加
変更	数 46 (がん相談支援センターの認知度) 【変更前】 がん相談支援センターを知っていると回答した患者の割合 (島根県県民健康調査) 【変更後】 がん相談支援センターを知っていると回答した患者・家族の割合 (患者体験調査)	平成 30 年度患者体験調査に「家族」の支援を含む項目があるため、患者体験調査に変更
	数 47 【変更前】 がん相談支援センター利用者満足度 ※がん相談センターを知っていると回答した患者・家族のうち、がん相談支援センターを利用したことがあると回答した患者・家族のうち、役に立ったと回答した患者・家族の割合 【変更後】 がん相談支援センターの利用_____ ※がん相談センターを知っていると回答した患者・家族のうち、がん相談支援センターを利用したことがあると回答した患者・家族_____の割合	平成 30 年度患者体験調査において母数が小さすぎて値が公表されなかったため、類似質問項目に変更
	数 53 【変更前】 復職 【変更後】 休職・休業	平成 30 年度患者体験調査において平成 26 年度と同じ質問項目がないため、類似質問項目に変更

	<p>数 56</p> <p>【変更前】  <u>家族を含む</u>がんに対する偏見</p> <p>【変更後】  <u>家族以外</u>のがんに対する偏見</p> <p>数 57</p> <p>【変更前】  <u>家族以外</u>の周囲からの不必要な気遣い</p> <p>【変更後】  <u>家族を含む</u>周囲からの不必要な気遣い</p>	
--	---	--

### 3. 計画の体系

- ・具体的施策 36(緩和ケアを適切に提供するための取組)の実施主体を実情に併せて、次のように変更した。

【変更前】医療機関

【変更後】県、島根大学医学部附属病院、医療機関

- ・この他、本章「1. 本文」及び「2. 数値目標」を踏まえ、後掲のとおり変更した。

### 4. ロードマップ

- ・本章「1. 本文」及び「2. 数値目標」を踏まえ、後掲のとおり変更した。

### 5. 軽微な修正

頁	行数等	修正前	修正後
2	4行目	平成 <u>35</u> (2023) 年 3 月	平成 <u>36</u> (2024) 年 3 月
30	数値目標 2	10 万人	10 万 <u>対</u>
30	数値目標 2	年度	年 <u>__</u>
49	11 行目	<u>精度管理</u>	<u>受診率向上</u>
76	最終アトカ 4	<u>痛み</u>	<u>苦痛</u>
76	数値目標 32	<u>痛み</u>	<u>苦痛</u>
79	数値目標 34	医療者は、患者のつらい症状にすみやかに対応していたと回答した割合	医療者は、患者のつらい症状にすみやかに対応していたと回答した <u>遺族</u> の割合
80	数値目標 37	<u>18</u> 施設	<u>19</u> 施設
81	数値目標 38	患者は望んだ場所で過ごせたと回答した割合	患者は望んだ場所で過ごせたと回答した <u>遺族</u> の割合
88	10 行目	特性を <u>生</u> かし	特性を <u>活</u> かし
94	6 行目	【小児・AYA】小児・AYA 世代の患者実態調査の実施	【小児・AYA】患者に必要な施策の検討、実施
96	数値目標 56	<u>2.8</u> %	<u>1.4</u> %
100	8 行目	特性を <u>生</u> かし	特性を <u>活</u> かし
100	数値目標 12, 31, 55, 62	<u>箇所</u>	<u>事業所</u>

## 計画の体系

## 計画の体系

### 【全体目標Ⅰ】科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実

#### (1) がんの1次予防（発生リスクの低減）（1次予防）

最終アウトカム					数値目標			頁				
中間アウトカム					番号	内容						
具体的施策	実施主体	重点施策										
最終 1	がんに罹患する者が減っている				数 2	年齢調整罹患率	低減	30				
中間 1	【ア 生活習慣病等の改善】 がんの発生リスクがあると科学的に実証されている生活習慣等が改善している				数 3	成人の喫煙率	低減	35				
					数 4	生活習慣のリスクを高める量を飲酒している者の割合	低減	36				
	施策 1	生活習慣のさらなる改善	県	—	—	—	—	36				
	施策 2	喫煙・アルコール健康障がい対策のさらなる推進	県	—	数 5	敷地内・施設内禁煙、完全分煙を実施している事業所の割合	完全 実施	36				
	施策 3	圏域では、罹患・死亡状況などから重点的に取り組むがん種を決定し、そのがんのリスクとなる生活習慣の改善に取り組む	県、市町村	重点 施策	—	—	—	37				
	施策 4	事業所と連携した情報提供の実施	県	—	数 6	しまね☆まめなカンパニー登録事業所数	増加	37				
	【イ 感染症対策】				数 7	肝炎ウイルス検査受検者数	増加	36 38				
	中間 2	【新規】 感染症に起因したがんの発症を防ぐ取り組みを実施している										
	施策 5	B型肝炎ワクチンの定期接種及び肝炎ウイルス検査の受診促進	県	—					—	—	—	38
	施策 6	子宮頸がん予防ワクチン接種への適切な対応	県、拠点病院	—					—	—	—	38
施策 7	ヘリコバクター・ピロリ（ピロリ菌）への対策	県、拠点病院	—	—					—	—	38	
施策 8	ヒトT細胞白血病ウイルス1型（HTLV-1）への対策	県、拠点病院	—	—	—	—	38					

(2) がんの2次予防(早期発見・早期受診) (がん検診)

最終アウトカム					数値目標			頁	
中間アウトカム					番号	内容			
具体的施策	実施主体	重点施策							
最終 2	がんに罹患した場合でも早期発見・早期受診につながっている				数 8	臨床進行度 がんと診断された時点での病巣の広がりや、早期がん(上皮内及び限局)の割合	増加	39	
中間 3	【ア 精度管理の徹底】 科学的根拠に基づくがん検診(対策型検診)を精度管理の下で実施				数 9	科学的根拠に基づくがん検診(対策型検診)を実施している市町村数	全市町村	42	
					数 10	市町村が実施するがん検診の精密検査受診率	増加	42	
	施策 9	県生活習慣病検診管理指導協議会における精度管理や事業評価の実施	県	—	—	—	—	43	
	施策 10	がん検診従事者講習会やがん検診担当者会議の充実	県	—	—	—	—	43	
	施策 11	指針に基づいたがん検診の実施および精度管理の向上	市町村	重点 施策	—	—	—	43	
	施策 12	検診の質の向上	検診機関	—	—	—	—	43	
	施策 13	効果的ながん検診を実施するためのデータ収集・分析の実施	県	—	—	—	—	43	
	施策 14	圏域では、罹患・死亡状況などから重点的に取り組むがん種を決定し、それに対応したがん検診の精度管理を実施	県、市町村	重点 施策	—	—	—	43 50	
	中間 4	【イ 働き盛り世代への受診率向上対策】 働き盛り世代の検診受診率が向上している				数 11	島根県全体のがん検診受診率	増加	48
	施策 15	検診の実施を把握し、その結果から効果的な検診体制の整備を実施	県	—	—	—	—	48	
	施策 16	働き盛り世代に対し、かかりつけ医からの受診勧奨を実施	県	重点 施策	—	—	—	48	
	施策 17	がん検診と特定健診の同時受診の促進を図る	市町村、協会けんぽ	—	—	—	—	48	
	施策 18	(再掲：施策4) 事業所と連携した情報提供の実施	県	—	数 12	(再掲：数6) しまね☆まめなカンパニー登録事業所数	増加	48	
施策 19	SNSを利用した若い世代に向けた子宮頸がん検診受診率向上対策	県	—	—	—	—	49		
施策 20	圏域では、罹患・死亡状況などから重点的に取り組むがん種を決定し、そのがん検診の受診率向上対策を実施	県、市町村	重点 施策	数 13	松江圏域のがん検診受診率(市町村実施分)	増加	49 50 ~		
				数 14	雲南圏域のがん検診受診率(市町村実施分)	増加	49 50 ~		
				数 15	出雲圏域のがん検診受診率(市町村実施分)	増加	49 50 ~		
				数 16	大田圏域のがん検診受診率(市町村実施分)	増加	49 50 ~		
				数 17	浜田圏域のがん検診受診率(市町村実施分)	増加	49 50 ~		
				数 18	益田圏域のがん検診受診率(市町村実施分)	増加	49 50 ~		
				数 19	隠岐圏域のがん検診受診率(市長町村実施分)	増加	49 50 ~		



【全体目標Ⅱ】患者本位で将来にわたって持続可能なしまねらしいがん医療の実現

(1) どこにいても安心してがん医療が受けられる体制の構築 (がん医療)

最終アウトカム				数値目標			頁	
中間アウトカム				番号	内容			
具体的施策	実施主体	重点施策						
最終 3	県内どこに住んでいても安心してがん医療が受けられている			数20	全がんの5年相対生存率	増加	64	
				数21	がんの診断から治療開始までの状況を総合的に振り返って、納得いく治療選択ができたと回答した人の割合 (納得のいく治療選択)	参考値	64	
	【ア 拠点病院体制の維持と医療機能の向上】 中間 5 拠点病院体制を維持し、患者が適切ながん医療を受けられている			数22	一般の人が受けられるがん医療は数年前と比べて進歩したと回答した人の割合 (医療の進歩の実感)	参考値	65	
	施策21	拠点病院体制の維持及び質の向上に必要な施策の実施	県	重点施策	数23	がん診療連携拠点病院数	維持	68
	施策22	拠点病院における連携体制の強化及び医療提供体制の質の向上 (都道府県拠点病院)	島根大学医学部附属病院	重点施策	—	—	—	68
	施策23	拠点病院における連携体制の強化及び医療提供体制の質の向上 (地域拠点病院)	松江市立病院、松江赤十字病院、県立中央病院、浜田医療センター	重点施策	—	—	—	69
	施策24	【新規】 がんゲノム医療体制の整備	県、島根大学医学部附属病院、松江市立病院、松江赤十字病院、県立中央病院	重点施策	数24	【新規】 がんゲノム医療連携病院数	—	—
	【イ 拠点病院と地域の病院等の連携・機能分担の推進】 中間 6 拠点病院と地域の病院等の機能分担による連携強化が図られている			数25	圏域内受診率 (外来)	増加	70	
				数26	紹介先の医療機関を支援なく受診できたと回答した人の割合 (紹介先医療機関の支援のない受診)	参考値	70	
	施策25	益田赤十字病院の地域がん診療病院指定に向けた支援の実施	県	重点施策	数27	地域がん診療病院数	増加	70
	施策26	(再掲：施策22) 拠点病院における連携体制の強化及び医療提供体制の質の向上 (都道府県拠点病院)	島根大学医学部附属病院	重点施策	—	—	—	70
	施策27	(再掲：施策23) 拠点病院における連携体制の強化及び医療提供体制の質の向上 (地域拠点病院)	松江市立病院、松江赤十字病院、県立中央病院、浜田医療センター	重点施策	—	—	—	70
	施策28	病院間や病院と診療所・介護施設等の連携強化 (拠点病院から地域の病院へ患者が紹介される取り組みへの支援)	県、島根大学医学部附属病院	—	数28	24時間対応が可能な在宅医療を提供している医療機関の数 (成人)	増加	70
					数29	24時間対応が可能な在宅医療を提供している医療機関の数 (小児)	増加	70
	施策29	病院間や病院と診療所・介護施設等の連携強化 (地域の病院におけるがんチーム医療の向上)	県、拠点病院	重点施策	—	—	—	70
施策30	病院間や病院と診療所・介護施設等の連携強化 (診療所や介護施設等の連携体制を強化する事業の実施・検討)	県、拠点病院	—	—	—	—	70	
【ウ 高度医療等へのアクセス】 中間 7 高度な医療等へのアクセスが可能になっている			数30	最初のがん治療が開始される前に、医師からその治療による不妊の影響について説明があったと回答した患者・家族の割合 (40歳未満) (妊孕性についての説明)	参考値	72		
施策31	高度な医療や県外での治療等へのアクセスが可能となる事業の検討	県、拠点病院	—	—	—	—	74	
施策32	【新規】 (再掲：施策24) がんゲノム医療体制の整備	県、島根大学医学部附属病院、松江市立病院、松江赤十字病院、県立中央病院	重点施策	数31	【新規】 (再掲：数24) がんゲノム医療連携病院数	—	—	
施策33	【新規】 【小児・AYA】生殖機能の温存等に関する施策の実施	県、拠点病院等	重点施策	—	—	—	—	

(2) 切れ目のない緩和ケアの提供 (緩和ケア)

最終アウトカム				数値目標			頁	
中間アウトカム				番号	内容			
具体的施策		実施主体	重点施策					
最終 4	患者やその家族の苦痛やつらさが緩和され、生活の質が向上している			数 32	がんやがん治療に伴う身体の苦痛がないと回答した患者の割合 (身体的苦痛 (痛みに限らず包括的))	参考値	76	
				数 33	がんやがん治療に伴い気持ちがつかなくないと回答した患者の割合 (精神的苦痛)	参考値	76	
	【ア 緩和ケア提供体制の強化】			数 34	医療者は患者のつらい症状にすみやかに対応していたと回答した遺族の割合	参考値	78	
	中間 8 がん診療に携わるすべての医療・介護従事者が患者とその家族の身体的・精神的・心理社会的痛みに対応できている			数 35	がんやがん治療に伴う痛みがないと回答した患者の割合 (がんに伴う痛み)	参考値	78	
	施策 34	患者とその家族に関わる医療・介護従事者のより一層の人材育成(緩和ケアに係る研修会)	県 拠点病院	—	数 36	緩和ケア研修会を受講した医師の割合 拠点病院等1年以上勤務するがん診療に携わる医師・歯科医師 拠点病院等臨床研修医	増加	79
	施策 35	患者とその家族に関わる医療・介護従事者のより一層の人材育成(医師以外)	県 医療機関	—	—	—	—	79
	施策 36	緩和ケアを適切に提供するための取組の強化	県、島根大学医学部附属病院、医療機関	—	数 37	苦痛のスクリーニングを行っている施設数	増加	80
	施策 37	個別の状況に応じた緩和ケアや、グリーフケアに対する取組の検討	県 拠点病院等	—	—	—	—	80
	【イ 自宅や介護施設等における緩和ケアの充実】			数 38	患者は望んだ場所で過ごせたと回答した遺族の割合	参考値	81	
	中間 9 患者が望む場所で適切な緩和ケアを受けられている			数 39	成人の患者に対してがん性疼痛等に対する緩和ケアが実施できる診療所数	増加	82	
施策 38	地域での緩和ケアの提供を支える基盤の強化	県 医療機関	重点 施策	数 40	成人の患者に対して医療用麻薬を提供できる体制を有する医療機関数	増加	82	
施策 39	圏域ごとの在宅緩和ケア提供体制の強化	県	—	数 41	緩和ケアネットワーク会議を開催している圏域	全圏域	82	
【ウ 意思決定支援】			数 42	治療における希望が尊重されたと回答した患者の割合 (希望の尊重)	参考値	83		
中間 10 患者とその家族が、自分らしく生きるために治療や療養生活を自己選択し、その状況に満足している			—	—	—	—	84	
施策 40	意思決定支援に対する取組の検討	県 拠点病院等	—	—	—	—	84	

【全体目標Ⅲ】 尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築

(1) 患者・家族の治療や療養生活の悩みが軽減するための支援 (患者家族支援)

最終アウトカム					数値目標			頁	
中間アウトカム					番号	内容	参考値		
具体的施策	実施主体	重点施策							
最終 5	患者とその家族の治療や療養生活の悩みが軽減している				数 43	現在自分らしい日常生活を送れていると回答した患者の割合 (自分らしい日常生活)	参考値	85	
					数 44	【新規】がん患者の家族の悩みや負担を相談できる支援・サービス・場所有りがあるという回答した患者・家族の割合 (家族への支援・サービス・場所)	参考値	—	
中間 11	【ア がん相談支援体制の充実】 中間 患者が相談できる環境があると感じている				数 45	治療開始前に病気のことや療養生活について誰かに相談できた患者の割合 (療養に関する相談)	参考値	86	
	施策 41	国が提唱する統括相談支援センター (がん患者家族サポートセンター) の運営	県 島根大学医学部附属病院	重点 施策	—	—	—	—	
	施策 42	がん相談支援センターの認知度向上	拠点病院の医療従事者	重点 施策	—	数 46	がん相談支援センターを知っていると回答した患者・家族の割合 (がん相談支援センターの認知度)	参考値	86
	施策 43	がん相談支援体制の広域連携の構築	県、サポートセンター、拠点病院	重点 施策	—	—	—	87	
中間 12	がん相談支援センター等が患者やその家族の不安や悩みに対応できている				数 47	がん相談支援センターを利用したことがあると回答した患者・家族の割合 (がん相談センターを知っていると回答した患者・家族のうち) (がん相談支援センターの利用)	参考値	86	
	施策 44	がん相談に関わる相談員の一層の資質向上	県、サポートセンター、拠点病院	重点 施策	—	数 48	がん患者・家族サポートセンターが実施する資質向上研修を受講した病院の割合	増加	86
	施策 45	(再掲：施策43) がん相談支援体制の広域連携の構築	県、サポートセンター、拠点病院	重点 施策	—	—	—	87	
中間 13	【イ 正しい情報の提供】 中間 患者やその家族が正しい情報を得られている				—	—	—	87	
	施策 46	わかりやすく確実に伝わる情報提供の実施 (ホームページ、SNS、しまねのがんサポートブック等)	県	重点 施策	—	—	—	88	
	施策 47	わかりやすく確実に伝わる情報提供の実施 (SNSは双方向の情報発信が可能である特性を活かし、県民からの反応に対して、必要な対応を行う)	県	重点 施策	—	—	—	88	
	施策 48	正しいがん情報の提供	拠点病院等	重点 施策	—	—	—	88	
中間 14	【ウ ピアサポートの充実】 中間 患者やその家族がピアサポートを受けることで悩みが軽減できている				数 49	ピアサポート利用者満足度	増加	88	
	施策 49	ピアサポートの充実 (患者サロン、ピアサポーター相談会)	県、サポートセンター、拠点病院等	重点 施策	—	—	—	89	
中間 15	【エ がん患者が自分らしくあるための社会生活支援の充実】 中間 患者のQOLが向上している				—	—	—	89	
	施策 50	社会生活支援 (就労以外) の充実	県、拠点病院等	重点 施策	—	—	—	89	

最終アウトカム					数値目標		頁				
中間アウトカム					番号	内容					
具体的施策		実施主体	重点施策								
【オ 中間 16	ライフステージ別支援の実施			数 50	小児・AYA患者家族が、相談体制が整っていると感じている割合	-	92				
	【小児・AYA】患者や家族が相談できる環境が整っている										
施策 51	【小児・AYA】患者に必要な施策の検討・実施	県、拠点病院	重点 施策	-	-	-	94				
施策 52	【小児・AYA】世代特有の課題へのワーキンググループの開催（患者きょうだいへの支援の検討）	県、拠点病院	重点 施策	-	-	-	94				
【小児・AYA】医療機関や相談支援センターが患者やその家族の不安や悩みに対応できている				数 51	小児・AYA患者家族が、不安や悩みが軽減されていると感じている割合	-	92				
	施策 53	【小児・AYA】家族の付き添い支援の実施	島根大学医学部附属病院					-	-	-	94
	施策 54	【小児・AYA】世代特有の課題へのワーキンググループの開催（生殖機能の温存等に関する施策の実施を検討）	県					-	-	-	94
	施策 55	【新規】（再掲：施策33）【小児・AYA】生殖機能の温存等に関する施策の実施	県、拠点病院等					重点 施策	-	-	-
【小児・AYA】患者が療養生活において保育・教育を受けられる環境が整備されている				数 52	小児・AYA患者家族が、保育・教育を受けられる環境が整備されていると感じている割合	-	93				
	施策 56	【AYA】世代特有の課題へのワーキンググループの開催（療養中の保育や高等教育のあり方の検討）	県					-	-	-	94
【働き盛り】患者が療養生活と仕事を両立できている				数 53	がんと診断された時の仕事について「休職・休業はしたが、退職・廃業はしなかった」と回答した患者の割合（休職・休業）	参考値	93				
								数 54	職場や仕事上の関係者から治療と仕事を両方続けられるような勤務上の配慮があったと回答した患者の割合（就労に際する配慮）	参考値	93
	施策 57	就労支援相談会等の開催（がん患者への両立支援を推進）	県、拠点病院等、ハローワーク、産業保健総合支援センター等	-	-	-	94				
	施策 58	就労支援相談会等の開催（事業所への両立支援を推進）	県、拠点病院等、島根労働局、産業保健総合支援センター等	-	-	-	94				
	施策 59	復職支援モデル事業の実施	県、ハローワーク	重点 施策	-	-	-	94			
	施策 60	（再掲：施策4）事業所と連携した情報提供の実施	県	-	数 55	（再掲：数6）しまね☆まめなカンパニー登録事業所数	増加	94			
【働き盛り】患者の子供等の悩みが軽減できている				-	-	-	-				
	施策 61	がん患者を親に持つ子ども等に対する必要な支援の検討	県、拠点病院					-	-	-	95
【高齢者】意思決定支援が可能となるための方策の検討				-	-	-	94				
	施策 62	がん患者及びその家族に対する必要な支援の実施	県、拠点病院等					-	-	-	95

(2) がんを正しく理解し、がんに向き合うためのがん教育 (がん教育)

最終アウトカム				数値目標		頁	
中間アウトカム				番号	内容		
具体的施策	実施主体	重点施策					
最終 6	県民が自分や身近な人ががんに罹患していてもそれを正しく理解し向き合えている			数 56	(家族以外の) 周囲の人からがんに対する偏見を感じると回答した患者の割合 (がんに対する偏見)	参考値	96
				数 57	がんと診断されてから周囲に不必要に気を遣われていると感じると回答した患者の割合 (周囲からの不必要な気遣い)	参考値	96
【ア 子どもへのがん教育】							
中間 22	県民ががんについて正しく理解している			—	—	—	97
23	県民が健康や命の大切さについて理解している			—	—	—	—
施策 63	子どもへのがん教育の円滑な実施	学校	重点 施策	数 58	学校におけるがん教育の実施率	増加	97
施策 64	校内研修の実施	学校	—	数 59	学校におけるがん教育に関する校内研修の実施率	増加	98
施策 65	外部講師の養成	県	—	数 60	がん教育の外部講師養成研修受講者数	増加	98
【イ 大人へのがん教育】							
中間 24	(再掲：中間22) 県民ががんについて正しく理解している			—	—	—	99
25	(再掲：中間23) 県民が健康や命の大切さについて理解している			—	—	—	—
施策 66	子どもへのがん教育を通じて大人への正しいがん情報の提供	県	—	数 61	がん教育を公開実施した学校の割合	増加	99
施策 67	わかりやすく確実に伝わる情報提供の実施 (ホームページ、SNS、広報等)	県	重点 施策	—	—	—	100
施策 68	わかりやすく確実に伝わる情報提供の実施 (SNSは双方向の情報発信が可能である特性を活かし、県民からの反応に対して、必要な対応を行う)	県	重点 施策	—	—	—	100
施策 69	関係者と連携した情報提供の実施	県、がん検診啓発サポーター、島根県立大学、各種団体等	—	—	—	—	100
施策 70	(再掲：施策4) 事業所と連携した情報提供の実施	県	—	数 62	(再掲：数6) しまね☆まめなカンパニー登録事業所数	増加	100

## 計画のロードマップ

# 計画のロードマップ

## 【全体目標 I】 科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実

### (1) がんの1次予防（発生リスクの低減）（1次予防）

「○」は実施する年度

最終 アウトカム	中間 アウトカム	具体的施策	重点 施策	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)
最終 1 がんに罹患する 者が減っている	【ア 生活習慣病等の改善】  中間 1 がんの発生リスクがあると科学的に実証されている生活習慣等が改善している	施策 1 生活習慣のさらなる改善	-	○	○	○	○	○	○
		施策 2 喫煙・アルコール健康障がい対策のさらなる推進	-	○	○	○	○	○	○
		施策 3 圏域では、罹患・死亡状況などから重点的に取り組むがん種を決定し、そのがんのリスクとなる生活習慣の改善に取り組む	重点 施策	○	○	○	○	○	○
		施策 4 事業所と連携した情報提供の実施	-	○	○	○	○	○	○
	【イ 感染症対策】  中間 2 【新規】 感染症に起因したがんの発症を防ぐ取組みを実施している	施策 5 B型肝炎ワクチンの定期接種及び肝炎ウイルス検査の受診促進	-	○	○	○	○	○	○
		施策 6 子宮頸がん予防ワクチン接種への適切な対応	-	○	○	○	○	○	○
		施策 7 ヘリコバクター・ピロリ（ピロリ菌）への対策	-	○	○	○	○	○	○
		施策 8 ヒトT細胞白血病ウイルス1型（HTLV-1）への対策	-	○	○	○	○	○	○

### (2) がんの2次予防（早期発見・早期受診）（がん検診）

最終 アウトカム	中間 アウトカム	具体的施策	重点 施策	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)
最終 2 がんに罹患した 場合でも早期発見・ 早期受診につながっている	【ア 精度管理の徹底】  中間 3 科学的根拠に基づくがん検診（対策型検診）を精度管理の下で実施	施策 9 県生活習慣病検診管理指導協議会における精度管理や事業評価の実施	-	○	○	○	○	○	○
		施策 10 がん検診従事者講習会やがん検診担当者会議の充実	-	○	○	○	○	○	○
		施策 11 指針に基づいたがん検診の実施および精度管理の向上	重点 施策	○	○	○	○	○	○
		施策 12 検診の質の向上	-	○	○	○	○	○	○
		施策 13 効果的ながん検診を実施するためのデータ収集・分析の実施	-	○	○	○	○	○	○
	【イ 働き盛り世代への受診率向上対策】  中間 4 働き盛り世代の検診受診率が向上している	施策 14 圏域では、罹患・死亡状況などから重点的に取り組むがん種を決定し、それに対応したがん検診の精度管理を実施	重点 施策	○	○	○	○	○	○
		施策 15 検診の実施を把握し、その結果から効果的な検診体制の整備を実施	-	○	○	○	○	○	○
		施策 16 働き盛り世代に対し、かかりつけ医からの受診勧奨を実施	重点 施策	○	○				
		施策 17 がん検診と特定健診の同時受診の促進を図る	-	○	○	○	○	○	○
		施策 18 （再掲：施策4）事業所と連携した情報提供の実施	-	○	○	○	○	○	○
施策 19 SNSを利用した若い世代に向けた子宮頸がん検診受診向上対策	-	○	○	○	○	○	○		
施策 20 圏域では、罹患・死亡状況などから重点的に取り組むがん種を決定し、そのがん検診の受診率向上対策を実施	重点 施策	○	○	○	○	○	○		

【全体目標Ⅱ】患者本位で将来にわたって持続可能なしまねらしいがん医療の実現

(1) どこにいても安心しがん医療が受けられる体制の構築 (がん医療)

最終 アウトカム	中間 アウトカム	具体的施策	重点 施策	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	
最終 3 県内どこに住んでいても安心してがん医療が受けられている	中間 5 拠点病院体制を維持し、患者が適切ながん医療を受けられている	施策 21 拠点病院体制の維持及び質の向上に必要な施策の実施	重点 施策	○	○	○	○	○	○	
		施策 22 拠点病院における連携体制の強化及び医療提供体制の質の向上(都道府県拠点病院)	重点 施策	○	○	○	○	○	○	
		施策 23 拠点病院における連携体制の強化及び医療提供体制の質の向上(地域拠点病院)	重点 施策	○	○	○	○	○	○	
		施策 24 <b>【新規】</b> がんゲノム医療体制の整備	重点 施策	○	○	○	○	○	○	
	中間 6 拠点病院と地域の病院等の連携・機能分担の推進	施策 25 益田赤十字病院の地域がん診療病院指定に向けた支援の実施	重点 施策	○	○	○	○	○	○	○
		施策 26 (再掲：施策22) 拠点病院における連携体制の強化及び医療提供体制の質の向上(都道府県拠点病院)	重点 施策	○	○	○	○	○	○	
		施策 27 (再掲：施策23) 拠点病院における連携体制の強化及び医療提供体制の質の向上(地域拠点病院)	重点 施策	○	○	○	○	○	○	
		施策 28 病院間や病院と診療所・介護施設等の連携強化(拠点病院から地域の病院へ患者が紹介される取り組みへの支援)	—	○	○	○	○	○	○	
		施策 29 病院間や病院と診療所・介護施設等の連携強化(地域の病院におけるがんチーム医療の向上)	重点 施策	○	○	○	○	○	○	
		施策 30 病院間や病院と診療所・介護施設等の連携強化(診療所や介護施設等の連携体制を強化する事業の実施・検討)	—	○	○	○	○	○	○	
	中間 7 高度な医療等へのアクセスが可能になっている	【ウ 高度医療等へのアクセス】 施策 31 高度な医療や県外での治療等へのアクセスが可能となる事業の検討	—	○	○	○	○	○	○	○
		施策 32 <b>【新規】</b> (再掲：施策24) がんゲノム医療体制の整備	重点 施策	○	○	○	○	○	○	
		施策 33 <b>【新規】</b> 【小児・AYA】生殖機能の温存等に関する施策の実施	重点 施策	○	○	○	○	○	○	



(2) 切れ目のない緩和ケアの提供 (緩和ケア)

最終 アウトカム	中間 アウトカム	具体的施策	重点 施策	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)
最終 4 患者やその家族 の苦痛やつらさが 緩和され、生活 の質が向上して いる	【ア 緩和ケア提供体制の強化】  中間 8 がん診療に携わるすべての医 療・介護従事者が患者とその家 族の身体的・精神的・心理社会 的痛みに対応できている	施策 34 患者とその家族に関わる医療・介護従事者のより一層の 人材育成(緩和ケアに係る研修会)	-	○	○	○	○	○	○
		施策 35 患者とその家族に関わる医療・介護従事者のより一層の 人材育成(医師以外)	-	○	○	○	○	○	○
		施策 36 緩和ケアを適切に提供するための取組の強化	-	○	○	○	○	○	○
		施策 37 個別の状況に応じた緩和ケアや、グリーフケアに対する 取組の検討	-	○	○	○	○	○	○
	【イ 自宅や介護施設等における緩 和ケアの充実】  中間 9 患者が望む場所で適切な緩和ケ アを受けられている	施策 38 地域での緩和ケアの提供を支える基盤の強化	重点 施策	○	○	○	○	○	○
		施策 39 圏域ごとの在宅緩和ケア提供体制の強化	-	○	○	○	○	○	○
	【ウ 意思決定支援】 10 患者とその家族が、自分らしく 生きるために治療や療養生活を 自己選択し、その状況に満足し ている	施策 40 意思決定支援に対する取組の検討	-	○	○	○	○	○	○

【全体目標Ⅲ】 尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築

(1) 患者・家族の治療や療養生活の悩みが軽減するための支援 (患者家族支援)

最終アウトカム	中間アウトカム	具体的施策	重点施策	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)
最終 5 患者とその家族の治療や療養生活の悩みが軽減している	【ア がん相談支援体制の充実】  中間 11 患者が相談できる環境があると感じている	施策 41 国が提唱する統括相談支援センター（がん患者家族サポートセンター）の運営	-	○	○	○	○	○	○
		施策 42 がん相談支援センターの認知度向上	-	○	○	○	○	○	○
		施策 43 がん相談支援体制の広域連携の構築	-	○	○	○	○	○	○
	中間 12 がん相談支援センター等が患者やその家族の不安や悩みに対応できている	施策 44 がん相談に関わる相談員の一層の資質向上	-	○	○	○	○	○	○
		施策 45 (再掲：施策43) がん相談支援体制の広域連携の構築	-	○	○	○	○	○	○
	【イ 正しい情報の提供】  中間 13 患者やその家族が正しい情報を得られている	施策 46 わかりやすく確実に伝わる情報提供の実施（ホームページ、SNS、しまねのがんサポートブック等）	重点 施策	○	○	○	○	○	○
		施策 47 わかりやすく確実に伝わる情報提供の実施（SNSは双方向の情報発信が可能である特性を活かし、県民からの反応に対して、必要な対応を行う）	重点 施策	○	○	○	○	○	○
		施策 48 正しいがん情報の提供	-	○	○	○	○	○	○
	【ウ ピアサポートの充実】 中間 14 患者やその家族がピアサポートを受けることで悩みが軽減できている	施策 49 ピアサポートの充実（患者サロン、ピアサポーター相談会）	重点 施策	○	○	○	○	○	○
	【エ がん患者が自分らしくあるための社会生活支援の充実】 中間 15 患者のQOLが向上している	施策 50 社会生活支援（就労以外）の充実	-	○	○	○	○	○	○
	【オ ライフステージ別支援の実施】 中間 16 【小児・AYA】患者や家族が相談できる環境が整っている	施策 51 【小児・AYA】患者に必要な施策の検討・実施	重点 施策	○	○	○	○	○	○
		施策 52 【小児・AYA】世代特有の課題へのワーキンググループの開催（患者きょうだいへの支援の検討）	重点 施策	○	○	○	○	○	○
	中間 17 【小児・AYA】医療機関や相談支援センターが患者やその家族の不安や悩みに対応できている	施策 53 【小児・AYA】家族の付き添い支援の実施	-	○	○	○	○	○	○
		施策 54 【小児・AYA】世代特有の課題へのワーキンググループの開催（生殖機能の温存等に関する施策の実施を検討）	-	○	○	○	○	○	○
		施策 55 【新規】（再掲：施策33）【小児・AYA】生殖機能の温存等に関する施策の実施	重点 施策	○	○	○	○	○	○
	中間 18 【小児・AYA】患者が療養生活において保育・教育を受けられる環境が整備されている	施策 56 【AYA】世代特有の課題へのワーキンググループの開催（療養中の保育や高等教育のあり方の検討）	-	○	○	○	○	○	○
	中間 19 【働き盛り】患者が療養生活と仕事を両立できている	施策 57 就労支援相談会等の開催（がん患者への両立支援を推進）	-	○	○	○	○	○	○
		施策 58 就労支援相談会等の開催（事業所への両立支援を推進）	-	○	○	○	○	○	○
		施策 59 復職支援モデル事業の実施	重点 施策	○	○				
		施策 60 (再掲：施策4) 事業所と連携した情報提供を実施する	-	○	○	○	○	○	○
	中間 20 【働き盛り】患者の子供等の悩みが軽減できている	施策 61 がん患者を親に持つ子ども等に対する必要な支援の検討	-	○	○	○	○	○	○
中間 21 【高齢者】意思決定支援が可能となるための方策の検討	施策 62 がん患者及びその家族に対する必要な支援の実施	-	○	○	○	○	○	○	

(2) がんを正しく理解し、がんに向き合うためのがん教育 (がん教育)

最終アウトカム	中間アウトカム	具体的施策	重点施策	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)
最終 6 県民が自分や身近な人ががんに罹患していてもそれを正しく理解し向き合っている	【ア 子どもへのがん教育】  中間 22 県民ががんについて正しく理解している  中間 23 県民が健康や命の大切さについて理解している	施策 63 子どもへのがん教育の円滑な実施	重点 施策	○	○	○	○	○	○
		施策 64 校内研修の実施	-	○	○	○	○	○	○
		施策 65 外部講師の養成	-	○	○	○	○	○	○
	【イ 大人へのがん教育】  中間 24 (再掲：中間22) 県民ががんについて正しく理解している  中間 25 (再掲：中間23) 県民が健康や命の大切さについて理解している	施策 66 子どもへのがん教育を通じて大人への正しいがん情報の提供	-	○	○	○	○	○	○
		施策 67 わかりやすく確実に伝わる情報提供の実施（ホームページ、SNS、広報等）	重点 施策	○	○	○	○	○	○
		施策 68 わかりやすく確実に伝わる情報提供の実施（SNSは双方向の情報発信が可能である特性を活かし、県民からの反応に対して、必要な対応を行う）	重点 施策	○	○	○	○	○	○
		施策 69 関係者と連携した情報提供の実施	-	○	○	○	○	○	○
		施策 70 (再掲：施策4) 事業所と連携した情報提供の実施	-	○	○	○	○	○	○

## 第II章 進捗状況

【基本理念】すべての県民が、がんを知り、がんの克服を目指す

項目	—	数値目標			頁	備考
		番号	内容	傾向		
すべての県民が、がんを知り、がんの克服を目指す	(全施策における取組)	数 1	年齢調整死亡率(75歳未満人口10万対)	低減 ➡	20	

【全体目標 I】科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実（1次予防、がん検診）

(1) がんの1次予防（発生リスクの低減）（1次予防）

最終アウトカム				状況		数値目標			頁	備考	
中間アウトカム				状況							
具体的施策	実施主体	重点施策	評価	取組状況		番号	内容	傾向			
<b>最終</b> 1 がんに罹患する者が減っている				胃・肝がんは、計画策定時に比べて減少したが、大腸・肺・子宮頸・乳がんは増加している		数2	年齢調整罹患率	低減	➡	30	
<b>【ア 生活習慣病等の改善】</b>				1日の野菜摂取量が350g以上の者の割合は、男性で約4割、女性で約3割を占めている。また、1日の食塩摂取量が8g以下の者の割合は、男性で約2割、女性で約4割を占めている。(平成28年県民健康・栄養調査)		数3	成人の喫煙率	低減	中間年の値なし	35	令和4年年度調査実施予定
<b>中間</b> 1 がんの発生リスクがあると科学的に実証されている生活習慣等が改善している				1日に30分以上軽く汗をかく運動を週2回以上している者の割合は、男性で約3割、女性で約2割を占めている。(平成28年県民健康・栄養調査)		数4	生活習慣のリスクを高める量を飲酒している者の割合	低減	中間年の値なし	36	令和4年年度調査実施予定
施策1	生活習慣のさらなる改善	県	—	◎	しまね健康寿命延伸プロジェクトにおいて、「運動の促進」及び「食生活の改善」を重点に健康づくりの取組を強化	—	—	—	—	36	
施策2	喫煙・アルコール健康障がい対策のさらなる推進	県	—	◎	たばこ対策取組宣言及び禁煙支援薬局への登録や、街頭キャンペーン並びにイベント及び広報誌等により、禁煙や受動喫煙防止、適正飲酒の周知啓発を実施	数5	敷地内・施設内禁煙、完全分煙を実施している事業所の割合	完全実施	中間年の値なし	36	
施策3	圏域では、罹患・死亡状況などから重点的に取り組むがん種を決定し、そのがんのリスクとなる生活習慣の改善に取り組む	県、市町村	重点施策	◎	圏域ごとに重点的に取り組むがん種を定め取組を推進する、圏域がん対策推進事業を実施	—	—	—	中間年の値なし	37	
施策4	事業所と連携した情報提供の実施	県	—	◎	従業員の健康づくり・健康経営に取り組む、特にがんの1次予防、がん検診受診促進、仕事と治療の両立支援を行う事業所を「しまね☆まめなカンパニー」として認定登録し、事業所が取り組む優良事例を県のHPで取り上げる等の支援を実施	数6	しまね☆まめなカンパニー登録事業所数	増加	➡	37	
<b>【イ 感染症対策】</b>				感染に起因するがんへの対策として、国の動向を注視しつつ、啓発や相談対応を実施した		数7	肝炎ウイルス受検者数	増加	➡	36 38	算出に用いる島根県肝炎対策推進基本指針の改定に伴い数値目標を変更
<b>【新規】</b> 中間 2 感染症に起因したがんの発症を防ぐ取組みを実施している											
施策5	B型肝炎ワクチンの定期接種及び肝炎ウイルス検査の受診促進	県	—	◎	7月の重点普及啓発月間や市民公開講座などにより啓発の実施	—	—	—	—	38	
施策6	子宮頸がん予防ワクチン接種への適切な対応	県、拠点病院	—	○	令和2年10月に、依然として積極的な勧奨を差し控えている状況であるが、希望者が定期接種を受けられるよう対象者等への周知等の実施や、接種機会の確保を図る旨の国通知を市町村へ通知	—	—	—	—	38	
施策7	ヘリコバクター・ピロリ（ピロリ菌）への対策	県、拠点病院	—	○	令和2年度末時点ではピロリ菌検査は国のがん検診の指針に記載されていないが、県内の複数自治体では住民検診として実施しており、引き続き国の動向を注視している	—	—	—	—	38	
施策8	ヒトT細胞白血病ウイルス1型（HTLV-1）への対策	県、拠点病院	—	○	平成22年度から、各保健所及び拠点病院等に窓口を設置し、県民からの相談に対応	—	—	—	—	38	

(2) がんの2次予防（早期発見・早期受診）（がん検診）

最終アウトカム				状況		数値目標			頁	備考	
中間アウトカム				状況							
具体的施策	実施主体	重点施策	評価	取組状況		番号	内容	傾向			
最終 2 がんに罹患した場合でも早期発見・早期受診につながっている				胃・肺・乳がんでは早期がん割合が増加し、胃・肺がんでは目標値10%増加を達成した 大腸・子宮頸がんは、やや減少した		数8	臨床進捗度 がんと診断された時点での病巣の広がりが、早期がん（上皮内及び限局）の割合	増加	➔	39	
【ア 精度管理の徹底】 中間 3 科学的根拠に基づくがん検診（対策型検診）を精度管理の下で実施				全19市町村で国の指針に基づく対策型検診を実施した		数9	科学的根拠に基づくがん検診（対策型検診）を実施している市町村数	金市町村	➔	42	
				胃がん検診ではやや減少したが、他の肺・大腸・子宮頸・乳がん検診では増加し、乳がん検診は目標値90%以上を達成した		数10	市町村が実施するがん検診の精密検査受診率	増加	➔	42	
施策9	県生活習慣病検診管理指導協議会における精度管理や事業評価の実施	県	—	○	各種がん部会、子宮頸がん検診精度管理事業を実施	—	—	—	—	43	
施策10	がん検診従事者講習会やがん検診担当者会議の充実	県	—	◎	がん検診担当者会議及び研修会、各種がん検診従事者講習会を実施（島根県環境保健公社へ委託）	—	—	—	—	43	
施策11	指針に基づいたがん検診の実施および精度管理の向上	市町村	重点施策	◎	市町村又は圏域単位でがん検診の事業評価及び精度管理向上に関する検討会を実施	—	—	—	—	43	
施策12	検診の質の向上	検診機関	—	◎	各種がん検診の読影委員会及び研修会の開催、各団体が開催する外部精度管理への参加の実施	—	—	—	—	43	
施策13	効果的ながん検診を実施するためのデータ収集・分析の実施	県	—	○	がん検診の事業評価や効果的な事業の企画立案のために必要なデータの集計・分析・提供を実施	—	—	—	—	43	
施策14	圏域では、罹患・死亡状況などから重点的に取り組むがん種を決定し、それに対応したがん検診の精度管理を実施	県、市町村	重点施策	◎	圏域がん対策推進事業を実施	—	—	—	—	43 50	

最終アウトカム				状況		数値目標			頁	備考			
中間アウトカム				状況									
具体的施策	実施主体	重点施策	評価	取組状況	番号	内容	傾向						
最終 2	中間 4	【イ 働き盛り世代への受診率向上対策】											
		働き盛り世代の受診率が向上している			肺・大腸・乳がん検診は前回よりも受診率が増加した。また、目標値50%を超えたのは、肺がん検診のみであった	数11	島根県全体のがん検診受診率	増加	➡	48			
		施策15	検診の実施を把握し、その結果から効果的な検診体制の整備を実施	県	重点施策	◎	島根県がん検診実施体制調査を実施	-	-	-	48		
		施策16	働き盛り世代に対し、かかりつけ医からの受診勧奨を実施	県	重点施策	◎	受診勧奨リーフレットを作成し、かかりつけ医からの受診勧奨を実施	-	-	-	48		
		施策17	がん検診と特定健診の同時受診の促進を図る	市町村、協会けんぽ		◎	協会けんぽでは、特定健診にがん検診をセットした「生活習慣病予防健診」の実施、集団健診に市町村のがん検診をセットして実施	-	-	-	48		
		施策18	(再掲：施策4)事業所と連携した情報提供の実施	県		◎	(再掲：施策4)従業員の健康づくり・健康経営に取り組み、特にかんがの1次予防、がん検診受診促進、仕事と治療の両立支援を行う事業所を「しまね☆まめなカンパニー」として認定登録し、事業所が取り組む優良事例を県のHPで取り上げる等の支援を実施	数12	(再掲：数6)しまね☆まめなカンパニー登録事業所数	増加	➡	48	
		施策19	SNSを利用した若い世代に向けた子宮頸がん検診受診率向上対策	県		△	YouTubeやLINEによる啓発動画の配信を検討	-	-	-	49		
		施策20	圏域では、罹患・死亡状況などから重点的に取り組むがん種を決定し、そのがん検診の受診率向上対策を実施	県、市町村	重点施策	◎	圏域がん対策推進事業を実施	数13	松江圏域のがん検診受診率(市町村実施分)	増加	➡	49 50 ~	
							数14	雲南圏域のがん検診受診率(市町村実施分)	増加	➡	49 50 ~		
							数15	出雲圏域のがん検診受診率(市町村実施分)	増加	➡	49 50 ~		
					数16	大田圏域のがん検診受診率(市町村実施分)	増加	➡	49 50 ~				
					数17	浜田圏域のがん検診受診率(市町村実施分)	増加	➡	49 50 ~				
					数18	益田圏域のがん検診受診率(市町村実施分)	増加	➡	49 50 ~				
					数19	隠岐圏域のがん検診受診率(市長町村実施分)	増加	➡	49 50 ~				



【全体目標Ⅱ】患者本位で将来にわたって持続可能なしまねらしいがん医療の実現（がん医療、緩和ケア）

(1) どこにいても安心してがん医療が受けられる体制の構築（がん医療）

最終アウトカム				状況		数値目標			頁	備考	
中間アウトカム				状況		番号	内容	傾向			
具体的施策	実施主体	重点施策	評価	取組状況							
最終 3	県内どこに住んでいても安心してがん医療が受けられている			全がんの5年相対生存率は、60.2%である また、納得のいく治療選択ができたと感じる患者の割合は、約8割を占める		数 20	全がんの5年相対生存率	増加	▲	64	・島根県は2007年から地域がん登録を開始 ・2012年は、2008年よりがん登録実施医療機関数が増加
						数 21	がんの診断から治療開始までの状況を総合的に振り返って、納得のいく治療選択ができたと感じた患者の割合（納得のいく治療選択）	参考値	77.8%	64	患者体験調査
	【ア】拠点病院体制の維持と医療機能の向上 中間 5 拠点病院体制を維持し、患者が適切ながん医療を受けられている			医療の進歩を実感している患者の割合は、約8割を占めている		数 22	一般の人が受けられるがん医療は数年前と比べて進歩したと回答した患者の割合（医療の進歩の実感）	参考値	76.6%	65	患者体験調査
施策 21	拠点病院体制の維持及び質の向上に必要な施策の実施	県	重点 施策	◎	がん診療連携拠点病院機能強化補助金を交付。拠点病院の指定要件の充足状況について関係者と協議	数 23	がん診療連携拠点病院数	維持	▶	68	
施策 22	拠点病院における連携体制の強化及び医療提供体制の質の向上（都道府県拠点病院）	島根大学医学部附属病院	重点 施策	◎	島根県がん診療ネットワーク協議会、がん相談員実務担当者会、がん登録部会、がん診療部会、がん医療従事者研修会を開催	-	-	-	-	68	
施策 23	拠点病院における連携体制の強化及び医療提供体制の質の向上（地域拠点病院）	松江市立病院、松江赤十字病院、県立中央病院、浜田医療センター	重点 施策	◎	地域連携バスの活用。まめネットを活用したオンライン会議、カンファレンスの開催 新規開業診療所への訪問、がんパスに関する研修会の開催	-	-	-	-	69	
施策 24	【新規】がんゲノム医療体制の整備	県、島根大学医学部附属病院、松江市立病院、松江赤十字病院、県立中央病院	重点 施策	◎	がんゲノム医療連携病院として、島根大学医学部附属病院、松江市立病院、松江赤十字病院、県立中央病院の4病院を整備	数 24	【新規】がんゲノム医療連携病院数	維持	-	-	

最終アウトカム				状況		数値目標			頁	備考			
中間アウトカム				状況									
具体的施策		実施主体	重点施策	評価	取組状況	番号	内容	傾向					
最終 3	中間 6	【イ 拠点病院と地域の病院等の連携・機能分担の推進】		地域の病院のがん医療のレベルアップに向け、拠点病院と地域の病院の連携に取り組んでいる		数25	圏域内受診率（外来）	増加	中間年の値なし	70	R2年度データブックへの掲載に向け、厚生労働省で作業中		
		【イ 拠点病院と地域の病院等の機能分担による連携強化が図られている】		また、紹介先医療機関を支援なく受診できたと感じる患者の割合は、約8割を占める		数26	紹介先の医療機関を支援なく受診できたと回答した患者の割合（紹介先医療機関の支援のない受診）	参考値	80.3%	70	患者体験調査		
		施策25	益田赤十字病院の地域がん診療病院指定に向けた支援の実施	県	重点施策	○	益田赤十字病院の地域がん診療病院指定に向け、協議を継続中	数27	地域がん診療病院数	増加	➡	70	
		施策26	（再掲：施策22）拠点病院における連携体制の強化及び医療提供体制の質の向上（都道府県拠点病院）	島根大学医学部附属病院	重点施策	◎	（再掲：施策22）島根県がん診療ネットワーク協議会、がん相談員実務担当者会、がん登録部会、がん診療部会、がん医療従事者研修会を開催	-	-	-	-	70	
		施策27	（再掲：施策23）拠点病院における連携体制の強化及び医療提供体制の質の向上（地域拠点病院）	松江赤十字病院、松江市立病院、県立中央病院、赤松医療センター	重点施策	◎	（再掲：施策23）地域連携バスの活用、まめネットを活用したオンライン会議、カンファレンスの開催 新規開業診療所への訪問、がんバスに関する研修会の開催	-	-	-	-	70	
		施策28	病院間や病院と診療所・介護施設等の連携強化（拠点病院から地域の病院へ患者が紹介される取り組みへの支援）	県、島根大学医学部附属病院	-	◎	地域連携バスを活用し、患者が望む地域の医療機関への紹介 外来通院患者からの在宅療養の相談に対し、地域の在宅療養所等の紹介、連携	数28	24時間対応が可能な在宅医療を提供している医療機関の数（成人）	増加	中間年の値なし	70	令和4年年度調査実施予定
	施策29	病院間や病院と診療所・介護施設等の連携強化（地域の病院におけるがんチーム医療の向上）	県、拠点病院	重点施策	○	がんチーム医療づくり推進事業を実施 在宅緩和ケア他職種カンファレンス研修会、ELNEC研修会、国立がん研究センター開催の研修会への参加	-	-	-	-	70		
	施策30	病院間や病院と診療所・介護施設等の連携強化（診療所や介護施設等の連携体制を強化する事業の実施・検討）	県、拠点病院	-	◎	緩和ケア他職種カンファレンスコア委員会を開催し、ケアマネージャー協会等との間で事例検討、情報共有、意見交換を実施	-	-	-	-	70		
	中間 7	【ウ 高度医療等へのアクセス】		治療開始前に、生殖機能への影響に関する説明を受けた患者・家族の割合は、約4割を占める		数30	最初のがん治療が開始される前に、医師からその治療による不妊の影響について説明があったと回答した患者・家族の割合（40歳未満）（妊孕性についての説明）	参考値	40.8%	72	患者体験調査		
		施策31	高度な医療や県外での治療等へのアクセスが可能となる事業の検討	県、拠点病院	-	◎	ゲノム診療部の創設、遺伝子パネル検査の導入 適応外薬や未承認薬の使用を検討する審査委員会の設置、臨床研究内容のホームページでの情報公開 先進的な医療について広報誌での周知	-	-	-	-	74	
		施策32	【新規】（再掲：施策24）がんゲノム医療体制の整備	県、島根大学医学部附属病院、松江赤十字病院、松江市立病院、県立中央病院	重点施策	◎	（再掲：施策24）がんゲノム医療連携病院として、島根大学医学部附属病院、松江市立病院、松江赤十字病院、県立中央病院の4病院を整備	数31	【新規】（再掲：数24）がんゲノム医療連携病院数	維持	-	-	
	施策33	【新規】【小児・AYA】生殖機能の温存等に関する施策の実施	県、拠点病院等	重点施策	◎	島根県がん・生殖医療ネットワークを構築し、妊孕性温存療法についての患者への情報提供体制や医療機関間の連携フローを整備し、助成事業の実施要綱等を検討	-	-	-	-	-		

(2) 切れ目のない緩和ケアの提供 (緩和ケア)

最終アウトカム				状況		数値目標			頁	備考	
中間アウトカム				状況							
具体的施策	実施主体	重点施策	評価	取組状況		番号	内容	傾向			
最終 患者やその家族の苦痛やつらさが緩和され、生活の質が向上している				身体的・精神心理的な苦痛を抱える患者の割合は、約5～7割を占めている		数32	がんやがん治療に伴う身体の苦痛がないと回答した患者の割合(身体的苦痛(痛みに限らず包括的))	参考値 51.1%	76	患者体験調査	
						数33	がんやがん治療に伴い気持ちがつらくないと回答した患者の割合(精神的苦痛)	参考値 68.6%	76	患者体験調査	
中間8 【ア 緩和ケア提供体制の強化】 がん診療に携わるすべての医療・介護従事者が患者とその家族の身体的・精神的・心理社会的痛みに対応できている				医療者が患者のつらさにすみやかに対応していたと思う遺族の割合は、約9割を占めている また、がんやがん治療に伴う痛みを抱えていない患者の割合は、約8割を占めている		数34	医療者は患者のつらい症状にすみやかに対応していたと回答した遺族の割合	参考値 85.0%	78	遺族調査	
						数35	がんやがん治療に伴う痛みがないと回答した患者の割合(がんに伴う痛み)	参考値 77.3%	78	患者体験調査	
施策34	患者とその家族に関わる医療・介護従事者のより一層の人材育成(緩和ケアに係る研修会)	県、拠点病院	◎	国の定める緩和ケア研修会、がん診療連携拠点病院医療従事者研修会、ELNEG研修会、講演会等を開催		数36	緩和ケア研修会を受講した医師の割合 拠点病院等1年以上勤務するがん診療に携わる医師・歯科医師 拠点病院等臨床研修医	増加	➔	79	
施策35	患者とその家族に関わる医療・介護従事者のより一層の人材育成(医師以外)	県、医療機関	◎	島根県がん診療拠点病院がん看護研修(緩和ケア)、緩和ケア地域連携検討会、在宅緩和ケア多職種カンファレンス研修会、ELNEG研修会、在宅PCAポンプ研修会等を実施		-	-	-	-	79	
施策36	緩和ケアを適切に提供するための取組の強化	県、島根大学医学部附属病院、医療機関	△	苦痛のスクリーニング実態把握調査実施、苦痛のスクリーニングを外来入院患者等に実施、緩和ケア連携パスを活用、緩和ケアチームへ看護専門看護師、緩和ケア認定看護師を配置、患者の外出等に際しPCAポンプを提供		数37	苦痛のスクリーニングを行っている施設数	増加	➔	80	
施策37	個別の状況に応じた緩和ケアや、グリーフケアに対する取組の検討	県、拠点病院等	◎	デスカンファレンスの実施、グリーフハガキの送付、遺族会の定期開催。ACPの普及啓発、自死患者の対応について今後に生かせるよう診療科・精神科医師等でカンファレンスを開催		-	-	-	-	80	
中間9 【イ 自宅や介護施設等における緩和ケアの充実】 患者が望む場所で適切な緩和ケアを受けられている				患者は望んだ場所で過ごせたとする遺族の割合は、約6割を占めている		数38	患者は望んだ場所で過ごせたと回答した遺族の割合	参考値 54.8%	81	遺族調査	
施策38	地域での緩和ケアの提供を支える基盤の強化	県、医療機関	△	拠点病院主催の緩和ケア研修会を医療機関及び各医師会へ案内 令和3年度から実施する在宅医への緩和ケア研修会の企画及び準備		数39	成人の患者に対してがん性疼痛等に対する緩和ケアが実施できる診療所数	増加	中間年の値なし	82	令和4年年度調査実施予定
						数40	成人の患者に対して医療用麻薬を提供できる体制を有する医療機関数	増加	中間年の値なし	82	令和4年年度調査実施予定
施策39	圏域ごとの在宅緩和ケア提供体制の強化	県	◎	緩和ケアネットワーク会議開催、緩和ケア従事者研修会実施、遺族間取組の実施及び結果配布、圏域在宅医療・緩和ケア資源情報の更新、住民への普及啓発、ハンドブック作成(県、市町村)		数41	緩和ケアネットワーク会議を開催している圏域	全圏域	➔	82	
中間10 【ウ 意思決定支援】 患者とその家族が、自分らしく生きるために治療や療養生活を自己選択し、その状況に満足している				治療における希望が尊重されたと感じる患者の割合は、約8割を占めている		数42	治療における希望が尊重されたと回答した患者の割合(希望の尊重)	参考値 79.6%	83	患者体験調査	
施策40	意思決定支援に対する取組の検討	県、拠点病院等	◎	ACPの普及啓発、ワーキング、検討会を実施、終末期の意思決定に係るマニュアルの整備・共有、終末医療にかかるガイドライン作成		-	-	-	-	84	

【全体目標Ⅲ】 尊厳をもって安心して暮らせる社会の構築 (患者家族支援、がん教育)

(1) 患者・家族の治療や療養生活の悩みが軽減するための支援 (患者家族支援)

最終アウトカム				状況		数値目標			頁	備考
中間アウトカム				状況						
具体的施策	実施主体	重点施策	評価	取組状況	番号	内容	傾向			
<b>最終 患者とその家族の治療や療養生活の悩みが軽減している</b> 5				自分らしい日常生活が送ることができていると感じる患者の割合は、約8割を占めている	数43	現在自分らしい日常生活を送れていると回答した患者の割合(自分らしい日常生活)	参考値 77.2%	85	患者体験調査	
				また、家族の悩みや負担を相談できる支援が十分あると感じている患者・家族の割合は、約5割を占めている	数44	【新規】がん患者の家族の悩みや負担を相談できる支援・サービス・場所有り十分であると回答した患者・家族の割合(家族への支援・サービス・場所)	参考値 53.7%	-	患者体験調査	
<b>【ア がん相談支援体制の充実】</b> 中間 11 患者が相談できる環境があると感じている				がん診断から治療開始前に病気や療養生活について相談できたと感じる患者の割合は、約8割を占める	数45	治療開始前に病気のことや療養生活について誰かに相談できた患者の割合(療養に関する相談)	参考値 77.1%	86	患者体験調査	
施策41	国が提唱する統括相談支援センター(がん患者家族サポートセンター)の運営	県、サポートセンター、拠点病院	◎	島根県がん診療ネットワーク協議会がん相談員実務担当者会と連携し、相談員等研修会、ピアサポーター相談会・フォローアップ研修、就労支援、広報活動を企画運営、情報共有の実施	-	-	-	-	-	
施策42	がん相談支援センターの認知度向上	拠点病院の医療従事者	◎	ホームページ、院内掲示、パンフレット、ケーブルテレビ、YouTube等で周知	数46	がん相談支援センターを知っていると回答した患者・家族の割合(がん相談支援センターの認知度)	参考値 75.9%	86	患者体験調査	
施策43	がん相談支援体制の広域連携の構築	県、サポートセンター、拠点病院	◎	鳥取県及び国立がん研究センターとの共催による相談員研修の実施、まめネット会議サービスを活用したwebカンファレンス開催	-	-	-	87		
<b>中間 12 がん相談支援センター等が患者やその家族の不安や悩みに対応できている</b>				がん相談支援センターを利用したことがある患者・家族の割合は、約1割を占める(がん相談支援センターを知っている患者・家族のうち)	数47	がん相談支援センターを利用したことがあると回答した患者・家族の割合(がん相談センターを知っていると回答した患者・家族のうち)(がん相談支援センターの利用)	参考値 13.5%	86	患者体験調査	
施策44	がん相談に関わる相談員の一層の資質向上	県、サポートセンター、拠点病院	◎	島根県がん診療ネットワーク協議会がん相談員実務担当者会の開催、各種がん相談員研修の実施及び参加、国立がん研究センター認定がん専門員認定増	数48	がん患者・家族サポートセンターが実施する資質向上研修を受講した病院の割合	増加	86	令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受けたが、工夫して開催した	
施策45	(再掲：施策43)がん相談支援体制の広域連携の構築	県、サポートセンター、拠点病院	◎	(再掲：施策43)鳥取県及び国立がん研究センターとの共催による相談員研修の実施、まめネット会議サービスを活用したwebカンファレンス開催	-	-	-	87		
<b>【イ 正しい情報の提供】</b> 中間 13 患者やその家族が正しい情報を得られている				県及び医療機関、マスコミ、患者等が協働して、正しい情報が患者や家族に伝わるよう努めている	-	-	-	87		
施策46	わかりやすく確実に伝わる情報提供の実施(ホームページ、SNS、しまねのがんサポートブック等)	県	○	ホームページのリニューアル、情報更新 県立図書館におけるがん関連図書整備	-	-	-	88		
施策47	わかりやすく確実に伝わる情報提供の実施(SNSは双方向の情報発信が可能である特性を活かし、県民からの反応に対して、必要な対応を行う)	県	△	県民からの問合せは電話であり、がん相談支援センターを紹介する等の対応をしている。	-	-	-	88		
施策48	正しいがん情報の提供	拠点病院等	◎	ホームページに各診療科の治療実績を掲載、がん情報センター(インターネット、冊子等)の活用、お食事読本(がん治療中の食事内容について患者に情報提供するもの)の作成と情報提供、がん遺伝子パネル検査についてのパンフレット作成	-	-	-	88		

最終アウトカム				状 況		数値目標			頁	備考		
中間アウトカム				状 況								
具体的施策	実施主体	重点施策	評価	取組状況		番号	内容	傾向				
最終 5	【ウ ピアサポートの充実】 中間 14 患者やその家族がピアサポートを受けることで 悩みが軽減できている				ピアサポートを利用した患者家族からの「コロナ禍でも連絡を取り合い、励まし合っている」「気持ちを聴いてもらってラクになった」等の声が、各患者サロンやがん患者・家族サポートセンター等に寄せられている		数 49	ピアサポート利用者満足度	増加	中間年の値なし	88	コロナウィルス感染症の影響のため測定不能
	施策 49	ピアサポートの充実(患者サロン、ピアサポーター相談会)	県、サポートセンター、拠点病院等	重点施策	◎	ピアサポーター相談会の実施及び支援、がんサロン活動への支援、「小児がん経験者の親の交流会」の実施、遺伝性がんの当事者を対象とした講演会・意見交換会の実施	-	-	-	-	89	
	【エ がん患者が自分らしくあるための社会生活支援の充実】 中間 15 患者のQOLが向上している				アピアランスケア支援により、患者が自分らしく過ごせるように、また、患者と社会をつなぐように努めている		-	-	-	-	89	
	施策 50	社会生活支援(就労以外)の充実	県、拠点病院等	-	◎	ウィッグ・補整下着補助、外来化学療法室のパウダールームを設置しアピアランスケア支援、がん治療に関連した医療費等の制度説明会実施	-	-	-	-	89	
	【オ ライフステージ別支援の実施】 中間 16 【小児・AYA】患者や家族が相談できる環境が整っている				小児・AYA世代のがん患者やその家族が抱える様々な疑問や不安について、相談できる環境の整備に取り組んでいる		数 50	小児・AYA患者家族が、相談体制が整っていると感じている割合	-	-	92	
	施策 51	【小児・AYA】患者に必要な施策の検討・実施	県、拠点病院	重点施策	◎	小児・AYA世代患者実態調査を実施。小児・AYA世代のがん対策部会の開催 AYA世代交流会開催への支援、がん相談支援センターでの情報提供	-	-	-	-	94	
	施策 52	【小児・AYA】世代特有の課題へのワーキンググループの開催(患者きょうだいへの支援の検討)	県、拠点病院	重点施策	◎	子どもAYAサポートセンターの設置、小冊子を活用した情報提供	-	-	-	-	94	
	中間 17 【小児AYA】医療機関や相談支援センターが患者やその家族の不安や悩みに対応できている				小児・AYA世代のがん患者特有の不安や気がかりの軽減に向けた施策を実施		数 51	小児・AYA患者家族が、不安や悩みが軽減されていると感じている割合	-	-	92	
	施策 53	【小児・AYA】家族の付き添い支援の実施	島根大学医学部附属病院	-	◎	入院児童等家族宿泊施設「だんだんハウス」の運営	-	-	-	-	94	
	施策 54	【小児・AYA】世代特有の課題へのワーキンググループの開催(生殖機能の温存等に関する施策の実施を検討)	県	-	◎	小児・AYA世代のがん対策部会の開催、島根県がん・生殖医療ネットワーク構築や妊孕性温存療法に係る助成事業の検討	-	-	-	-	94	
	施策 55	【新規】(再掲：施策33)【小児・AYA】生殖機能の温存等に関する施策の実施	県、拠点病院等	重点施策	◎	(再掲：施策33) 島根県がん・生殖医療ネットワークを構築し、妊孕性温存療法についての患者への情報提供体制や医療機関間の連携フローを整備し、助成事業の実施要綱等を検討	-	-	-	-	-	
	中間 18 【小児AYA】患者が療養生活において保育・教育を受けられる環境が整備されている				教育支援フローを作成し、入院中の患者が遠隔授業を受けやすい体制整備に取り組んでいる		数 52	小児・AYA患者家族が、保育・教育を受けられる環境が整備されていると感じている割合	-	-	93	
	施策 56	【AYA】世代特有の課題へのワーキンググループの開催(療養中の保育や高等教育のあり方の検討)	県	-	◎	高校生がん患者の教育支援検討会を開催。入院中の高校生がん患者に対する遠隔授業実施の支援フローを検討、作成	-	-	-	-	94	

最終アウトカム				状況		数値目標			頁	備考	
中間アウトカム				状況							
具体的施策	実施主体	重点施策	評価	取組状況	番号	内容	傾向				
最終 5	中間【働き盛り】患者が療養生活と仕事を両立できている				がんと診断後も仕事を継続していた患者の割合は、約5割を占める また、治療と仕事を両立するための勤務上の配慮がなされている患者の割合は、約6割を占める	数53	がんと診断された時の仕事について「休職・休業はしたが、退職・廃業はしなかった」と回答した患者の割合（休職・休業）	参考値 55.2%	93	患者体験調査	
						数54	職場や仕事上の関係者から治療と仕事を両方続けられるような勤務上の配慮があったと回答した患者の割合（就労に際する配慮）	参考値 61.3%	93	患者体験調査	
	施策57	就労支援相談会等の開催（がん患者への両立支援を推進）	県、拠点病院等、ハローワーク、産業保健総合支援センター等	重点施策	◎	○	鳥根県産業保健総合支援センター、就労支援ナビゲーター（ハローワーク）、拠点病院が連携し、両立支援相談会及び就労相談会を実施。鳥根労働局が主催する鳥根県地域両立支援推進チームに参画	-	-	94	
	施策58	就労支援相談会等の開催（事業所への両立支援を推進）	県、拠点病院等、鳥根労働局、産業保健総合支援センター等	重点施策	◎	○	出張相談窓口の開設 鳥根県地域両立支援推進チームの活動を通じ、「事業場における治療と仕事の両立支援のためのガイドライン」及び企業と医療機関の連携のためのマニュアルの周知、事業場における両立支援の実態把握	-	-	94	
	施策59	復職支援モデル事業の実施	県、ハローワーク	重点施策	○	○	嘱託職員を雇用し、情報発信を実施	-	-	94	
	施策60	（再掲：施策4）事業所と連携した情報提供の実施	県	重点施策	◎	数55	（再掲：数6）しまね☆まめなカンパニー登録事業所数	増加	➡	94	
	中間【働き盛り】患者の子供等の悩みが軽減できている				医療機関や公的機関、民間等の様々な機関が一体となって子育て支援を実施	-	-	-	-	-	
	施策61	がん患者を親に持つ子ども等に対する必要な支援の検討	県、拠点病院	重点施策	◎	-	「子どもAYA世代のサポートセンター」の設置 がんの親をもつ子ども達への支援としてCLIMBプログラムを開催	-	-	95	
	中間【高齢者】意思決定支援が可能となるための方策の検討				地域包括ケア等で関係者が一体となって方策を検討し、支援に取り組んでいる	-	-	-	-	94	
	施策62	がん患者及びその家族に対する必要な支援の実施	県、拠点病院等	重点施策	◎	-	マンガ「ACP=人生会議って何だろう」を作成しACPの普及啓発を実施 認知症ケアチームや緩和ケアチーム等及び精神科医や看護師、歯科医師等と連携し、対応を検討し支援	-	-	95	

(2) がんを正しく理解し、がんに向き合うためのがん教育（がん教育）

最終アウトカム				状況		数値目標			頁	備考			
中間アウトカム				状況		番号	内容	傾向					
具体的施策	実施主体	重点施策	評価	取組状況									
最終 県民が自分や身近な人ががんに罹患していてもそれを正しく理解し向き合えている				がんに対する偏見があると感じる患者の割合は、約1割を占める また、周囲から不要な気遣いをされていると感じる患者の割合は、約1割を占める		数56	(家族以外の)周囲の人からがんに対する偏見を感じると回答した患者の割合(がんに対する偏見)	参考値	3.7%	96	患者体験調査		
						数57	がんと診断されてから周囲に不必要に気を遣われていると感じると回答した患者の割合(周囲からの不必要な気遣い)	参考値	6.1%	96	患者体験調査		
【ア 子どもへのがん教育】				がんについて学ぶことで、自他の健康と命の大切さに気付くことができるよう、学校でのがん教育の取組みを推進している		—	—	—	—	97			
中間 22 県民ががんについて正しく理解している													
23 県民が健康や命の大切さについて理解している													
施策63	子どもへのがん教育の円滑な実施	学校	重点施策			◎	公立学校において、がん教育を実施した小学校は約5割、中学校及び高等学校は約7割である	数58	学校におけるがん教育の実施率	増加	➡	97	
施策64	校内研修の実施	学校	—			○	公立学校において、がん教育に関する校内研修率は、小学校及び中学校、高等学校において1割弱である	数59	学校におけるがん教育に関する校内研修の実施率	増加	➡	98	
施策65	外部講師の養成	県	—	◎	がん教育外部講師養成研修及びフォローアップ研修を実施 外部講師は医療機関やサロン等17団体及び個人26名をリストへ掲載し、各学校へ周知	数60	がん教育の外部講師養成研修受講者数	増加	➡	98			
【イ 大人へのがん教育】				子どもへのがん教育を通じた取組みや、企業や各種団体と連携した取組みを通じて、特に働き盛りである大人への社会教育を推進している		—	—	—	—	99			
中間 (再掲：中間22) 県民ががんについて正しく理解している													
25 (再掲：中間23) 県民が健康や命の大切さについて理解している													
施策66	子どもへのがん教育を通じて大人への正しいがん情報の提供	県	—			○	がん教育研修会や養護教諭研修において啓発するとともに、公開授業を実施	数61	がん教育を公開実施した学校の割合	増加	➡	99	
施策67	わかりやすく確実に伝わる情報提供の実施(ホームページ、SNS、広報等)	県	重点施策			○	ホームページのリニューアル、情報更新 県立図書館におけるがん関連図書整備	—	—	—	—	100	
施策68	わかりやすく確実に伝わる情報提供の実施(SNSは双方向の情報発信が可能である特性を活かし、県民からの反応に対して、必要な対応を行う)	県	重点施策			△	県民からの問合せは電話であり、がん相談支援センターを紹介する等の対応をしている。	—	—	—	—	100	
施策69	関係者と連携した情報提供の実施	県、がん検診啓発センター、県立大学、各種団体等	—	◎	がん検診啓発サポーターによる啓発及び情報発信の実施、「しまね☆まめなカンパニー」をHPに掲載	—	—	—	—	100			
施策70	(再掲：施策4)事業所と連携した情報提供の実施	県	—	◎	(再掲：施策4)従業員の健康づくり・健康経営に取り組み、特にがんの1次予防、がん検診受診促進、仕事と治療の両立支援を行う事業所を「しまね☆まめなカンパニー」として認定登録し、事業所が取り組む優良事例を県のHPで取り上げる等の支援を実施	数62	(再掲：数6)しまね☆まめなカンパニー登録事業所数	増加	➡	100			

## 数 値 目 標

(計画策定時、中間年、目標値)



# 数 値 目 標




(計画策定時、中間年、目標値)

【基本理念】すべての県民が、がんを知り、がんの克服を目指す

項 目	計画策定時		中間年	目標値	傾向	用いる調査	備考	
	H29年 (2017年度)	H27年 (2015年)	R2年 (2020年度)	R5年 (2023年度)				
数 1 がんの年齢調整死亡率（75歳未満人口10万対）			H30年 (2018年)	R3年 (2021年)	→ →	国立がん研究センターがん登録	基準値 (第1期計画策定時・H17(2005)年)	
	男	低減	105.2	89.2			86.1	男 131.5
	女	低減	54.9	47.7			50.4	女 60.6

【全体目標Ⅰ】科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実（1次予防、がん検診）

項目	計画策定時	中間年	目標値		傾向	用いる調査	備考			
			H29年度 (2017年度)	R2年度 (2020年度)				R5年度 (2023年度)		
<b>(1) がんの1次予防（発生リスクの低減）（1次予防）</b>										
数2	最終1	がんの年齢調整罹患率（人口10万対） （ ）は上皮内がんを含む値	H25年 (2013年)	H29年 (2017年)	R1年度 (2019年度)	↑ ↑ ↑ ↑ ↑	島根県 がん登録	・胃がん、肝がんは低減		
		胃がん	低減	60.9	56.3				低減	
		大腸がん	低減	51.8 (81.9)	53.9 (81.3)				低減	
		肺がん	低減	37.1 (37.3)	45.5 (45.6)				低減	
		子宮頸がん	低減	8.1 (54.2)	14.7 (68.6)				低減	
		乳がん	女	低減	73.2 (84.1)				88.9 (104.1)	低減
		肝がん	低減	18.4	15.0				低減	
数3	中間1	成人の喫煙率	H28年度 (2016年度)	—	R3年度 (2021年度)	中間年の値なし	島根県 健康長寿しまね推進計画（県民健康・栄養調査）	・令和4年度調査実施予定		
		20～79歳 男	低減	27.4%	—				12.3%	
		20～79歳 女	低減	4.4%	—				3.2%	
		20～39歳 男	低減	30.3%	—				17.7%	
		20～39歳 女	低減	7.1%	—				5.4%	
数4	中間1	生活習慣のリスクを高める量を飲酒している者の割合	H28年度 (2016年度)	—	R3年度 (2021年度)	中間年の値なし	島根県 健康長寿しまね推進計画（県民健康・栄養調査）	・令和4年度調査実施予定		
		男	低減	14.7%	—				13.0%	
		女	低減	7.1%	—				6.4%	
数5	重点施策 施策2	敷地内・施設内禁煙、完全分煙を実施している事業所の割合	H28年度 (2016年度)	—	R3年度 (2021年度)	中間年の値なし	島根県 健康長寿しまね推進計画（事業所健康づくり調査）	・令和4年度調査実施予定		
		増加	74.30%	—	100%					
数6	施策4	しまね☆まめなカンパニー登録事業所数	H30年度 (2018年度)	R2年度 (2020年度)	R4年度 (2022年度)	↑	島根県 健康推進課調査	・体系表の整理に伴う軽微な修正		
		増加	数値なし(今後把握) 146事業所	210事業所	増加					
数7	中間2	【変更】肝炎ウイルス検査未受診者のうち、未発見者の感染者数の半減 肝炎ウイルス検査受検者数	H2930年度 (20172018年度)	R元年度 (2019年度)	R43年度 (20222021年度) 仮	↑	島根県 肝炎対策推進基本指針 指針：H29年3月改定 数値目標：H30年10月改定	・算出に用いる島根県肝炎対策推進基本指針が改定となったため、改定後の項目に変更		
			男女計	調査中6,260人	16,157人				H30年度に設定予定 4年間の累計受検者数	
			女	調査中	—				H30年度に設定予定 3万人以上	

項目	計画策定時	中間年	目標値	傾向	用いる調査	備考			
	H29年度 (2017年度)	R2年度 (2020年度)	R5年度 (2023年度)						
<b>(2) がんの2次予防（早期発見・早期受診）（がん検診）</b>									
数8	最終2	臨床進行度 早期がん（上皮内及び限局）の割合		H25年 (2013年)	H29年 (2017年)	R1年 (2019年)	    	島根県 がん登録  ・大腸がん、子宮頸がんは減少	
		胃がん	増加	55.1%	63.7%	10%増加			
		肺がん	増加	32.6%	40.0%	10%増加			
		大腸がん	増加	59.3%	58.4%	10%増加			
		子宮頸がん	増加	80.8%	79.1%	10%増加			
乳がん	女増加	60.3%	61.3%	10%増加					
数9	中間3	科学的根拠に基づくがん検診（対策型検診）を実施している市町村数		H29年度 (2017年度)	R2年度 (2020年度)	R4年度 (2022年度)		厚生労働省 市区町村におけるがん検診の実施状況調査	
	全市町村	15市町村	19市町村	19市町村					
数10	中間3	市町村が実施するがん検診の精密検査受診率		H26年度 (2014年度)	H29年 (2017年)	R1年度 (2019年度)	    	島根県 地域保健健康増進事業報告	
		40～74歳	胃がん	増加	80.8%	78.0%			90.0%以上
		40～74歳	肺がん	増加	83.9%	85.3%			90.0%以上
		40～74歳	大腸がん	増加	64.9%	68.3%			90.0%以上
		20～74歳	子宮頸がん	増加	69.6%	77.1%			90.0%以上
40～74歳	乳がん	増加	93.7%	95.2%	90.0%以上				
数11	中間4	島根県全体のがん検診受診率		H28年度 (2016年度)	R元年度 (2019年度)	R4年度 (2022年度)	    	厚生労働省 国民生活基礎調査	
		胃がん	増加	45.9%	45.7%	50.0%以上			
		肺がん	増加	53.8%	56.9%	50.0%以上			
		大腸がん	増加	46.6%	49.4%	50.0%以上			
		子宮頸がん	増加	40.5%	39.0%	50.0%以上			
乳がん	増加	43.0%	43.7%	50.0%以上					
数12	施策18	（再掲：数6）しまね☆まめなカンパニー登録事業所数		H30年度 (2018年度)	R2年度 (2020年度)	R4年度 (2022年度)		島根県 健康推進課調査  ・体系表の整理に伴う軽微な修正	
	増加	数値なし(今後把握) 146事業所	210事業所	増加					

項目		計画策定時	中間年	目標値	傾向	用いる調査	備考
		H29年度 (2017年度)	R2年度 (2020年度)	R5年度 (2023年度)			
数13	施策20 重点 施策	松江圏域のがん検診受診率 (市町村実施分)	H27年度 (2015年度)	H30年度 (2018年度)	R3年度 (2021年度)	➡	鳥根県 地域 保健健康増進 事業報告 (健康推進課)
		大腸がん 増加	9.0%	7.4%	13.5%		
数14	施策20 重点 施策	雲南圏域のがん検診受診率 (市町村実施分)	H27年度 (2015年度)	H30年度 (2018年度)	R3年度 (2021年度)	➡	鳥根県 地域 保健健康増進 事業報告 (健康推進課)
		大腸がん 増加	12.2%	11.2%	20.0%		
数15	施策20 重点 施策	出雲圏域のがん検診受診率 (市町村実施分)	H27年度 (2015年度)	H30年度 (2018年度)	R3年度 (2021年度)	➡	鳥根県 地域 保健健康増進 事業報告 (健康推進課)
		胃がん 増加	0.8%	1.4%	1.2%		
数16	施策20 重点 施策	大田圏域のがん検診受診率 (市町村実施分)	H27年度 (2015年度)	H30年度 (2018年度)	R3年度 (2021年度)	➡ ➡ ➡ ➡ ➡	鳥根県 地域 保健健康増進 事業報告 (健康推進課)
		肺がん 増加	18.2%	30.6%	50.0%		
		胃がん 増加	5.0%	6.7%	50.0%		
		大腸がん 増加	14.3%	10.6%	50.0%		
		子宮頸がん 増加	22.8%	23.8%	50.0%		
		乳がん 増加	22.6%	25.3%	50.0%		
数17	施策20 重点 施策	浜田圏域のがん検診受診率 (市町村実施分)	H27年度 (2015年度)	H30年度 (2018年度)	R3年度 (2021年度)	➡ ➡ ➡	鳥根県 地域 保健健康増進 事業報告 (健康推進課)  ※受診率はマンモ単独+マンモ・視触診併用
		胃がん 増加	2.4%	5.0%	5.5%		
		肺がん 増加	4.0%	4.1%	8.6%		
		乳がん 増加	21.6%	25.3%	30.0%		
数18	施策20 重点 施策	益田圏域のがん検診受診率 (市町村実施分) <small>※女性20～69歳、市町村+管内医療機関 +環境保健公社/推計人口、2年に1回受診とする</small>	H28年度 (2016年度)	R元年度 (2019年度)	R3年度 (2021年度)	➡	益田圏域がん 検診受診率 <small>※女性20～69歳、 市町村+管内医療 機関+環境保健公 社/推計人口、2 年に1回受診とす る</small>
		子宮頸がん 増加	33.5%	30.9%	50.0%		
数19	施策20 重点 施策	隠岐圏域のがん検診受診率 (市町村実施分)	H27年度 (2015年度)	H30年度 (2018年度)	R3年度 (2021年度)	➡ ➡ ➡	鳥根県 地域 保健健康増進 事業報告 (健康推進課)
		肺がん 増加	13.8%	11.8%	50.0%		
		大腸がん 増加	12.2%	8.9%	50.0%		
		乳がん 増加	24.2%	24.5%	50.0%		

【全体目標Ⅱ】患者本位で将来にわたって持続可能なしまねらしいがん医療の実現（がん医療、緩和ケア）

項目	計画策定時 H29年度 (2017年度)	中間年 R2年度 (2020年度)	目標値 R5年度 (2023年度)	傾向	用いる調査	備考		
<b>(1) どこに住んでいても安心してがん医療が受けられる体制の構築（がん医療）</b>								
数20	最終3	全がんの5年相対生存率	H25年 (2013年)	H29年 (2017年)	R1年 (2019年)	島根県 がん登録	・島根県は2007年から地域がん登録を開始 ・2012年は、2008年よりがん登録実施医療機関数が増加	
			増加 62.3% ※2008年診断症例	60.2% ※2012年診断症例	増加			
数21	最終3	納得のいく治療選択ができた患者の割合 【評述】がんの診断から治療開始までの状況を総合的に振り返って、納得いく治療選択ができたと回答した患者の割合（納得のいく治療選択）	H26年度 (2014年度)	H30年度 (2018年度)	R4年度 (2022年度)	比較困難のため参考値	国立がん研究センター 患者体験調査	・正確を期するため内容の記載を患者体験調査の質問項目にあわせて詳述 ・H30回答選択肢等改定により比較困難のため参考値とする
			増加 81.9%	77.8%	84.5%			
数22	中間5	医療が進歩していると実感できていると回答した割合 【評述】一般の人が受けられるがん医療は数年前と比べて進歩したと回答した患者の割合（医療の進歩の実感）	H26年度 (2014年度)	H30年度 (2018年度)	R4年度 (2022年度)	比較困難のため参考値	国立がん研究センター 患者体験調査	・正確を期するため内容の記載を患者体験調査の質問項目にあわせて詳述 ・H30回答選択肢等改定により比較困難のため参考値とする
			増加 77.0%	76.6%	80.1%			
数23	施策21 重点 施策	島根県内のがん診療連携拠点病院の数	H29年度 (2017年度)	R2年度 (2020年度)	R5年度 (2023年度)	島根県 健康推進課調査		
			維持 5施設	5施設	5施設			
数24	施策24 重点 施策	【新規】がんゲノム医療連携病院数	—	R2年度 (2020年度)	R5年度 (2023年度)	厚生労働省指定状況	・国の中間評価指標に「がんゲノム医療中核拠点病院等が整備されている都道府県数」が設定されたため ・国の医療計画の中間見直しにより本文にがん医療連携病院数が記載されたため	
			維持 —	4施設	4施設			
数25	中間6	圏域内受診率（外来）	H27年度 (2015年度)	H30年度 (2018年度)	R3年度 (2021年度)	国 医療計画作成支援データベース	・R2年度データベースへの掲載に向け、厚生労働省で作業中	
			雲南	増加 56.0%	—			70.0%
			大田	増加 59.7%	—			70.0%
			益田	増加 88.6%	—			90.0%
			隠岐	増加 81.6%	—			90.0%
数26	中間6	病院から診療所・在宅医療（介護も含む）へ移った際、病院での診療方針が診療所・訪問看護ステーションへ円滑に引き継がれたと思う患者の割合 【変更】紹介先の医療機関を支援なく受診できたと回答した患者の割合（紹介先医療機関の支援のない受診）	H26年度 (2014年度)	H30年度 (2018年度)	R4年度 (2022年度)	他の患者体験調査と同じく参考値	国立がん研究センター 患者体験調査	・H30はH26と同じ質問なし ・類似質問項目に変更 「紹介先医療機関の支援のない受診できた」と回答した人の割合80.3% ・他の患者体験調査と同じく参考値とする
			増加 72.30%	H26と同じ質問項目なし	72.7%			
数27	施策25 重点 施策	地域がん診療病院の数	H29年度 (2017年度)	R2年度 (2020年度)	R5年度 (2023年度)	島根県 健康推進課調査		
			増加 0施設	0施設	1施設			
数28	施策28	24時間対応が可能な在宅医療を提供している医療機関数（成人） 県内病院及び訪問看護ステーション並びに一部の診療所及び助産所に対して医療機能の提供を調査。その結果を計画に掲載し公表されることについて了解の上、当該医療機関を持っていると回答した機関の数。以下、本調査の結果を引用しているものについては、特に記載のある場合を除き同様の集計方法による。	H29年度 (2017年度)	—	R5年度 (2023年度)	中間年の値なし	島根県 医療機能調査	・令和4年度調査実施予定
			増加 164施設	—	増加			
数29	施策28	24時間対応が可能な在宅医療を提供している医療機関数（小児）	H29年度 (2017年度)	—	R5年度 (2023年度)	中間年の値なし	島根県 医療機能調査	・令和4年度調査実施予定
			増加 20施設	—	増加			

項目		計画策定時	中間年	目標値	傾向	用いる調査	備考	
		H29年度 (2017年度)	R2年度 (2020年度)	R5年度 (2023年度)				
数 30	中間 7	生殖機能の温存等に関する情報が提供された40歳未満患者の割合	H26年度 (2014年度)	H30年度 (2018年度)	R4年度 (2022年度)	比較困難のため参考値	国立がん研究センター 患者体験調査	・正確を期すため内容の記載を患者体験調査の質問項目にあわせて詳述 ・H30回答選択肢等改定により比較困難のため参考値とする
		【詳述】最初のがん治療が開始される前に、医師からその治療による不妊の影響について説明があったと回答した患者・家族の割合（40歳未満）（妊孕性についての説明）	増加	42.7%	40.8%			
数 31	施策 32 重点 施策	【新規】（再掲：数24）がんゲノム医療連携病院数	—	R2年度 (2020年度)	R5年度 (2023年度)	➡	厚生労働省指定状況	・国の中間評価指標に「がんゲノム医療中核拠点病院等が整備されている都道府県数」が設定されたため ・国の医療計画の中間見直しにより本文にがん医療連携病院数が記載されたため
			維持	—	4施設			





項目	計画策定時	中間年	目標値	傾向	用いる調査	備考			
							H29年度 (2017年度)	R2年度 (2020年度)	R5年度 (2023年度)
<b>(2) 切れ目のない緩和ケアの提供 (緩和ケア)</b>									
数32	最終4	患者がからだの痛み苦痛がないと回答した割合	H26年度 (2014年度)	H30年度 (2018年度)	R4年度 (2022年度)	比較困難のため参考値	国立がん研究センター 患者体験調査	・正確を期すため内容の記載を患者体験調査の質問項目にあわせて詳述 ・H30回答選択肢等改定により比較困難のため参考値とする	
		【詳述】がんやがん治療に伴う身体の苦痛がないと回答した患者の割合(身体的苦痛(痛みに限らず包括的))	増加	54.1%	51.1%				57.4%
数33	最終4	患者が気持ちのつらさがないと回答した割合	H26年度 (2014年度)	H30年度 (2018年度)	R4年度 (2022年度)	比較困難のため参考値	国立がん研究センター 患者体験調査	・正確を期すため内容の記載を患者体験調査の質問項目にあわせて詳述 ・H30回答選択肢等改定により比較困難のため参考値とする	
		【詳述】がんやがん治療に伴い気持ちがつかなくないと回答した患者の割合(精神的苦痛)	増加	54.9%	68.6%				61.5%
数34	中間8	医療者は、患者のつらい症状にすみやかに対応していたと回答した遺族の割合	H30年度 (2018年度)	H30年度 (2018年度)	R4年度 (2022年度)	次回調査未定のため参考値	国立がん研究センター 遺族調査	・次回調査が未定のため、比較・設定困難 ・患者体験調査に同じく参考値とする	
		増加	今後国調査で把握 85.0%	85.0%	中間評価で設定予定 設定困難				
数35	中間8	患者が痛みがないと回答した割合	H26年度 (2014年度)	H30年度 (2018年度)	R4年度 (2022年度)	比較困難のため参考値	国立がん研究センター 患者体験調査	・正確を期すため内容の記載を患者体験調査の質問項目にあわせて詳述 ・H30回答選択肢等改定により比較困難のため参考値とする	
		【詳述】がんやがん治療に伴う痛みがないと回答した患者の割合(がんに伴う痛み)	増加	64.0%	77.3%				72.0%
数36	施策34	緩和ケア研修会を受講した医師の割合	H29年度 (2017年度)	R2年度 (2020年度)	R4年度 (2022年度)	→	島根県 健康推進課調査	・算出に用いる拠点病院等現況報告書の様式変更に伴い「拠点病院全医師」及び「卒後2年目の医師」の項目が変更となったため、様式変更後の項目を設定	
		県内で受講した医師・歯科医師/計算時最新の県内医師・歯科医師数	増加	52.1%	62.3%				69.0%
		【変更】拠点病院全医師拠点病院等1年以上所属するがん診療に携わる医師・歯科医師	増加	84.6%	96.5%				90%以上増加
		【変更】卒後2年目の医師拠点病院等臨床研修医	増加	82.5%	83.3%	100%増加	-		
数37	施策36	苦痛のスクリーニングを行っている施設数	H29年度 (2017年度)	R2年度 (2020年度)	R5年度 (2023年度)	→	島根県 健康推進課調査	・H29の数値を修正 ・県内の拠点病院等及びがん情報提供促進病院の全病院での実施を目標としていたが、令和2年度に1病院が診療所に移行したため全数に変更	
		増加	18施設19施設	16施設	28施設27施設				
数38	中間9	患者は望んだ場所で過ごせたと回答した遺族の割合	H30年度 (2018年度)	H30年度 (2018年度)	R4年度 (2022年度)	次回調査未定のため参考値	国立がん研究センター 遺族調査	・次回調査が未定のため、比較・設定困難 ・患者体験調査に同じく参考値とする	
		増加	今後国調査で把握 54.8%	54.8%	中間評価で設定予定 設定困難				
数39	施策38 重点施策	成人の患者に対してがん性疼痛等に対する緩和ケアが実施できている診療所	H29年度 (2017年度)	-	R5年度 (2023年度)	中間年の値なし	島根県 医療機能調査	・令和4年度調査実施予定	
		増加	98施設	-	増加				
数40	施策38 重点施策	成人の患者に対して医療用麻薬を提供できる体制を有する医療機関	H29年度 (2017年度)	-	R5年度 (2023年度)	中間年の値なし	島根県 医療機能調査	・令和4年度調査実施予定	
		増加	228施設	-	増加				
数41	施策39 重点施策	緩和ケアネットワーク会議を開催している圏域	H28年度 (2016年度)	R1年度 (2019年度)	R4年度 (2022年度)	→	島根県 健康推進課調査	目標は達成したが、引き続き全圏域実施を目標とする	
		全圏域	6圏域	7圏域	7圏域				
数42	中間10	患者が医療機関で診断や治療を受ける中で、患者として尊重されたと思っている割合	H26年度 (2014年度)	H30年度 (2018年度)	R4年度 (2022年度)	比較困難のため参考値	国立がん研究センター 患者体験調査	・正確を期すため内容の記載を患者体験調査の質問項目にあわせて詳述 ・H30回答選択肢等改定により比較困難のため参考値とする	
		【詳述】治療における希望が尊重されたと回答した患者の割合(希望の尊重)	増加	79.6%	74.6%				80.7%

【全体目標】 尊厳をもって安心して暮らせる社会の構築 (患者家族支援、がん教育)

項目	計画策定時	中間年	目標値	傾向	用いる調査	備考		
							H29年度 (2017年度)	R2年度 (2020年度)
<b>(1) 患者・家族の治療や療養生活の悩みが軽減するための支援 (患者家族支援)</b>								
数43	最終5	自分らしい生活を送れていると回答した患者の割合	H26年度 (2014年度)	H30年度 (2018年度)	R4年度 (2022年度)	比較困難のため参考値	国立がん研究センター患者体験調査	・正確を期すため内容の記載を患者体験調査の質問項目にあわせて詳述 ・H30回答選択肢等改定により比較困難のため参考値とする
		【詳述】現在自分らしい日常生活を送れていると回答した患者の割合(自分らしい日常生活)	増加	72.1%	77.2%			
数44	最終5	【新規】がん患者の家族の悩みや負担を相談できる支援・サービス・場所が十分であると回答した患者・家族の割合(家族への支援・サービス・場所)	—	H30年度 (2018年度)	—	他の患者体験調査に同じく参考値	国立がん研究センター患者体験調査	・平成30年度調査に新設された「家族」についての質問項目を追加 ・他の患者体験調査に同じく参考値とする
		—	—	53.7%	—			
数45	中間11	相談する場があったと回答した患者の割合	H26年度 (2014年度)	H30年度 (2018年度)	R4年度 (2022年度)	比較困難のため参考値	国立がん研究センター患者体験調査	・正確を期すため内容の記載を患者体験調査の質問項目にあわせて詳述 ・H30回答選択肢等改定により比較困難のため参考値とする
		【詳述】治療開始前に病気のことや療養生活について誰かに相談できた患者の割合(療養に関する相談)	増加	69.4%	77.1%			
数46	施策42	がん相談支援センターを知っていると回答した患者・家族の割合(がん相談支援センターの認知度)	H28年度 (2016年度)	H30年度 (2018年度)	R3年度 (2021年度)	他の患者体験調査に同じく参考値	島根県—県民健康調査 国立がん研究センター患者体験調査	・「家族」の支援を含む項目が患者体験調査にあるため、患者体験調査に変更 ・他の患者体験調査に同じく参考値とする
		増加	49.7%	75.9%	60.0%			
数47	中間12	がん相談支援センター利用者満足度	H26年度 (2014年度)	H30年度 (2018年度)	R4年度 (2022年度)	他の患者体験調査に同じく参考値	国立がん研究センター患者体験調査	・H30母数が小さすぎず値が公表されず ・類似質問項目に変更「利用したことがある」と回答した人の割合13.5% ・他の患者体験調査に同じく参考値とする
		【変更】がん相談支援センターを利用したことがあると回答した患者・家族の割合(がん相談センターを知っていると回答した患者・家族のうち) (がん相談支援センターの利用)	増加	71.0%	値なし			
数48	施策44 重点施策	がん患者・家族サポートセンターが実施する資質向上研修を受講した病院の割合	H26年度 (2014年度)	R2年度 (2020年度)	R4年度 (2022年度)	→	島根県 健康推進課調査	・令和元年度は61% ・令和2年度はコロナウイルス感染症の影響を受けた
		増加	64%	46%	100%			
数49	中間14	ピアサポート利用者満足度	H30年度 (2018年度)	—	R4年度 (2022年度)	中間年の値なし	島根県 健康推進課調査	・コロナウイルス感染症の影響により、測定・設定困難
		増加	数値なし(今後把握)(測定困難)	—	中間評価で設定予定(設定困難)			
数50	中間16	小児・AYA患者家族が、相談体制が整っていると感じている割合	H30年度 (2018年度)	—	R4年度 (2022年度)	中間年の値なし	島根県 健康推進課調査	・目標値は小児・AYA部会で検討
		増加	数値なし(今後把握)57.7%	—	中間評価で設定予定			
数51	中間17	小児・AYA患者家族が、不安や悩みが軽減されていると感じている割合	H30年度 (2018年度)	—	R4年度 (2022年度)	中間年の値なし	島根県 健康推進課調査	・目標値は小児・AYA部会で検討
		増加	数値なし(今後把握)69.3%	—	中間評価で設定予定			
数52	中間18	小児・AYA患者家族が、保育・教育を受けられる環境が整備されていると感じている割合	H30年度 (2018年度)	—	R4年度 (2022年度)	中間年の値なし	島根県 健康推進課調査	・目標値は小児・AYA部会で検討
		増加	数値なし(今後把握)82.1%	—	中間評価で設定予定			
数53	中間19	がんによる退職後の復職率	H26年度 (2014年度)	H30年度 (2018年度)	R4年度 (2022年度)	他の患者体験調査に同じく参考値	国立がん研究センター患者体験調査	・H30はH26と同じ質問なし ・類似質問項目に変更「休職・休業はしたが、退職・廃業はしなかった」と回答した人の割合55.2% ・他の患者体験調査に同じく参考値とする
		【変更】がんと診断された時の仕事について「休職・休業はしたが、退職・廃業はしなかった」と回答した患者の割合(休職・休業)	増加	76.2%	H26と同じ質問項目なし			



項目			計画策定時	中間年	目標値	傾向	用いる調査	備考
			H29年度 (2017年度)	R2年度 (2020年度)	R5年度 (2023年度)			
数 54	中間 19	就労とがん治療を両立させるために勤務先から支援が得られたがん患者の割合	H26年度 (2014年度)	H30年度 (2018年度)	R4年度 (2022年度)	比較困難のため 参考値	国立がん研究センター 患者体験調査	・正確を期すため 内容の記載を患者 体験調査の質問項 目にあわせて詳述 ・H30回答選択肢等 改定により比較困 難のため参考値と する
		【詳述】職場や仕事上の関係者から治療と仕事を両方続けられるような勤務上の配慮があったと回答した患者の割合（就労に際する配慮）	増加 82.5%	61.3%	95.0%			
数 55	施策 60	（再掲：数6）しまね☆まめなカンパニー登録事業所数	H30年度 (2018年度)	R2年度 (2020年度)	R4年度 (2022年度)	➡	島根県 健康 推進課調査	・体系表の整理 に伴う軽微な修 正
			増加 数値なし(今後把握) 146事業所	210事業所	増加			

項目	計画策定時	中間年	目標値	傾向	用いる調査	備考		
	H29年度 (2017年度)	R2年度 (2020年度)	R5年度 (2023年度)					
<b>(2) がんを正しく理解し、がんに向き合うためのがん教育 (がん教育)</b>								
数56	最終6	がん患者が周囲の人(家族、友人、近所の人、職場関係者など)からがんに対する偏見を感じると回答した割合	H26年度 (2014年度)	H30年度 (2018年度)	R4年度 (2022年度)	他の患者体験調査と同じく参考値	国立がん研究センター 患者体験調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H30はH26と同じ質問項目なし</li> <li>・類似項目に変更「家族以外の周囲からの偏見を感じる」と回答した人の割合 3.7%</li> <li>・他の患者体験調査と同じく参考値とする</li> </ul>
		【変更】(家族以外の)周囲の人からがんに対する偏見を感じると回答した患者の割合(がんに対する偏見)	低減	5-5%	H26と同じ質問項目なし			
数57	最終6	がん患者が家族以外の周囲の人(友人、近所の人、職場関係者など)から不必要に気を遣われていると感じると回答した割合	H26年度 (2014年度)	H30年度 (2018年度)	R4年度 (2022年度)	他の患者体験調査と同じく参考値	国立がん研究センター 患者体験調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H30はH26と同じ質問なし</li> <li>・類似質問項目に変更「家族を含む周囲から気を遣われていると感じる」と回答した人の割合 6.1%</li> <li>・他の患者体験調査と同じく参考値とする</li> </ul>
		【変更】がんと診断されてから周囲に不必要に気を遣われていると感じると回答した患者の割合(周囲からの不必要な気遣い)	低減	20-4%	H26と同じ質問項目なし			
数58	施策63 重点施策	学校におけるがん教育の実施率	H2930年度 (20172018年度) 数値なし(今後把握)	R2年度 (2020年度)	R4年度 (2022年度) 中間評価で設定予定		島根県 教育委員会調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>※私立学校は総務課</li> <li>※国立(島根大学附属義務教育学校)は直接聞き取り</li> <li>・策定時の値について把握可能初年度の値に変更</li> </ul>
		増加	小学校 61.6% 中学校 69.4% 高等学校 50.0%	小学校 54.7% 中学校 77.8% 高等学校 72.3%	小学校 増加 中学校 100.0% 高等学校 100.0%			
数59	施策64	学校におけるがん教育に関する校内研修の実施率	H2930年度 (20172018年度) 数値なし(今後把握)	R2年度 (2020年度)	R4年度 (2022年度) 中間評価で設定予定		島根県 教育委員会調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>※私立学校は総務課</li> <li>※国立(島根大学附属義務教育学校)は直接聞き取り</li> <li>・策定時の値について把握可能初年度の値に変更</li> </ul>
		増加	小学校 6.4% 中学校 7.2% 高等学校 2.8%	小学校 4.5% 中学校 7.1% 高等学校 0.0%	増加			
数60	施策65	がん教育の外部講師養成研修の累計受講者数(H29~R4年度の累計)	H29年度 (2017年度)	R2年度 (2020年度)	R4年度 (2022年度)		島根県 健康推進課調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標値を達成したため目標値を「増加」に変更</li> </ul>
		増加	36人	270人	200人 <b>増加</b>			
数61	施策66	がん教育を公開実施した学校の割合	H2930年度 (20172018年度) 数値なし(今後把握)	R2年度 (2020年度)	R4年度 (2022年度) 中間評価で設定予定		島根県 教育委員会調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・策定時の値について把握可能初年度の値に変更</li> </ul>
		増加	小学校 6.0% 中学校 7.4% 高等学校 7.1%	小学校 9.4% 中学校 5.4% 高等学校 11.1%	増加			
数62	施策70	(再掲:数6)しまね☆まめなカンパニー登録事業所数	H30年度 (2018年度)	R2年度 (2020年度)	R4年度 (2022年度)		島根県 健康推進課調査	
		増加	数値なし(今後把握) 146事業所	210事業所	増加			



## 第Ⅲ章 中間評価

## 第Ⅱ章 中間評価

### 【 基本理念 】

すべての県民が、がんを知り、がんの克服を目指す

### 【数値目標】

がんの年齢調整死亡率の低減（75歳未満人口10万対）

・男性

全国の死亡率を上回っていることから、全国の水準まで死亡率が低減することを旨とする。

目標値 86.1（令和3（2021）年）

・女性

全国の死亡率を下回っていることから、引き続き現状の水準で低減していくことを旨とする。

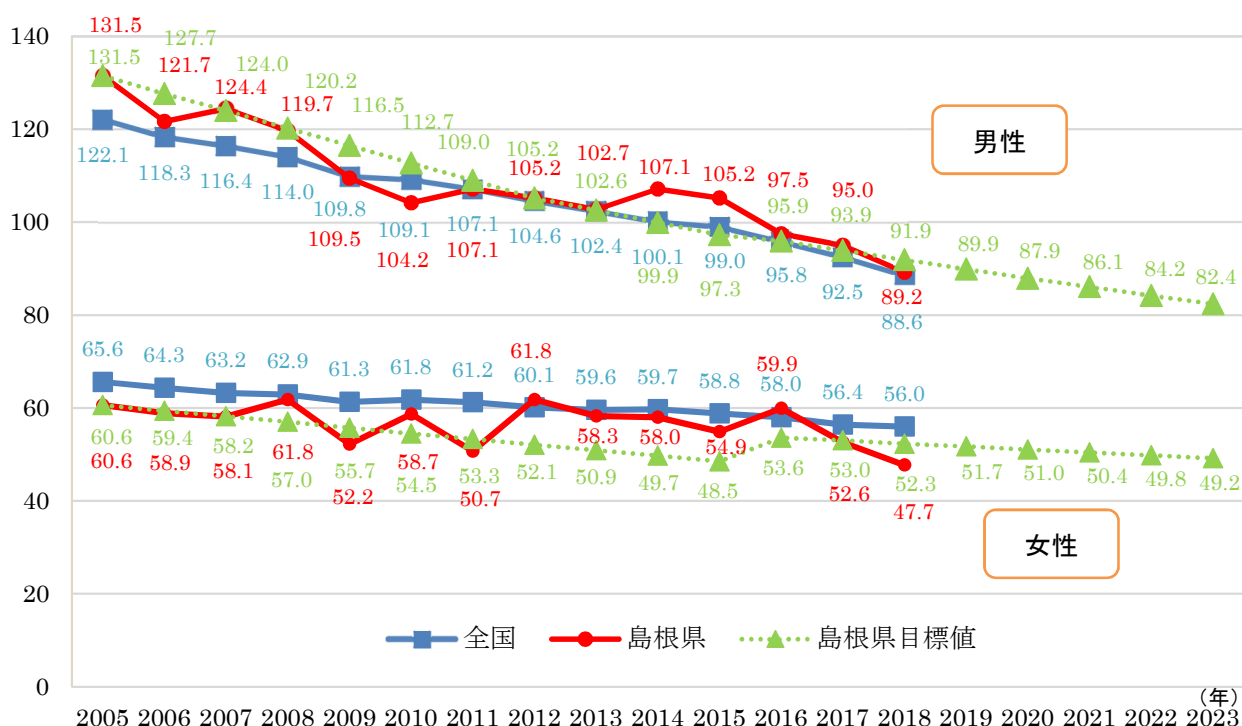
目標値 50.4（令和3（2021）年）

## 1. 進捗状況

がんの年齢調整死亡率（75歳未満人口10万対）

	基準値① 第I期計画策定 (H17/2005年)	現状値 (H30/2018年)	目標値② (R3/2021年)	低減率 (1-②/①) %	参考値 (R5/2023年)
男性	131.5	89.2	86.1	34.5%	82.4
女性	60.6	47.7	50.4	16.8%	49.2

〈 推移 〉



【出典】国立がん研究センターがん情報サービス「がん登録・統計」

## 2. 評価と今後の取組

がんの年齢調整死亡率（75歳未満人口10万対）を全国と比較すると、男性は高い水準で推移しているが全国との差が縮小傾向にあり、また、女性は低い水準で推移しており、概ね順調な低減傾向にある。

引き続き、1次予防・がん検診の充実及びがん医療体制・緩和ケア提供体制の充実、患者家族支援・がん教育の推進に取り組み、年齢調整死亡率の更なる低減を図る。

## 【全体目標Ⅰ】

### 科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実

(1次予防、がん検診)

## 1. 進捗状況

### (1) がんの1次予防（発生リスクの低減） (1次予防)

#### ア) 生活習慣病等の改善

[中間アウトカム]

1 がんの発生リスクがあると科学的に実証されている生活習慣等が改善している

#### ① 状況

- ・1日の野菜摂取量が350g以上の者の割合は、男性で約4割、女性で約3割を占めている。また、1日の食塩摂取量が8g以下の者の割合は、男性で約2割、女性で約4割を占めている。(平成28年県民健康・栄養調査)
- ・1日に30分以上軽く汗をかく運動を週2回以上している者の割合は、男性で約3割、女性で約2割を占めている。(平成28年県民健康・栄養調査)

#### ② 取組

- ・しまね健康寿命延伸プロジェクトにおいて、「運動の促進」及び「食生活の改善」を重点に、県民自ら健康づくりに取組めるよう環境整備を進めた。
- ・たばこ対策推進宣言及び禁煙支援薬局の登録拡大に向けた周知や、適正飲酒に関する周知をイベントや広報誌等で実施した。
- ・圏域単位で定めた重点的に取り組むがん種に関連する取組や、しまね☆まめなカンパニーを通じた取組等を実施した。

#### ③ 課題

- ・県民が主体的に食生活や運動、たばこや飲酒などの生活習慣改善に取り組めるよう、引き続き普及啓発に取り組む必要がある。

#### イ) 感染症対策

[中間アウトカム]

2 感染症に起因したがんの発症を防ぐ取組みを実施している

#### ① 状況

- ・感染症に起因するがんへの対策として、国の動向を注視しつつ、啓発や相談対応を実施した。

## ②取組

- ・肝炎の重点普及啓発月間や市民公開講座などにより啓発を実施した。

## ③課題

- ・引き続き肝炎ウイルスに関する普及啓発や適切な情報提供を行う必要がある。

## (2) がんの2次予防（早期発見・早期受診）（がん検診）

### ア) 精度管理の徹底

[中間アウトカム]

#### 3 科学的根拠に基づくがん検診（対策型検診）を精度管理の下で実施

## ①状況

- ・全19市町村で国の指針に基づく対策型検診を実施した。
- ・精密検査受診率について、胃がん検診ではやや減少したが、他の肺、大腸、子宮頸、乳がん検診では増加し、乳がん検診では目標値を達成した。

## ②取組

- ・各種がん部会、子宮頸がん検診精度管理事業、がん検診事業評価及び精度管理検討会を開催した。
- ・がん検診従事者講習会及び読影委員会などへがん検診従事者が参加した。

## ③課題

- ・胃、肺、大腸、子宮頸がん検診精密検査受診率が目標値を達成していない。
- ・検診記録票等の様式の統一を図るなど、適切な精度管理が行える体制を構築する必要がある。

### イ) 働き盛り世代への受診率向上対策

[中間アウトカム]

#### 4 働き盛り世代の受診率が向上している

## ①状況

- ・肺、大腸、乳がん検診受診率は増加している。また、肺がん検診は、目標値を達成している。

## ②取組

- ・特定健診とがん検診の同時受診の取組やかかりつけ医からの受診勧奨等を実施した。

## ③課題

- ・胃、大腸、乳、子宮頸がん検診受診率が目標値を達成していない。また、乳がん及び子宮頸がん検診受診率は、全国より低い状況である。
- ・検診の広域化等、受診率向上のための取組について検討する必要がある。



## 2. 進捗状況の評価及び今後の取組

### (1) がんの1次予防（発生リスクの低減） （1次予防）

#### [最終アウトカム]

#### 1 がんに罹患する者が減っている

胃がん及び肝がんの年齢調整罹患率は減少しているが、大腸がん、肺がん、子宮頸がん、乳がんは増加している。

予防できるがんへの罹患を減らすため、各施策に取り組むとともに、以下について重点的に取り組む。

- ・さらなる生活習慣改善への取組
- ・圏域単位で定めた重点的に取り組むがん種への取組

### (2) がんの2次予防（早期発見・早期受診） （がん検診）

#### [最終アウトカム]

#### 2 がんに罹患した場合でも早期発見・早期受診につながっている

がんと診断された時点での病巣の広がりや早期がんである割合は、胃がん、肺がん、乳がんでは増加しているが、大腸がんや子宮頸がんではやや減少している。

がんの早期発見・早期治療につなげるため、各施策に取り組むとともに、以下について重点的に取り組む。

- ・県生活習慣病検診管理指導協議会におけるがん検診の適切な精度管理及び事業評価の実施
- ・市町村における指針に基づいたがん検診の実施及びがん検診精密検査受診率等の精度管理の向上
- ・圏域単位で定めた重点的に取り組むがん種への取組を通じた働き盛り世代のがん検診受診率の向上

## 【全体目標Ⅱ】

患者本位で将来にわたって持続可能なしまねらしい  
がん医療の実現 (がん医療、緩和ケア)

### 1. 進捗状況

#### (1) どこに住んでいても安心してがん医療が受けられる体制の構築(がん医療)

##### ア) 拠点病院体制の維持と医療機能の向上

[中間アウトカム]

5 拠点病院体制を維持し、患者が適切ながん医療を受けられている

##### ① 状況

・医療の進歩を実感している患者の割合は、約8割を占めている。

##### ② 取組

・がんゲノム医療連携病院として、4病院が整備された。  
・島根県がん診療ネットワーク協議会等の各種会議で拠点病院間の連携体制の強化を図るとともに、がん地域連携パスの活用やがん地域連携パスに関する研修会の開催により、地域医療提供体制の強化に取り組んだ。

##### ③ 課題

・ゲノム医療を提供するための必要な情報を適切に患者に伝えることやゲノム医療に従事する人材の確保が必要である。

##### イ) 拠点病院と地域の病院等の連携・機能分担の推進

[中間アウトカム]

6 拠点病院と地域の病院等の機能分担による連携強化が図られている

##### ① 状況

・紹介先医療機関を支障なく受診できたと感じる患者の割合は、約8割を占めている。

##### ② 取組

・地域連携パスを活用し、患者が希望する地域の医療機関への紹介や、患者からの相談に対し、地域の在宅療養所の紹介等に取り組んだ。

##### ③ 課題

・県西部におけるがん医療提供体制の強化が必要である。

## ウ) 高度医療等へのアクセス

[中間アウトカム]

### 7 高度な医療等へのアクセスが可能になっている

#### ① 状況

- ・治療開始前に、生殖機能への影響に関する説明を受けた患者・家族の割合は、約4割を占めている。

#### ② 取組

- ・ゲノム診療部の創設や遺伝子パネル検査の導入、適応外薬や未承認薬の使用を検討する審査委員会の設置のほか、臨床研究内容のホームページでの情報公開や、先進的な医療について広報誌での周知に取り組んだ。
- ・がんゲノム医療連携病院として、4病院が整備された。
- ・島根県がん・生殖医療ネットワークを構築し、妊孕性温存療法についての患者への情報提供体制や医療機関間の連携フローを整備し、助成事業の実施要綱等を検討した。

#### ③ 課題

- ・ゲノム医療や妊孕性温存療法について、わかりやすい情報提供が必要である。

## (2) 切れ目のない緩和ケアの提供（緩和ケア）

### ア) 緩和ケア提供体制の強化

[中間アウトカム]

8 がん患者に関わるすべての医療・介護従事者が患者とその家族の身体的・精神的・心理的痛みに対応できている

#### ① 状況

- ・医療者が患者のつらさにすみやかに対応していたと思う遺族の割合は約9割を占め、また、がんやがん治療に伴う痛みを抱えていない患者の割合は、約8割を占めている。

#### ② 取組

- ・緩和ケアに係る研修会の開催等による人材育成や、苦痛のスクリーニングの実施、グリーフケア等に取り組んだ。

#### ③ 課題

- ・苦痛のスクリーニング実施の希望はあるが実施に至っていない施設がある。

### イ) 自宅や介護施設等における緩和ケアの充実

[中間アウトカム]

9 患者が望む場所で適切な緩和ケアを受けられている

#### ① 状況

- ・患者は望んだ場所で過ごせたと思う遺族の割合は約6割を占めている。

#### ② 取組

- ・各圏域において、緩和ケアネットワーク会議を開催し、医療機関や医師会、訪問看護ステーション、薬剤師等と連携を図った。また、緩和ケア従事者研修会の実施、遺族聞き取り調査結果（支援スタッフの皆さんに伝えたいこと）の緩和ケアスタッフへの配布等により、在宅緩和ケア提供体制の強化に努めた。

#### ③ 課題

- ・がん性疼痛等に対する緩和ケアが実施できる診療所数の増加及び医療用麻薬を提供できる体制を有する医療機関数の増加に関する取組が必要である。

## ウ) 意思決定支援

[中間アウトカム]

10 患者とその家族が、自分らしく生きるために治療や療養生活を自己選択し、その状況に満足している

### ① 状況

- ・治療における希望が尊重されたと感じる患者の割合は、約8割を占めている。

### ② 取組

- ・アドバンス・ケアプラン(ACP)の普及啓発を行うとともに、各拠点病院でのワーキングや検討会の開催等により意思決定支援の在り方や方策について検討した。

### ③ 課題

- ・引き続き、アドバンス・ケアプラン(ACP)の普及啓発等の取組が必要である。

## 2. 進捗状況の評価及び今後の取組

### (1) どこに住んでいても安心してがん医療が受けられる体制の構築（がん医療）

[最終アウトカム]

#### 3 県内どこに住んでいても安心してがん医療が受けられている

全がんの5年相対生存率は、60.2%である。

また、納得のいく治療選択ができたと感じる患者の割合は、約8割を占めている。

県内のどこに住んでいても安心してがん医療が受けられる体制の構築のため、各施策に取り組むとともに、以下について重点的に取り組む。

- ・拠点病院体制の維持及び質の向上に必要な施策の実施
- ・拠点病院間の連携体制の強化
- ・拠点病院と地域の病院・診療所間の連携体制の強化
- ・ゲノム医療に関する適切な情報提供や人材確保
- ・県西部におけるがん医療提供体制の強化
- ・地域の病院のがんチーム医療のレベルアップの促進
- ・妊孕性温存療法に関する情報提供

### (2) 切れ目のない緩和ケアの提供（緩和ケア）

[最終アウトカム]

#### 4 患者やその家族の苦痛やつらさが緩和され、生活の質が向上している

身体的・精神的な苦痛を抱える患者の割合は、約5～7割を占めている。

患者やその家族の苦痛やつらさが緩和され、生活の質の向上を図るため、各施策に取り組むとともに、以下について重点的に取り組む。

- ・国指定の緩和ケア研修会開催等による人材育成
- ・カンファレンス等による苦痛のスクリーニングを行っている施設数の増加
- ・在宅医への緩和ケア研修会の実施による在宅緩和ケアの促進
- ・アドバンス・ケアプラン(ACP)の普及啓発等による意思決定支援の取組

## 【 全体目標Ⅲ 】

### 尊厳をもって安心して暮らせる社会の構築

(患者家族支援、がん教育)

## 1. 進捗状況

### (1) 患者・家族の治療や療養生活の悩みが軽減するための支援(患者家族支援)

#### ア) がん相談支援体制の充実

[中間アウトカム]

- 11 患者が相談できる環境があると感じている
- 12 がん相談支援センター等が患者やその家族の不安や悩みに対応できている

#### ① 状況

- ・がん診断から治療開始前に病気や療養生活について相談できたと感じる患者・家族の割合は、約8割を占めている。
- ・がん相談支援センターを利用したことがある患者・家族の割合は、がん相談センターを知っていると回答した患者(約8割)のうち、約1割を占める。

#### ② 取組

- ・がん相談員等研修会やピアサポート相談会・フォローアップ研修等の実施、ホームページや院内掲示等によるがん相談支援センターの周知、鳥取県や国立がん研究センターとの共催による相談員研修等の相談支援体制の広域連携に取り組んだ。

#### ③ 課題

- ・がん相談支援センターを知っている患者・家族のうち、利用していない患者家族は約9割を占めている。

#### イ) 正しい情報の提供

[中間アウトカム]

- 13 患者やその家族が正しい情報を得られている

#### ① 状況

- ・県及び医療機関、マスコミ、患者等が協働して、正しい情報が患者や家族につたわるよう努めている状況である。

## ②取組

- ・ホームページや図書館等による様々な手段で情報提供を実施するとともに、パンフレット等を作成して科学的根拠に基づく情報提供を行った。

## ③課題

- ・引き続き、わかりやすく確実に伝わる情報提供を実施する必要がある。
- ・しまねのがんサポートブックは平成 25 年度に発行し、平成 28 年度に改訂した。更新情報は随時、県のホームページに掲載しているが、今後の方向性について検討が必要である。

## ウ) ピアサポートの充実

### [中間アウトカム]

14 患者やその家族がピアサポートを受けることで悩みが軽減できている

## ①状況

- ・患者やその家族がピアサポートを受けることで悩みが軽減できていることについて把握できる調査はコロナウィルス感染症の影響により未実施だが、ピアサポートを利用した患者家族からの「コロナ禍でも連絡を取り合い、励まし合っている」「気持ちを聴いてもらってらくになった」等の声が、各患者サロンやがん患者・家族サポートセンター等に寄せられている。

## ②取組

- ・ピアサポーター相談会の実施及び支援、がんサロン活動への支援、「小児がん経験者の親の交流会」の実施、遺伝性がんの当事者を対象とした講演会・意見交換会を実施し、ピアサポート（患者サロン・ピアサポーター相談会）の充実に取り組んだ。

## ③課題

- ・ピアサポーター相談会のピアサポーターは平成 24 年度から養成し、平成 26 年度から拠点病院等で相談会を実施すると共に、フォローアップ研修を行っている。最初の養成から 10 年を経て、ピアサポート（患者サロン・ピアサポーター相談会）の今後の方向性について検討が必要である。

## エ) がん患者が自分らしくあるための社会生活支援の充実

### [中間アウトカム]

15 患者の QOL が向上している

## ①状況

- ・アピアランスケア支援により、患者が自分らしく過ごせるように、また、患者と社会をつなぐように努めている状況である。

## ②取組



- ・ウィッグ・補整下着補助、外来化学療法室のパウダールームを設置したアピアランスケア支援、医療等の説明会実施等、患者の経済的問題の軽減やアピアランスケア支援（就労以外の充実）に取り組んだ。

### ③課題

- ・引き続き、アピアランスケア支援の取組が必要である。

## オ) ライフステージ別支援の実施

[中間アウトカム]

### 【小児・AYA】

- 16 患者や家族が相談できる環境が整っている
- 17 医療機関や相談支援センターが患者やその家族の悩みに対応できている
- 18 患者が療養生活において保育・教育を受けられる環境が整備されている

### 【働き盛り】

- 19 患者が療養生活と仕事を両立できている
- 20 患者の子ども等の悩みが軽減できている

### 【高齢者】

- 21 意思決定支援が可能となる方策の検討

### ①状況

#### 【小児・AYA】

- ・患者やその家族が抱える様々な疑問や不安について、相談できる環境の整備に取り組んでいる。
- ・小児・AYA世代のがん患者特有の不安や気がかりの軽減に向けた施策を実施している。
- ・教育支援フローを作成し、入院中の患者が遠隔授業を受けやすい体制整備に取り組んでいる。

#### 【働き盛り】

- ・がんと診断後も仕事を継続していたがん患者の割合は、約5割を占める。また、治療と仕事を両立するための勤務上の配慮がなされているがん患者の割合は、約6割を占める。
- ・医療機関や公的機関、民間等の様々な機関が一体となって子育て支援を実施している状況。

#### 【高齢者】

- ・地域包括ケア等で関係者が一体となって方策を検討し、支援に取り組んでいる状況。

### ②取組

#### 【小児・AYA】

- ・小児・AYA世代患者実態調査により小児・AYA世代の患者の実態を把握するとともに、小児・AYA世代のがん対策部会を開催し、施策を検討し

た。

- ・島根県がん・生殖医療ネットワークを構築し、妊孕性温存療法についての患者への情報提供体制や医療機関間の連携フローを整備し、助成事業の実施要綱等を検討した。
- ・高校生がん患者の教育支援検討会を開催し、入院中の高校生がん患者に対する遠隔授業実施の支援フローを検討、作成した。

#### 【働き盛り】

- ・両立支援相談会や就労相談会の実施、「事業場における治療と仕事の両立支援のためのガイドライン」の周知、事業場における両立支援の実態把握等に取り組んだ。
- ・「子どものAYA世代のサポートセンター」の設置やがんの親をもつ子ども達にたいして CLIMB プログラムを開催し、働き盛りの患者の子ども等に対する必要な支援に取り組んだ。

#### 【高齢者】

- ・マンガ「ACP＝人生会議って何だろう」の作成、認知症ケアチームや緩和ケアチーム等との連携による対応検討を実施し、認知症等を合併した患者に対する必要な支援に取り組んだ。

### ③課題

#### 【小児・AYA】

- ・引き続き、小児・AYA世代の患者の実態を把握するとともに、患者に必要な施策を検討する必要がある。
- ・妊孕性温存療法についての正しい情報の提供や医療連携が必要である。

#### 【働き盛り】

- ・患者の就労支援相談会等の利用を増やす取組が必要である。

#### 【高齢者】

- ・引き続き、アドバンス・ケアプラン(ACP)の普及啓発等の取組が必要である。

## (2) がんを正しく理解し、がんに向き合うためのがん教育（がん教育）

### ア) 子どもへのがん教育

[中間アウトカム]

22 県民ががんについて正しく理解している

23 県民が健康や命の大切さについて理解している

#### ① 状況

- ・がんについて学ぶことで、自他の健康と命の大切さに気付くことができるよう、学校でのがん教育の取組を推進している。

#### ② 取組

- ・がん教育を実施した小学校は約5割、中学校及び高等学校は約7割であった。
- ・がん教育外部講師養成研修の開催、各学校へ外部講師リストの配布を実施した。

#### ③ 課題

- ・学校でのがん教育の実施率増加に向けての取組が必要である。

### イ) 大人へのがん教育

[中間アウトカム]

24 県民ががんについて正しく理解している

25 県民が健康や命の大切さについて理解している

#### ① 状況

- ・子どもへのがん教育を通じた取組や、企業や各種団体と連携した取り組みを通じて、特に働き盛りである大人への社会教育を推進している。

#### ② 取組

- ・学校でのがん教育にあわせた保護者への公開授業の開催、ホームページ上の情報発信や県立図書館におけるがん関連図書の整備を実施した。

#### ③ 課題

- ・引き続きわかりやすく確実に伝わる情報提供を実施する必要がある。

## 2. 進捗状況の評価及び今後の取組

### (1) 患者・家族の治療や療養生活の悩みが軽減するための支援(患者家族支援)

[最終アウトカム]

5 患者とその家族の治療や療養生活の悩みが軽減している

自分らしい日常生活を送ることができていると感じる患者の割合は、約8割を占め、家族の悩みや負担を相談できる支援が十分あると感じている患者・家族の割合は、約5割を占めている。

また、新型コロナウイルス感染症の影響により患者サロンの開催が控えられつつある中においても、各患者サロン誌の発行や設立15周年のイベント開催など、患者家族及び医療機関等が連携して患者サロンを運営しているところである。

患者とその家族の治療や療養生活の悩みの軽減を図るため、各施策に取り組むとともに、以下について重点的に取り組む。

- ・しまねのがんサポートブックの方向性についての検討
- ・ピアサポート(患者サロン・ピアサポーター相談会)の方向性についての検討
- ・小児・AYA世代の患者の実態把握及び患者に必要な施策の検討
- ・妊孕性温存療法に関する情報提供
- ・web活用などの相談しやすい両立支援相談会等の開催方法の検討
- ・アドバンス・ケアプラン(ACP)の普及啓発等による意思決定支援の取組

### (2) がんを正しく理解し、がんに向き合うためのがん教育(がん教育)

[最終アウトカム]

6 県民が自分や身近な人ががんに罹患していてもそれを正しく理解し向き合っている

がんに対する偏見があると感じる患者の割合は、約1割を占め、周囲から不要な気遣いをされていると感じる患者の割合は、約1割を占めている。

子どもや大人へのさらなるがん教育を推進し、県民ががんを正しく理解し向き合うため、各施策に取り組むとともに、以下について重点的に取り組む。

- ・学校でのがん教育の実施
- ・わかりやすく確実に伝わる情報提供の実施



# 参 考 资 料



## 取組状況

(平成30年度～令和2年度)



## 取組状況 (H30～R2)

### 【全体目標 I】科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実 (1次予防、がん検診)

#### (1) がんの1次予防(発生リスクの低減) (1次予防)

【最終アウトカム1】がんに罹患する者が減っている

【中間アウトカム1】がんの発生リスクがあると科学的に実証されている生活習慣等が改善している

具体的施策	実施主体	重点施策	H30(2018)年度	R1(2019)年度	R2(2020)年度
			コロナの影響		
施策1 生活習慣のさらなる改善	県	—	・健康長寿しまね推進計画に基づき、生活習慣改善に関する取組を実施(県)	・健康長寿しまね推進計画に基づき、生活習慣改善に関する取組を実施(県)	・健康長寿しまね推進計画に基づき、生活習慣改善に関する取組を実施(県) ・しまね健康寿命延伸プロジェクトにおいて、「運動の促進」及び「食生活の改善」を重点に健康づくりの取組を強化(県)
施策2 喫煙・アルコール健康障がい対策のさらなる推進	県	—	・たばこ対策取組宣言団体や禁煙支援薬局登録拡大に向けた取組、世界禁煙デーに併せた街頭キャンペーンを実施した。 ・市町村と学校に受動喫煙防止対策状況調査を実施した。 ・各圏域でのイベントや広報誌等により適正飲酒の啓発に努めた。(県)	・たばこ対策取組宣言団体や禁煙支援薬局登録拡大に向けた取組、世界禁煙デーに併せた街頭キャンペーンを実施した。 ・市町村と学校に受動喫煙防止対策状況調査を実施した。 ・各圏域でのアルコール関連問題啓発週間におけるチラシの配布等や広報誌等により適正飲酒の啓発に努めた。(県)	・たばこ対策取組宣言団体や禁煙支援薬局登録拡大に向けた取組を実施した。 ・市町村と学校に受動喫煙防止対策状況調査を実施した。 ・各圏域でのアルコール関連問題啓発週間におけるチラシの配布等や広報誌等により適正飲酒の啓発に努めた。(県)
施策3 圏域では、罹患・死亡状況などから重点的に取り組むがん種を決定し、そのがんのリスクとなる生活習慣の改善に取り組む	県、市町村	重点施策	・圏域がん対策推進事業を実施 ・重点的に取り組むがん種 松江圏域：大腸がん、雲南圏域：大腸がん、出雲圏域：胃がん、肺がん 大田圏域：5大がん、浜田圏域：男性肺がん、女性乳がん、益田圏域：子宮頸がん、隠岐圏域：肺がん、大腸がん、乳がん(県・市町村)	・圏域がん対策推進事業を実施 ・重点的に取り組むがん種 松江圏域：大腸がん、雲南圏域：大腸がん、出雲圏域：胃がん、肺がん 大田圏域：5大がん、浜田圏域：男性肺がん、女性乳がん、益田圏域：子宮頸がん、隠岐圏域：肺がん、大腸がん、乳がん(県・市町村)	・圏域がん対策推進事業を実施 ・重点的に取り組むがん種 松江圏域：大腸がん、雲南圏域：大腸がん、出雲圏域：胃がん、肺がん 大田圏域：5大がん、浜田圏域：男性肺がん、女性乳がん、益田圏域：子宮頸がん、隠岐圏域：肺がん、大腸がん、乳がん(県・市町村)
施策4 事業所と連携した情報提供の実施	県	—	・優良事例について、ホームページや広報誌等へ掲載し周知した。 ・しまね☆まめなカンパニー登録事業所数：146事業所(県)	・優良事例について、ホームページや広報誌等へ掲載し周知した。 ・しまね☆まめなカンパニー登録事業所数：189事業所(県)	・優良事例について、ホームページや広報誌等へ掲載し周知した。 ・しまね☆まめなカンパニー登録事業所数：210事業所(県)

[中間アウトカム2] 感染症に起因したがんの発症を防ぐ取組を実施している

具体的施策		実施主体	重点施策	H30(2018)年度	R1(2019)年度	R2(2020)年度	コロナの影響
施策5	Ｂ型肝炎ワクチンの定期接種及び肝炎ウイルス検査の受診促進	県	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本肝炎デー（7/28）及び肝臓週間（7/23～7/29）がある7月を重点普及啓発月間として啓発を実施</li> <li>・肝炎の正しい知識や県による無料検査の実施、県ホームページへの掲載や松江城ブルーライトアップによりPR</li> <li>・出張肝炎無料検査・普及啓発イベント（出雲保健所と島根大学合同で開催）</li> <li>・街頭キャンペーン（イオンモール出雲）を患者団体と合同で実施</li> <li>・県民だよりへの掲載〈県〉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本肝炎デー（7/28）及び肝臓週間（7/22～7/28）がある7月を重点普及啓発月間として啓発を実施</li> <li>・肝炎の正しい知識や県による無料検査の実施、新聞や県ホームページ等への掲載によりPR</li> <li>・イオンモール出雲にて、街頭キャンペーンを患者団体と合同で行うとともに、併せて出張肝炎無料検査を実施</li> <li>・市民公開講座（島根大学医学部附属病院主催、くにびきメッセ）〈県〉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本肝炎デー（7/28）及び肝臓週間（7/22～7/28）がある7月を重点普及啓発月間として啓発を実施</li> <li>・肝炎の正しい知識や県による無料検査の実施、県ホームページ等への掲載によりPR</li> <li>・市民公開講座（島根大学医学部附属病院主催、web開催）</li> <li>【期間】令和2年12月11日～令和3年1月11日〈県〉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染防止の観点から街頭キャンペーン、出張肝炎無料検査を中止</li> <li>・市民公開講座をweb開催に変更して実施〈県〉</li> </ul>
施策6	子宮頸がん予防ワクチン接種への適切な対応	県、拠点病院	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国は平成25年6月、ワクチン接種後にワクチンとの因果関係が否定できない副反応事例報告があったため、事例を検証し適切な情報提供ができるまでの期間、積極的な接種勧奨を一時的に中止するとした</li> <li>・県内における予防接種後に生じた症状の診療については、島根大学医学部附属病院を協力医療機関に選定〈県、拠点病院〉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国は平成25年6月、ワクチン接種後にワクチンとの因果関係が否定できない副反応事例報告があったため、事例を検証し適切な情報提供ができるまでの期間、積極的な接種勧奨を一時的に中止</li> <li>・県内における予防接種後に生じた症状の診療については、島根大学医学部附属病院を協力医療機関に選定〈県、拠点病院〉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国は令和2年10月9日の通知により、ワクチン接種については依然として積極的な勧奨を差し控えている状況ではあるが、定期接種の対象者のうち希望者が定期接種を受けることができるよう、対象者等への周知等を行うとともに、接種機会の確保を図ることとした。</li> <li>・県内における予防接種後に生じた症状の診療については、島根大学医学部附属病院を協力医療機関に選定〈県、拠点病院〉</li> </ul>	
施策7	ヘリコバクター・ピロリ（ピロリ菌）への対策	県、拠点病院	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国の動向を注視した〈県〉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国の動向を注視した〈県〉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国の動向を注視した〈県〉</li> </ul>	
施策8	ヒトT細胞白血病ウイルス1型（HTLV-1）への対策	県、拠点病院	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成22年度から、各保健所及び拠点病院等に窓口を設置し、県民からの相談に対応〈県〉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成22年度から、各保健所及び拠点病院等に窓口を設置し、県民からの相談に対応〈県〉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成22年度から、各保健所及び拠点病院等に窓口を設置し、県民からの相談に対応〈県〉</li> </ul>	

(2) がんの2次予防（早期発見・早期受診）（がん検診）

[最終アウトカム2] がんに罹患した場合でも早期発見・早期受診につながっている

【ア 精度管理の徹底】

[中間アウトカム3] 科学的根拠に基づくがん検診（対策型検診）を精度管理の下で実施

具体的施策	実施主体	重点施策	H30(2018)年度	R1(2019)年度	R2(2020)年度	コロナの影響
施策9 県生活習慣病検診管理指導協議会における精度管理や事業評価の実施	県	-	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種がん部会を実施</li> <li>胃・大腸がん部会 (5/16)</li> <li>肺がん部会 (5/15)</li> <li>乳がん部会 (5/28)</li> <li>子宮がん部会 (5/23)</li> <li>子宮頸がん検診精度管理事業を実施〈県〉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種がん部会を実施</li> <li>胃・大腸がん部会 (8/7)</li> <li>肺がん部会 (1/25)</li> <li>乳がん部会 (3/24)</li> <li>子宮がん部会 (10/7)</li> <li>子宮頸がん検診精度管理事業を実施〈県〉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種がん部会をweb開催に変更して実施〈県〉</li> </ul>
施策10 がん検診従事者講習会やがん検診担当者会議の充実	県	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>島根県環境保健公社に委託</li> <li>乳がん検診精度管理講習会 (3/9)</li> <li>大腸がん従事者講習会 (3/17)</li> <li>担当者会議 (6/22)</li> <li>担当者研修会 (9/9)〈県〉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>島根県環境保健公社に委託</li> <li>乳がん検診精度管理向上講習会 (4/20)</li> <li>担当者会議&amp;研修会 (6/27)</li> <li>胃がん検診従事者講習会 (2/16)</li> <li>※コロナで中止…子宮頸がん検診従事者講習会、乳がん検診精度管理講習会〈県〉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>島根県環境保健公社に委託</li> <li>大腸がん検診従事者講習会 (2/14)</li> <li>子宮頸がん検診従事者講習会 (3/12)</li> <li>胃がん検診従事者講習会、乳がん検診精度管理向上講習会〈県〉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国一斉の緊急事態宣言発令により市町村のがん検診事業が一部中止、延期となったことから、委託先である島根県環境保健公社の検診業務が集中したため、担当者会議&amp;研修会、乳がん検診精度管理向上講習会を中止</li> <li>大腸がん検診従事者講習会、子宮頸がん検診従事者講習会は、webを併用したハイブリッド開催に変更して実施〈県〉</li> </ul>
施策11 指針に基づいたがん検診の実施および精度管理の向上	市町村	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> <li>市町村または圏域単位でがん検診の事業評価や精度管理向上に関する検討会を実施〈県〉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>がん検診担当者研修会 (6/27) で、国立がん研究センターから講師を招き「対策型検診としてのがん検診の在り方について」講演会実施〈県・市町村〉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子宮頸がん検診従事者講習会 (3/12) で、国際医療福祉大学三田病院予防医学センターから講師を招き、「子宮頸がん検診の精度管理とその課題-精検受診率を中心に、今何ができるか?-」講演会を実施し、対策型検診のイメージ共有を行った〈県・市町村・子宮頸がん検診従事者〉</li> </ul>	

具体的施策		実施主体	重点施策	H30(2018)年度	R1(2019)年度	R2(2020)年度	
						コロナの影響	
施策12	検診の質の向上	検診機関	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種がん検診の読影・判定について、技量の維持・向上を図るために設置した読影委員会研修会を医療機関、行政機関の医療従事者や担当者等に対して検診の技術・知識などを習得する機会として提供した。以下の研修会を実施した 胃がん集団検診特別読影委員会研修会 肺がん・結核検診読影委員会研修会 乳がんマンモグラフィ検診読影委員会研修会等</li> <li>職員の技術に係わる精度の保証を確認し、維持向上を図るために日本医師会、結核予防会、全国労働衛生団体連合会など第三者機関が実施する各種の精度管理調査に参加し、精度管理に努めた〈島根県環境保健公社〉</li> <li>胃：読影委員会の開催(1回/年)、専門技師および認定医の資格取得、各学会への参加</li> <li>肺：読影委員会の開催(1回/年)</li> <li>乳：読影委員会の開催(1回/年)、施設認定の取得(外部評価)、認定技師および認定医の資格取得、各学会への参加</li> <li>大腸：精度管理委員会(1回/年)、外部精度管理への参加〈島根厚生農業協同組合連合会〉</li> <li>外部・内部精度管理に実施 講習会等への参加による技師のスキルアップ〈ヘルスサイエンスセンター島根〉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種がん検診の読影・判定について、技量の維持・向上を図るために設置した読影委員会研修会を医療機関、行政機関の医療従事者や担当者等に対して検診の技術・知識などを習得する機会として提供した</li> <li>以下の研修会を実施した(2月以降は新型コロナウイルス対応のため一部中止)</li> <li>職員の技術に係わる精度の保証を確認し、維持向上を図るために日本医師会、結核予防会、全国労働衛生団体連合会など第三者機関が実施する各種の精度管理調査に参加し、精度管理に努めた〈環境保健公社〉</li> <li>読影委員会開催(乳がん)※肺、胃がんは新型コロナウイルス感染防止のため中止(資料提供のみ)</li> <li>学会への参加</li> <li>研修会への参加</li> <li>外部精度管理への参加〈JA島根厚生連〉</li> <li>学会・講習会への参加</li> <li>外部精度管理への参加〈ヘルスサイエンスセンター島根〉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①各種がん検診の読影・判定について、技量の維持・向上を図るために設置した読影委員会研修会を医療機関、行政機関の医療従事者や担当者等に対して検診の技術・知識などを習得する機会として提供した。以下の研修会を実施した 胃がん集団検診特別読影委員会研修会 肺がん・結核検診読影委員会研修会</li> <li>②職員の技術に係わる精度の保証を確認し、維持向上を図るために日本医師会、結核予防会、全国労働衛生団体連合会など第三者機関が実施する各種の精度管理調査に参加し、精度管理に努めた〈環境保健公社〉</li> <li>外部精度管理への参加 (日本医師会、日本臨床検査技師会、島根県臨床検査技師会主催)</li> <li>学会・講習会へのWeb参加〈ヘルスサイエンスセンター島根〉</li> <li>読影委員会開催(乳がん)※肺、胃がんは新型コロナウイルス感染防止のため判定医毎に個別に実施</li> <li>学会への参加</li> <li>研修会への参加</li> <li>外部精度管理への参加</li> <li>精度管理委員会の開催〈JA島根厚生連〉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>県外の研修会は新型コロナウイルス感染症予防対策のため参加を見送った。(Web開催であったものは参加)〈環境保健公社〉</li> <li>新型コロナウイルス感染症拡大のため、学会、講習会などが一部のWeb開催のみとなり、知識や技術を習得する機会が少なかった。 〈ヘルスサイエンスセンター島根〉</li> <li>胃がん、肺がんの読影医師委員会は判定医が一同に会って実施することができなかった〈JA島根厚生連〉</li> </ul>
施策13	効果的ながん検診を実施するためのデータ収集・分析の実施	県	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>がん検診の事業評価や効果的な事業の企画立案のために必要な各データの集計・分析・提供を実施〈県〉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>がん検診の事業評価や効果的な事業の企画立案のために必要な各データの集計・分析・提供を実施〈県〉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>がん検診の事業評価や効果的な事業の企画立案のために必要な各データの集計・分析・提供を実施〈県〉</li> </ul>	
施策14	圏域では、罹患・死亡状況などから重点的に取り組むがん種を決定し、それに対応したがん検診の精度管理を実施	県、市町村	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> <li>圏域がん対策推進事業を実施〈県、市町村〉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>圏域がん対策推進事業を実施〈県、市町村〉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>圏域がん対策推進事業を実施〈県、市町村〉</li> </ul>	

【イ 働き盛り世代への受診率向上対策】

【中間アウトカム4】働き盛り世代の検診受診率が向上している

具体的施策	実施主体	重点施策	H30(2018)年度	R1(2019)年度	R2(2020)年度		
						コロナの影響	
施策15 検診の実施を把握し、その結果から効果的な検診体制の整備を実施	県	—	・ 島根県がん検診実施体制調査を実施<県>				
施策16 働き盛り世代に対し、かかりつけ医からの受診勧奨を実施	県	重点施策	・ 医受診勧奨リーフレットを作成、かかりつけ医からの受診勧奨を実施 配布先：419医療機関<県>	・ 医受診勧奨リーフレットを作成、かかりつけ医からの受診勧奨を実施 配布先：293医療機関<県>			
施策17 がん検診と特定健診の同時受診の促進を図る	市町村、協会けんぽ	—	・ 二つの健診期間が県内各地で実施する集団検診にがん検診をセットし、保険者協議会作成のチラシを通じて案内した（被扶養者） ・ 協会けんぽ島根支部において、がん検診受診啓発のチラシを作成し、案内した（被扶養者） ・ 特定健診とがん検診が同時に受診できる「特定健診セット」を県内26健診機関と契約し、案内した（被扶養者） ・ 特定健診にがん検診をセットした「生活習慣病予防健診」を案内した（被保険者：35歳以上）<全国健康保険協会島根支部（協会けんぽ）>	・ 特定健診にがん検診をセットした「生活習慣病予防健診」の実施（被保険者：35歳以上） ・ 協会けんぽが主催する集団健診に、※市町村のがん検診をセットして実施（被扶養者）※調整のうえ実施可能だった市町村のみ ・ 協会けんぽ島根支部において、特定健診の案内パンフレット内にごがん検診の受診啓発と市町村の担当窓口を記載（被扶養者） ・ 特定健診とがん検診が同時に受診できる「家族のためのがん検診パック」を県内26健診機関で実施（被扶養者）<全国健康保険協会島根支部（協会けんぽ）>	・ 特定健診にがん検診をセットした「生活習慣病予防健診」の実施（被保険者：35歳以上） ・ 協会けんぽが主催する集団健診に、市町村のがん検診をセットして実施（調整のうえ実施可能だった市町村のみ実施）（被扶養者） ・ 協会けんぽ島根支部において、特定健診の案内パンフレット内にごがん検診の受診啓発と市町村の担当窓口を記載（被扶養者） ・ 特定健診とがん検診が同時に受診できる「家族のためのがん検診パック」を県内28健診機関で実施（被扶養者）<全国健康保険協会島根支部（協会けんぽ）>	・ 「生活習慣病予防健診」は、実施できない期間もあり前年に比べ受診数が減少 ・ 「がん検診パック」もコロナの影響かどうかの検証はできていないが、受診数は減少（全国健康保険協会島根支部（協会けんぽ））	
施策18 (再掲：施策4) 事業所と連携した情報提供の実施	県	—	(再掲：施策4)	(再掲：施策4)	(再掲：施策4)		
施策19 SNSを利用した若い世代に向けた子宮頸がん検診受診率向上対策	県	—	—	—	・ YouTubeやLINEによる啓発動画の配信を検討<県>		
施策20 圏域では、罹患・死亡状況などから重点的に取り組むがん種を決定し、そのがん検診の受診率向上対策を実施	県、市町村	重点施策	・ 圏域がん対策推進事業を実施<県>	・ 圏域がん対策推進事業を実施<県・市町村>	・ 圏域がん対策推進事業を実施<県・市町村>		

## 【全体目標Ⅱ】患者本位で将来にわたって持続可能なしまねらしいがん医療の実現（がん医療、緩和ケア）

### （１）どこにいても安心してがん医療が受けられる体制の構築（がん医療）

【最終アウトカム3】県内どこに住んでいても安心してがん医療が受けられている

【中間アウトカム5】拠点病院体制を維持し、患者が適切ながん医療を受けられている

具体的施策	実施主体	重点施策	H30(2018)年度	R1(2019)年度	R2(2020)年度	コロナの影響
施策21 拠点病院体制の維持及び質の向上に必要な施策の実施	県	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> <li>がん診療連携拠点病院機能強化補助金の交付対象病院：松江市立病院、松江赤十字病院、県立中央病院</li> <li>補助率等：国1/2、県1/2</li> <li>補助額：31,157千円（3病院）〈県〉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>がん診療連携拠点病院機能強化補助金の交付対象病院：松江市立病院、松江赤十字病院、県立中央病院</li> <li>補助率等：国1/2、県1/2</li> <li>補助額：29,350千円（3病院）〈県〉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>がん診療連携拠点病院機能強化補助金の交付対象病院：松江市立病院、松江赤十字病院、県立中央病院</li> <li>補助率等：国1/2、県1/2</li> <li>補助額：31,500千円（3病院）〈県〉</li> </ul>	
施策22 拠点病院における連携体制の強化及び医療提供体制の質の向上（都道府県拠点病院）	島根大学医学部附属病院	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> <li>島根県がん診療ネットワーク協議会およびがん診療部会、がん登録部会、がん相談実務担当者会等を主催し連携体制、医療機能の質の向上を図った</li> <li>また、各分野における医療従事者研修会を開催し人材養成を図った〈島根大学医学部附属病院〉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>島根県がん診療ネットワーク協議会等を開催し、病院間の連携体制、医療機能の質の向上を図った</li> <li>また、各分野における医療従事者研修会を開催し、県内病院の人材養成を図った</li> <li>島根県がん診療ネットワーク協議会（2/5）</li> <li>がん相談実務担当者会（6/10、1/23）</li> <li>がん診療部会（11/19）</li> <li>がん登録部会（12/20）〈島根大学医学部附属病院〉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>島根県がん診療ネットワーク協議会及び各部会の開催</li> <li>がん相談実務担当者会（7/3、3/8）</li> <li>がん登録部会（12/9）</li> <li>がん診療部会（1/25）</li> <li>島根県がん診療ネットワーク協議会（3/19）</li> <li>県内医療機関に所属する職員等を対象に医療従事者研修会の開催</li> <li>がん医療従事者研修会（7/31、9/4、11/13、1/26、3/4）〈島根大学医学部附属病院〉</li> </ul>	

具体的施策	実施主体	重点施策	H30(2018)年度	R1(2019)年度	R2(2020)年度	
			コロナの影響			
<p>施策 23 拠点病院における連携体制の強化及び医療提供体制の質の向上(地域拠点病院)</p>	<p>松江市立病院、松江赤十字病院、県立中央病院、浜田医療センター</p>	<p>重点施策</p>	<p>・緩和ケア多職種カンファレンスコア委員会を開催し、地域との連携推進のために院内・外の医療・介護等の関係者(ケアマネージャー協会、在宅医療・在宅介護連携支援センター(社協))間で情報共有・意見交換を行っている</p> <p>・松江市立病院主催の研修会 松江市立病院地域連携講演会(7/19開催) 在宅緩和ケア多職種カンファレンス講演会2回(10/18、31年3/4開催) 松江市立病院公開セミナー(11/1開催、子宮頸がんの現状・精度の高いがん検診にむけて)</p> <p>・「診療のご案内」を作成・配布(松江市立病院)</p> <p>・緩和ケアシンポジウム、がんバスの活用(新規適用件数:30件)、緩和ケア地域連携バスの活用(新規適用件数:54件)、化学療法研究会、緩和ケア地域連携検討会(研修会)、がんバスに関する勉強会の開催、病院と地域医療機関が連携し、治療可能な癌がんの発見、治療成績向上を目指す、癌がんプロジェクトへの協力(松江赤十字病院)</p> <p>・がんバスを用いて、患者の便宜を図る(県立中央病院)</p> <p>・他施設合同会議を開催した(浜田医療センター)</p>	<p>・緩和ケア多職種カンファレンスコア委員会を開催し、地域との連携推進のために院内・外の医療・介護等の関係者(ケアマネージャー協会、在宅医療・在宅介護連携支援センター(社協))間で事例検討・情報共有・意見交換を行っている</p> <p>・松江市立病院主催の研修会 がん診療連携拠点病院医療従事者研修会(7/25開催) 在宅緩和ケア多職種カンファレンス研修会(R2・2/20開催)</p> <p>・スムーズな地域連携に向けた「診療のご案内」の作成・配布</p> <p>・地域連携バスの活用(がんバス、緩和ケアバス)</p> <p>・松江保健所主催の松江圏域緩和ケア事例検討会への参加・協力(松江市立病院)</p> <p>・緩和ケア地域連携検討会(研修会)(1/30)、化学療法研究会(1/16)の開催(緩和ケアシンポジウムを3/12に開催予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大により中止)</p> <p>・五大病がんクリティカルバス、緩和ケア地域連携バスの活用 がんバス(新規適用件数:39件) 緩和ケアバス(新規適用件数:47件)</p> <p>・地域の診療所を訪問し、がん患者の在宅療養の課題等を共有</p> <p>・新規開業した診療所に訪問</p> <p>・がんバスに関する勉強会の開催</p> <p>・病院と地域医療機関が連携し、治療可能な癌がんの発見、治療成績向上を目指す、癌がんプロジェクトへの協力(松江赤十字病院)</p> <p>・がんバスを用いて、患者の便宜を図った(県立中央病院)</p>	<p>・緩和ケア多職種カンファレンスコア委員会を開催し、地域との連携推進のために院内・外の医療・介護等の関係者(ケアマネージャー協会、在宅医療・在宅介護連携支援センター(社協))間で事例検討・情報共有・意見交換を行っている</p> <p>・松江市立病院主催の研修会 がん診療連携拠点病院医療従事者研修会(R3.2/25開催) 在宅緩和ケア多職種カンファレンス研修会(12/3開催)</p> <p>・スムーズな地域連携に向けた「診療のご案内」の作成・配布</p> <p>・地域連携バスの活用(がんバス、緩和ケアバス)</p> <p>・松江保健所主催の松江圏域緩和ケア事例検討会への参加・協力(松江市立病院)</p> <p>・緩和ケア地域連携検討会(研修会)を開催し、地域と連携して患者が希望する場所で生活ができる支援・連携について意見交換を行っている。隠岐圏域の他職種とまめネットでのオンライン開催を行った(10/30)</p> <p>・化学療法研究会(1/15)の開催(現地開催とWeb配信のハイブリット開催)</p> <p>・がんゲノム医療カンファレンスの開催(7/31、12/10)</p> <p>・がんゲノム医療に関する研修の開催</p> <p>・五大病がんクリティカルバス、緩和ケア地域連携バスの活用 がんバス(新規適用件数:54件) 緩和ケアバス(新規適用件数:43件)</p> <p>・地域の診療所を訪問し、がん患者の在宅療養の課題等を共有</p> <p>・新規開業した診療所に訪問</p> <p>・がんバスに関する勉強会の開催(12/4)及び、がんバスを用いる協力機関の訪問</p> <p>・病院と地域医療機関が連携し、治療可能な癌がんの発見、治療成績向上を目指す、癌がんプロジェクトへの協力</p> <p>・まめネットWeb会議サービスを活用した、転院及び自宅退院患者のカンファレンスの開催(隠岐圏域、安来圏域、及び市内の訪問看護ステーション)(松江赤十字病院)</p> <p>・がんバスを用いて、患者の便宜を図った(県立中央病院)</p>	<p>・WEB会議システムを使用し、院外講師による研修会を行った(在宅緩和ケア他職種カンファレンス研修会)(松江市立病院)</p> <p>・緩和ケア地域連携検討会(研修会)(10/30)を、隠岐圏域とのWeb中継にて開催した</p> <p>・化学療法研究会(1/15)において、現地開催の他にWeb配信も行った</p> <p>・新型コロナウイルス感染症対策のため、転院及び自宅退院患者のカンファレンスを、対面のほかオンラインでも開催した(松江赤十字病院)</p>

具体的施策	実施主体	重点施策	H30(2018)年度	R1(2019)年度	R2(2020)年度
			コロナの影響		
施策24 <b>【新規】</b> がんゲノム医療体制の整備	県、島根大学医学部附属病院、松江市立病院、松江赤十字病院、県立中央病院	<b>重点施策</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・がんゲノム医療連携病院が整備された〈島根大学医学部附属病院、松江市立病院、松江赤十字病院、県立中央病院〉</li> <li>・ホームページにがんゲノム医療に関する情報を掲載〈島根大学医学部附属病院、松江市立病院、松江赤十字病院、県立中央病院〉</li> <li>・遺伝子パネル検査に関する院内講演会を行った。</li> <li>・遺伝相談外来において遺伝性疾患に対するカウンセリングを行っている。〈松江赤十字病院〉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・がんゲノム医療連携病院に指定〈島根大学医学部附属病院、松江市立病院、松江赤十字病院、県立中央病院〉</li> <li>・がんゲノム医療に関する講演を実施〈県立中央病院〉</li> <li>・遺伝相談外来において遺伝性疾患に対するカウンセリングを行っている。〈松江赤十字病院〉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・がんゲノム医療に関する講演を実施〈島根大学医学部附属病院、松江市立病院〉</li> <li>・2020年4月がん遺伝子パネル検査を開始〈松江市立病院〉</li> <li>・ゲノム診療科を創設。がんゲノム医療連携病院としての体制を整備した。</li> <li>・遺伝子パネル検査を導入し、先進医療、治験による治療に取り組んでいる。</li> <li>・がんゲノム医療カンファレンスの開催(7/31、12/10)</li> <li>・がんゲノム医療に関する研修会の開催。</li> <li>・がん遺伝子パネル検査についてのパンフレットを作成</li> <li>・遺伝性乳がん・卵巣がん当事者会の協力を得て、遺伝性がんの当事者を対象にした講演会をオンラインで開催し、双方での意見交換を行った。</li> <li>・遺伝性乳がん・卵巣がん当事者会の協力を得て、当事者が家族らにあてた手紙を紹介する写真パネル展を実施し、当事者のかたへの支援や社会への啓発活動を行った。〈松江赤十字病院〉</li> </ul>



[中間アウトカム6] 拠点病院と地域の病院等の機能分担による連携強化が図られている

具体的施策	実施主体	重点施策	H30(2018)年度	R1(2019)年度	R2(2020)年度	
						コロナの影響
施策25 益田赤十字病院の地域がん診療病院指定に向けた支援の実施	県	重点施策				
施策26 (再掲：施策22) 拠点病院における連携体制の強化及び医療提供体制の質の向上(都道府県拠点病院)	島根大学医学部附属病院	重点施策	(再掲：施策22)	(再掲：施策22)	(再掲：施策22)	(再掲：施策22)
施策27 (再掲：施策23) 拠点病院における連携体制の強化及び医療提供体制の質の向上(地域拠点病院)	松江市立病院、松江赤十字病院、県立中央病院、浜田医療センター	重点施策	(再掲：施策23)	(再掲：施策23)	(再掲：施策23)	(再掲：施策23)
施策28 病院間や病院と診療所・介護施設等の連携強化(拠点病院から地域の病院へ患者が紹介される取り組みへの支援)	県、島根大学医学部附属病院	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>・島根県がん診療ネットワーク協議会がん診療部会(11/12)〈島大〉</li> <li>・地域連携バスを活用し患者が望む地域医療機関への紹介を行った</li> <li>・外来通院患者からの在宅療養の相談に対し、地域の病院または在宅診療支援診療所の紹介、連携の実施を実施した〈島根大学医学部附属病院〉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域連携バスを活用し、患者が望む地域医療機関への紹介を行なった</li> <li>・外来通院患者からの在宅療養の相談に対し、地域の病院または在宅診療支援診療所の紹介、連携を実施した〈島根大学医学部附属病院〉</li> <li>・島根県がん診療ネットワーク協議会がん診療部会(11/19)〈島大〉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・がん診療ネットワーク協議会がん診療部会を開催した。(1/25)</li> <li>・地域連携バスを活用し、患者が望む地域の医療機関への紹介を行なった。外来通院患者からの在宅療養の相談に対し、地域の在宅診療所等の紹介、連携を行った〈島根大学医学部附属病院〉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会議の開催については、オンラインによる開催〈島根大学医学部附属病院〉</li> </ul>

具体的施策	実施主体	重点施策	H30(2018)年度	R1(2019)年度	R2(2020)年度	
			コロナの影響			
<p>施策 29</p> <p>病院間や病院と診療所・介護施設等の連携強化(地域の病院におけるがんチーム医療の向上)</p>	<p>県、拠点病院</p>	<p>重点 施策</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・がんチーム医療づくり推進事業委託 対象病院：雲南市立、町立奥出雲、飯南、公立邑智、隠岐、隠岐島前(6病院) 委託金額：2,554千円余(県)</li> <li>・島根県主催の事例検討会への参加と協力</li> <li>・緩和ケア研修会(8/26開催)</li> <li>・松江市立病院地域連携講演会(7/19開催)</li> <li>・在宅緩和ケア多職種カンファレンス講演会2回(10/18、31年3/4開催)</li> <li>・E L N E C研修会(11/3～11/4開催)〈松江市立病院〉</li> <li>・国立がん研究センター、県内の拠点病院、行政、がんサバイバーと離島におけるがん患者のがんととの共生について学び語り合うイベントの実施。</li> <li>・緩和ケア研修会の開催。</li> <li>・松江保健所主催の松江圏域緩和ケア事例検討会への参加・協力。</li> <li>・ELNIC-Jコアカリキュラム看護師教育プログラム研修の開催</li> <li>・〈松江赤十字病院〉</li> <li>・地域のがんチーム医療のレベルアップを目的とした研修を実施するため、国立がん研究センターで開催されたがん化学療法医療チーム指導者養成研修に参加し、指導者としてのスキルアップを図った〈島根大学医学部附属病院〉</li> <li>・PCAポンプ研修会の実施</li> <li>・がんバスを利用し、地域の病院と連携を行う〈県立中央病院〉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・がんチーム医療づくり推進事業委託 対象病院：雲南市立、町立奥出雲、飯南、公立邑智、隠岐(5病院) 委託金額：1,711千円余</li> <li>※町立奥出雲は新型コロナによる中止等で実績なし(県)</li> <li>・地域のがんチーム医療のレベルアップを目的とした研修を実施するため、国立がん研究センターで開催される指導者養成研修に職員を参加させ、指導者としてのレベルアップを図った〈島根大学医学部附属病院〉</li> <li>・松江保健所主催の松江圏域緩和ケア事例検討会への参加・協力</li> <li>・緩和ケア研修会(がんに関わる医療従事者のための研修会)(9/1開催)</li> <li>・がん診療連携拠点病院医療従事者研修会(7/25開催)</li> <li>・在宅緩和ケア多職種カンファレンス研修会(R2・2/20開催)</li> <li>・E L N E C研修会(9/21・9/22開催)〈松江市立病院〉</li> <li>・緩和ケア研修会の開催。</li> <li>・松江保健所主催の松江圏域緩和ケア事例検討会への参加・協力。〈松江赤十字病院〉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・がんチーム医療づくり推進事業委託 対象病院：雲南市立、飯南、公立邑智、隠岐(4病院) 委託金額：42千円余</li> <li>※公立邑智、隠岐は新型コロナによる中止等で実績なし(県)</li> <li>・松江保健所主催の松江圏域緩和ケア事例検討会への参加・協力</li> <li>・緩和ケア研修会(がんに関わる医療従事者のための研修会)(10/24開催)</li> <li>・がん診療連携拠点病院医療従事者研修会(R3・2/25開催)</li> <li>・在宅緩和ケア多職種カンファレンス研修会(12/3開催)</li> <li>・E L N E C研修会(11/7・11/8開催)〈松江市立病院〉</li> <li>・緩和ケア地域連携検討会(10/30)にて、隠岐圏域の病院と、在宅での看取りにおける介護、医療における役割分担について検討を行った。</li> <li>・緩和ケア研修会(がんに関わる医療従事者のための研修会)(2/20)</li> <li>・まめネットWeb会議サービスを活用して転院及び自宅退院患者のカンファレンスを開催し、双方の医療機関のがんチームのレベルアップをはかった。(隠岐圏域、安来圏域、及び市内の訪問看護ステーション)</li> <li>・島根県がん診療ネットワーク会議(2/5)への参加</li> <li>・松江市乳がん検診検討会(2/7)への参加</li> <li>・島根県生活習慣病検診管理指導協議会乳がん部会(3/24)への参加〈松江赤十字病院〉</li> <li>・地域のがんチーム医療のレベルアップを目的とした研修を実施するため、国立がん研究センターで開催される指導者養成研修に職員を参加させ、指導者としてのレベルアップを図った〈島根大学医学部附属病院〉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナの影響により、事業を中止(公立邑智、隠岐)</li> <li>・県外から講師を招く予定であった研修会を中止(雲南市立病院)</li> <li>・院外研修を院内でのオンライン研修に変更(飯南病院)</li> <li>・WEB会議システムを使用し、院外講師による研修会を行った(在宅緩和ケア他職種カンファレンス研修会)〈松江市立病院〉</li> <li>・緩和ケア地域連携検討会(研修会)(10/30)を、隠岐圏域とのWeb中継にて開催した。</li> <li>・転院及び自宅退院患者のカンファレンスを、対面のほかオンラインでも開催した〈松江赤十字病院〉</li> <li>・参加を予定していたにも関わらず中止になった研修もあったが、オンラインで開催されたことにより、移動に要する時間・費用が不要となり、参加しやすいというメリットもあった〈島根大学医学部附属病院〉</li> </ul>

具体的施策	実施主体	重点施策	H30(2018)年度	R1(2019)年度	R2(2020)年度	コロナの影響
施策30 病院間や病院と診療所・介護施設等の連携強化（診療所や介護施設等の連携体制を強化する事業の実施・検討）	県、拠点病院	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>緩和ケア多職種カンファレンスコア委員会を開催し、地域との連携推進のために院内・外の医療・介護等の関係者（ケアマネージャー協会、在宅医療・在宅介護連携支援センター（社協））間で情報共有・意見交換を行っている（松江市立病院）</li> <li>未実施（益田赤十字病院）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>出雲圏域では「しまね治験ネット」を活用し、県立中央病院と連携しており、さらなる治験の効率化と迅速化を図っている</li> <li>また、地域の医療機関へ向けて本院が行なっている先進的な医療について広報誌を送付し、周知を図っている（島根大学医学部附属病院）</li> <li>地域連携係が担当となり、セカンドオピニオン・紹介患者の受診調整及び支援している</li> <li>ゲノム診療部を創設し体制整備、R2年1月がんゲノム医療連携病院に指定（松江市立病院）</li> <li>遺伝子パネル検査を導入し、先進医療、治験による治療に取り組む（松江赤十字病院）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域連携係が担当となり、セカンドオピニオン・紹介患者の受診調整及び支援している</li> <li>ゲノム診療部を創設し体制整備、R2年1月がんゲノム医療連携病院に指定（松江市立病院）</li> <li>ゲノム診療科を創設。がんゲノム医療連携病院としての体制を整備した。</li> <li>遺伝子パネル検査を導入し、先進医療、治験による治療に取り組んでいる</li> <li>月に1～2回、岡山大学病院のWebカンファレンスに出席</li> <li>妊孕性温存を希望する患者について、対応可能な医療機関へ紹介して支援している</li> <li>適応外薬や未承認薬の使用を検討する審査委員会を設置し、臨床研究の実施内容をHPで情報公開している（松江赤十字病院）</li> </ul>	
				<ul style="list-style-type: none"> <li>出雲圏域では「しまね治験ネット」を活用し、県立中央病院と連携しており、さらなる治験の効率化と迅速化を図っている</li> <li>また、地域の医療機関へ向けて本院が行なっている先進的な医療について広報誌を送付し、周知を図った（島根大学医学部附属病院）</li> </ul>		

[中間アウトカム7] 高度な医療等へのアクセスが可能になっている

具体的施策	実施主体	重点施策	H30(2018)年度	R1(2019)年度	R2(2020)年度	コロナの影響
<p>施策31 高度な医療や県外での治療等へのアクセスが可能となる事業の検討</p>	<p>県、拠点病院</p>	<p>—</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域連携係が担当となり、セカンドオピニオン・紹介患者の受診調整及び支援している&lt;松江市立病院&gt;</li> <li>・ホームページ、がん相談支援センターによる情報提供&lt;松江赤十字病院&gt;</li> <li>・病院のホームページで実施している臨床研究や治験の情報公開している</li> <li>・出雲圏域においては「しまね治験ネット」を活用し、島根県立中央病院と連携し、治験の効率化と迅速化を図っている</li> <li>・また、毎月病院ニュースを発行・配布し先端技術等を紹介している&lt;島根大学医学部附属病院&gt;</li> <li>・ホームページを用いて、治療内容を掲示する&lt;県立中央病院&gt;</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出雲圏域では「しまね治験ネット」を活用し、県立中央病院と連携しており、さらなる治験の効率化と迅速化を図っている</li> <li>・また、地域の医療機関へ向けて本院が行なっている先進的な医療について広報誌を送付し、周知を図っている&lt;島根大学医学部附属病院&gt;</li> <li>・地域連携係が担当となり、セカンドオピニオン・紹介患者の受診調整及び支援している</li> <li>・ゲノム診療部を創設し体制整備、R2年1月がんゲノム医療連携病院に指定&lt;松江市立病院&gt;</li> <li>・遺伝子パネル検査を導入し、先進医療、治験による治療に取り組む&lt;松江赤十字病院&gt;</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域連携係が担当となり、セカンドオピニオン・紹介患者の受診調整及び支援している</li> <li>・ゲノム診療部を創設し体制整備、R2年1月がんゲノム医療連携病院に指定&lt;松江市立病院&gt;</li> <li>・ゲノム診療科を創設。がんゲノム医療連携病院としての体制を整備した</li> <li>・遺伝子パネル検査を導入し、先進医療、治験による治療に取り組んでいる</li> <li>・月に1~2回、岡山大学病院のWebカンファレンスに出席</li> <li>・妊孕性温存を希望する患者について、対応可能な医療機関へ紹介して支援している</li> <li>・適応外薬や未承認薬の使用を検討する審査委員会を設置し、臨床研究の実施内容をHPで情報公開している&lt;松江赤十字病院&gt;</li> <li>・出雲圏域では「しまね治験ネット」を活用し、県立中央病院と連携しており、さらなる治験の効率化と迅速化を図っている</li> <li>・また、地域の医療機関へ向けて本院が行なっている先進的な医療について広報誌を送付し、周知を図った&lt;島根大学医学部附属病院&gt;</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緩和ケア地域連携検討会(研修会)(10/30)を、隠岐圏域とのWeb中継にて開催した&lt;松江赤十字病院&gt;</li> <li>・4~6月は開催自体を中止したが、7~3月は、その時々に応じてオンラインのみまたは感染対策を十分に施して対面により開催をした&lt;島根大学医学部附属病院&gt;</li> <li>・コロナ禍で外部との会合がしづらい状況となっている&lt;益田赤十字病院&gt;</li> </ul>
<p>施策32 <b>【新規】</b> (再掲：施策24) がんゲノム医療体制の構築</p>	<p>県、島根大学医学部附属病院、松江赤十字病院、県立中央病院</p>	<p>重点施策</p>	<p>(再掲：施策24)</p>	<p>(再掲：施策24)</p>	<p>(再掲：施策24)</p>	<p>(再掲：施策24)</p>
<p>施策33 <b>【新規】</b> 【小児・AYA】生殖機能の温存等に関する施策の実施</p>	<p>県、拠点病院等</p>	<p>重点施策</p>	<p>市民公開講座で、疾患の特徴、体験談、支援制度など多面的な情報提供、周知を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・妊孕性温存治療を希望する患者について、対応可能な医療機関へ紹介して支援している。</li> </ul> <p>&lt;松江赤十字病院&gt;</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・妊孕性温存治療を希望する患者について、対応可能な医療機関へ紹介して支援している。</li> </ul> <p>&lt;松江赤十字病院&gt;</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・島根県がん・生殖医療ネットワークの構築に向けた準備&lt;県、拠点病院等&gt;</li> <li>・妊孕性温存療法に係る助成事業の実施要綱等の作成&lt;県&gt;</li> </ul>	

## (2) 切れ目のない緩和ケアの提供 (緩和ケア)

[最終アウトカム4] 患者やその家族の痛みやつらさが緩和され、生活の質が向上している

[中間アウトカム8] がん診療に携わるすべての医療・介護従事者が患者とその家族の身体的・精神的・心理社会的痛みに対応できている

具体的施策	実施主体	重点施策	H30(2018)年度	R1(2019)年度	R2(2020)年度	コロナの影響
<p>施策34 患者とその家族に関わる医療・介護従事者のより一層の人材育成(緩和ケアに係る研修会)</p>	<p>県拠点病院</p>	<p>—</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>緩和ケア研修会(8/26開催)</li> <li>松江市立病院地域連携講演会(7/19開催)</li> <li>在宅緩和ケア多職種カンファレンス講演会2回(10/18, 31年3/4開催)〈松江市立病院〉</li> <li>緩和ケア研修会の開催</li> <li>緩和ケア地域連携検討会(研修会)の開催</li> <li>緩和ケア・がん看護基礎コース研修(5月~9月)、がん看護におけるコミュニケーション研修の開催、ELNIC-Jコアカリキュラム看護師教育プログラム研修の開催</li> <li>国立がん研究センター主催の地域緩和ケア連携調整員研修(2/17~2/18)への参加</li> <li>国立がん研究センター主催の地域緩和ケア連携調整員フォローアップ研修(10/28)への参加〈松江赤十字病院〉</li> <li>医学部附属病院緩和ケア研修会を開催した(2018/7/8)受講者36名〈島根大学医学部附属病院〉</li> <li>国が定める「がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会の開催指針」に基づく緩和ケア研修会を開催(平成30年9月30日開催)〈県立中央病院〉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>緩和ケア研修会の開催(拠点病院主催計5回)                             <ul style="list-style-type: none"> <li>受講者数: 医師89名、医師以外42名〈県・拠点病院〉</li> </ul> </li> <li>医学部附属病院緩和ケア研修会を開催した(8/18)                             <ul style="list-style-type: none"> <li>受講者25名(医師22名、医師以外3名)〈島根大学医学部附属病院〉</li> </ul> </li> <li>がん診療連携拠点病院医療従事者研修会(7/25開催)</li> <li>在宅緩和ケア多職種カンファレンス研修会(R2・2/20開催)</li> <li>緩和ケア研修会(がんに関わる医療従事者のための研修会)(9/1開催)</li> <li>ELNIC研修会(9/21・9/22開催)</li> <li>松江市立病院医療懇話会: 講演会(9/5開催)</li> <li>松江市立病院研究会(7/18開催)〈松江市立病院〉</li> <li>緩和ケア研修会(10/27)、緩和ケア地域連携検討会(研修会)(1/30)、緩和ケア・がん看護基礎コース研修(5~12月)、がん看護におけるコミュニケーション研修(10/9)の開催の開催〈松江赤十字病院〉</li> <li>国が定める「がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会の開催指針」に基づく緩和ケア研修会を開催〈県立中央病院〉</li> <li>緩和ケア研修会の実施(9/8)〈浜田医療センター〉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>緩和ケア研修会の開催(拠点病院主催計4回)                             <ul style="list-style-type: none"> <li>受講者数: 医師68名、医師以外20名〈県・拠点病院〉</li> </ul> </li> <li>緩和ケア研修会(がんに関わる医療従事者のための研修会)(10/24開催)                             <ul style="list-style-type: none"> <li>受講者28名(医師20名、医師以外8名)〈松江市立病院〉</li> </ul> </li> <li>緩和ケア研修会(がんに関わる医療従事者のための研修会)の開催(2/20)</li> <li>緩和ケア地域連携検討会(研修会)(隠岐圏域とまめネットでのオンライン開催)の開催(10/30)</li> <li>緩和ケア・がん看護研修会の開催(8月-11月)〈松江赤十字病院〉</li> <li>緩和ケア研修会について、1/23に開催を予定していたが、年明けに再び新型コロナウイルスの感染拡大傾向がみられたため、やむを得ず今年度の開催を中止とした。〈島根大学医学部附属病院〉</li> <li>緩和ケア研修会の開催(10/11)受講者20名(医師:17名、医師以外:3名)</li> <li>研修緩和ケア「薬物療法」研修(9/10)〈県立中央病院〉</li> <li>緩和ケア研修会の実施(11/15)〈浜田医療センター〉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>緩和ケア地域連携検討会(研修会)(10/30)を、隠岐圏域とのWeb中継にて開催した〈松江赤十字病院〉</li> <li>研修会の性質上、対面によらない開催は難しく、新型コロナウイルス感染症の流行状況を鑑み、開催することができなかった〈島根大学医学部附属病院〉</li> </ul>

具体的施策	実施主体	重点施策	H30(2018)年度	R1(2019)年度	R2(2020)年度	
			コロナの影響			
<p>施策35 患者とその家族に関わる医療・介護従事者のより一層の人材育成(医師以外)</p>	<p>県医療機関</p>	<p>－</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緩和ケアアドバイザー養成研修を県看護協会に委託(修了者数:12名)〈県〉</li> <li>・ELNEC研修会(11/3～11/4開催)</li> <li>・市民公開講座(10/7開催)</li> <li>・松江市立病院地域連携講演会(7/19開催)</li> <li>・在宅緩和ケア多職種カンファレンス講演会2回(10/18、31年3/4開催)〈松江市立病院〉</li> <li>・緩和ケア研修会の開催</li> <li>・緩和ケア地域連携検討会(研修会)の開催</li> <li>・緩和ケア・がん看護基礎コース研修(5～9月)の開催</li> <li>・ELNIC-Jコアカリキュラム看護師教育プログラム研修の開催〈松江赤十字病院〉</li> <li>・島根県の都道府県がん診療連携拠点病院と、地域がん診療拠点病院間で研修会を計画以下の研修を実施した             <ul style="list-style-type: none"> <li>・島根県がん診療連携拠点病院がん看護研修(緩和ケア)                 <ol style="list-style-type: none"> <li>1.「ELNEC-Jコアカリキュラム看護師教育プログラム」2018/9/22-23,受講者36名</li> <li>2.「がん看護におけるコミュニケーションスキルを磨く～患者の感情表出を促すツールNURSEをもちいて」2018/6/2 受講者28名〈島根大学医学部附属病院〉</li> </ol> </li> </ul> </li> <li>・PCAポンプ研修会</li> <li>・キャリアアップ研修がん看護コース〈県立中央病院〉</li> <li>・医師以外の職員を、がん看護研修、がん相談研修などに参加させている〈益田赤十字病院〉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緩和ケアアドバイザー養成研修を県看護協会に委託(修了者数:12名)〈県〉</li> <li>・島根県がん診療連携拠点病院がん看護研修(緩和ケア)の実施             <ul style="list-style-type: none"> <li>「ELNEC-Jコアカリキュラム看護師教育プログラム」(5/11～12)</li> <li>受講者30名</li> <li>「がん看護におけるコミュニケーションスキルを磨く～患者の感情表出を促すツールNURSEをもちいて」(12/1)</li> <li>受講者25名〈島根大学医学部附属病院〉</li> </ul> </li> <li>・緩和ケア研修会(10/27)、緩和ケア地域連携検討会(研修会)(1/30)、緩和ケア・がん看護基礎コース研修(5～12月)、がん看護におけるコミュニケーション研修(10/9)の開催〈松江赤十字病院〉</li> <li>・がん診療連携拠点病院医療従事者研修会(7/25開催)</li> <li>・在宅緩和ケア多職種カンファレンス研修会(R2・2/20開催)</li> <li>・緩和ケア研修会(がんに関わる医療従事者のための研修会)(9/1開催)</li> <li>・ELNEC研修会(9/21・9/22開催)</li> <li>・地域連携医療従事者研修会(R2年1/23開催)〈松江市立病院〉</li> <li>・在宅PCAポンプ研修会</li> <li>・キャリアアップ研修がん看護コース〈県立中央病院〉</li> <li>・がん相談員等研修会にMSWを参加させた。(H31年度:7/7、12/7の計2回、延べ6名が参加)</li> <li>・薬剤師 日本緩和医療学会年會</li> <li>・看護師 緩和ケアアドバイザー養成研修 島根県がん診療連携拠点病院がん看護研修(緩和ケア)ファシリテーター             <ul style="list-style-type: none"> <li>日本緩和医療学会学術集會</li> <li>日本緩和医療学会学術集會</li> <li>日本がん看護学会学術集會</li> <li>日本臨床腫瘍学会</li> </ul> </li> <li>緩和ケアアドバイザー 養育研修会〈益田赤十字病院〉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅医への緩和ケア研修会開催の検討、準備を行った(県、県医師会、拠点病院等)</li> <li>・がん診療連携拠点病院医療従事者研修会(R3.2/25開催)</li> <li>・在宅緩和ケア多職種カンファレンス研修会(12/3開催)</li> <li>・緩和ケア研修会(がんに関わる医療従事者のための研修会)(10/24開催)</li> <li>・ELNEC研修会(11/7・11/8開催)</li> <li>・地域連携医療従事者研修会(10/28開催)〈松江市立病院〉</li> <li>・緩和ケア研修会(2/20)、緩和ケア地域連携検討会(研修会)(10/30)(隠岐圏域とまめネットでのオンライン開催)、緩和ケア・がん看護基礎コース研修(8～12月)、疼痛緩和の薬物療法に関する勉強会の開催(4/7)、化学療法レジメンに関する勉強会の開催(松江薬剤師会と共催)(2/25)〈松江赤十字病院〉</li> </ul> <p>がん医療従事者研修会として、緩和ケアに特化した研修会を開催した。(1/26)〈島根大学医学部附属病院〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・緩和ケア研修会(10/11)</li> <li>・在宅PCAポンプ研修会(12/5)</li> <li>・キャリアラダーレベル別教育「がん看護」「緩和ケア」</li> <li>・地域医療研修会「保険薬局薬剤師と病院薬剤師のがん化学療法に関する情報提供」(9/17) Web研修〈県立中央病院〉</li> <li>・薬剤師             <ul style="list-style-type: none"> <li>日本緩和医療学会 教育セミナー</li> <li>日本緩和医療学会 教育セミナー</li> </ul> </li> <li>・看護師             <ul style="list-style-type: none"> <li>緩和・支持・心のケア 合同学術大会</li> <li>日本緩和医療学会学術集會</li> <li>エンゼルケア・グリーフケア院内研修会〈益田赤十字病院〉</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・WEB会議システムを使用し、院外講師による研修会を行った(在宅緩和ケア他職種カンファレンス研修会)〈松江市立病院〉</li> <li>・緩和ケア研修会を院内職員のみで開催した</li> <li>・緩和ケア地域連携検討会(研修会)(10/30)を、隠岐圏域とのWeb中継にて開催した〈松江赤十字病院〉</li> <li>・院外講師による講演・パネルディスカッションを計画していたが、来院いただくことができず、オンラインによる開催とした</li> <li>・県内の広い地域から参加者があった</li> <li>この他にも開催を計画していたが、新型コロナウイルス感染症対策に係る業務量増加により、看護師・事務職員の業務逼迫のため計画を実行することができなかった〈島根大学医学部附属病院〉</li> <li>・コロナ禍により、外部での学会・研修会はずべてweb形式となった〈益田赤十字病院〉</li> </ul>

具体的施策	実施主体	重点施策	H30(2018)年度	R1(2019)年度	R2(2020)年度	コロナの影響
<p>36 緩和ケアを適切に提供するための取組の強化</p>	<p>県、島根大学医学部附属病院、医療機関</p>	<p>—</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>厚生労働省緩和ケアチーム研修指定病院</li> <li>緩和ケア地域連携バスを活用し、病診連携の充実や患者家族支援を図っている</li> <li>緩和ケアセンターが中心となり、緩和ケアチーム・病棟・外来との連携を図っている</li> <li>緩和ケア多職種カンファレンスコア委員会を開催し、地域との連携推進のために院内・外の医療関係者間で情報共有・意見交換を行っている（松江市立病院）</li> <li>緩和ケアチーム体制の充実をはかっている（松江赤十字病院）</li> <li>「生活のしやすさ調査票」による苦痛のスクリーニングを外来・入院患者に実施した</li> <li>2次スクリーニングを実施して苦痛への対応状況の確認と対応策を検討した</li> <li>緩和ケアセンター（緩和ケア病棟・チーム・外来）に1名のがん看護専門看護師、4名の緩和ケア認定看護師を配置している</li> <li>緩和ケアリンクナースを配置して定期的な情報交換を実施した</li> <li>がん看護外来を設置し、がん患者カウンセリングを実施した</li> <li>薬剤師外来の設置や病棟薬剤師により医療用麻薬導入時などに服薬指導を実施した</li> <li>緩和ケアチームの質の向上のため日本緩和医療学会のセルフチェックプログラムへ参加することにより、活動を評価した（島根大学医学部附属病院）</li> <li>外来化学療法室を利用する患者に対する苦痛スクリーニング実施率が運用を見直した半年間で94.5%まで上昇した</li> <li>2019年度は外来化学療法室利用患者のみならず質問票の使用を希望するすべての患者に使用できるように運用変更予定</li> <li>医療用麻薬の注射剤で疼痛コントロールをしている患者の外出・外泊、自宅退院に関してPCAポンプを使用する体制が整備されており、必要に応じて提供することができている（県立中央病院）</li> <li>平成30年度は、緩和ケアチーム1チームで活動している</li> <li>平成31年度は骨転移専門の緩和ケアチームを設立予定</li> <li>また、緩和薬物療法認定薬剤師1名合格（益田赤十字病院）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>苦痛のスクリーニングを外来・入院患者に実施した</li> <li>2次スクリーニングを実施して苦痛への対応状況の確認と対応策を検討した</li> <li>緩和ケアセンター（緩和ケア病棟・チーム・外来）に1名のがん看護専門看護師、3名の緩和ケア認定看護師を配置している</li> <li>緩和ケアリンクナースを配置して定期的な情報交換を実施した</li> <li>緩和ケアリンクナースを配置して定期的な情報交換を実施した</li> <li>がん看護外来を設置し、がん患者カウンセリングを実施した</li> <li>薬剤師外来の設置や病棟薬剤師により医療用麻薬導入時などに服薬指導を実施した</li> <li>緩和ケアチームの質の向上のため日本緩和医療学会のセルフチェックプログラムへ参加することにより、活動を評価した（島根大学医学部附属病院）</li> <li>厚生労働省緩和ケアチーム研修指定病院</li> <li>緩和ケア地域連携バスを活用し、病診連携の充実や患者家族支援を図っている</li> <li>緩和ケアセンターが中心となり、緩和ケアチーム・病棟・外来との連携を図っている</li> <li>緩和ケア多職種カンファレンスコア委員会を開催し、地域との連携推進のために院内・外の医療関係者間で事例検討・情報共有・意見交換を行っている（松江市立病院）</li> <li>苦痛スクリーニングを実施</li> <li>緩和ケアチームに1名のがん看護専門看護師、2名の緩和ケア認定看護師を配置、緩和ケア院内登録看護師の育成</li> <li>専門看護領域 がん看護担当及び病棟・外来各所配置の認定看護師によりがん患者カウンセリングを実施（松江赤十字病院）</li> <li>苦痛スクリーニングを外来化学療法室利用患者のみならず、質問票の使用を希望するすべての患者が利用できるように運用変更した</li> <li>医療用麻薬の注射剤で疼痛コントロールをしている患者の外出・外泊、自宅退院に関してPCAポンプを使用する体制が整備されており、必要に応じて提供することができている</li> <li>緩和ケアリンクナースの配置</li> <li>がん看護外来設置</li> <li>入院患者のオピオイドレスキュー自己管理の運用を強化拡大した（県立中央病院）</li> <li>がん性疼痛や鎮痛薬に関するポケットマニュアルを作成し、院内医療従事者へ配布した（益田赤十字病院）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>苦痛のスクリーニング実施の実態把握調査を実施（県）</li> <li>厚生労働省緩和ケアチーム研修指定病院</li> <li>緩和ケア地域連携バスを活用し、病診連携の充実や患者家族支援を図っている</li> <li>緩和ケアセンターが中心となり、緩和ケアチーム・病棟・外来との連携を図っている</li> <li>緩和ケア多職種カンファレンスコア委員会を開催し、地域との連携推進のために院内・外の医療関係者間で事例検討・情報共有・意見交換を行っている（松江市立病院）</li> <li>苦痛スクリーニングを入院・外来患者に実施し、早期からの緩和ケアに取り組んでいる</li> <li>緩和ケアチームに1名のがん看護専門看護師、2名の緩和ケア認定看護師を配置している</li> <li>緩和ケアの院内登録看護師を育成と、その活用を行っている</li> <li>専門看護領域部署を設置し、所属するがん看護担当看護師及び外来・病棟配置のがん専門看護師・認定看護師によるがん患者カウンセリング及び患者の相談支援を実施している</li> <li>医療用麻薬開始時に、自記式記録用紙をもちいて患者が在宅でのセルフコントロールができるよう支援している</li> <li>新しい癌疼痛ガイドライン改定に併せ、院内緩和ケア指針の改訂を行った</li> <li>症状の共有・緩和が円滑・適切に実施できるように、緩和ケア地域連携バスの「療養日記」を当院通院患者にも活用している（松江赤十字病院）</li> <li>苦痛のスクリーニングを外来・入院患者に実施した。2次スクリーニングを実施して苦痛への対応状況の確認と対応策を検討した</li> <li>緩和ケアセンター（緩和ケア病棟・チーム・外来）に1名のがん看護専門看護師、3名の緩和ケア認定看護師を配置している</li> <li>緩和ケアリンクナースを配置して定期的な情報交換を実施した</li> <li>がん看護外来を設置し、がん患者カウンセリングを実施した</li> <li>薬剤師外来の設置や病棟薬剤師により医療用麻薬導入時などに服薬指導を実施した</li> <li>緩和ケアチームの質の向上のため日本緩和医療学会のセルフチェックプログラムへ参加することにより、活動を評価した（島根大学医学部附属病院）</li> <li>苦痛スクリーニングを外来化学療法室利用患者のみならず、質問票の使用を希望するすべての患者が利用できるように運用。入院時がんを主病名とする患者のリスタートを行い、スクリーニングの拡大を図った</li> <li>医療用麻薬の注射剤で疼痛コントロールをしている患者の外出・外泊、自宅退院に関してPCAポンプを使用する体制が整備されており、必要に応じて提供することができている</li> <li>外来、各病棟に緩和ケアリンクナース配置し、連携を図っている</li> <li>がん看護外来設置。がん領域専門看護師・認定看護師によるがん患者指導を行っている（県立中央病院）</li> <li>がん性疼痛や鎮痛薬に関するポケットマニュアルを活用し治療・ケアにあたっている（益田赤十字病院）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>面会禁止となったため、オンライン面会を実施している（益田赤十字病院）</li> <li>必要時、オンラインでの面会体制を整えた（県立中央病院）</li> </ul>

具体的施策	実施主体	重点施策	H30(2018)年度	R1(2019)年度	R2(2020)年度	
			コロナの影響			
<p>施策 37 個別の状況に応じた緩和ケアや、グリーフケアに対する取組の検討</p>	<p>県拠点病院等</p>	<p>—</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個々の症例カンファレンスを定期的に多職種で行っている</li> <li>・ 緩和ケアチームや緩和ケア病棟によるデスカンファレンスの実施</li> <li>・ 遺族来院時の対応や遺族へのグリーフハガキの送付</li> <li>・ 緩和ケア病棟主催の遺族会の定期開催（松江市立病院）</li> </ul> <p>緩和ケアチーム体制の充実を図っている（松江赤十字病院）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 遺族ケアワーキンググループを設置し、今後の遺族ケアに必要な事項を検討した</li> <li>・ 今年度よりグリーフレターを送付を予定している（島根大学医学部附属病院）</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 認知症のあるがん患者や高齢で精査困難でがんの診断がつかない患者など個別の状況に応じて、主診療科と合わせて緩和ケアチームが介入して説明の補助や意思決定の支援、症状緩和を行っている</li> <li>・ また、困難事例では必要に応じてデスカンファレンスを実施して、今後のケアに活かせるように取り組んでいる（県立中央病院）</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必要時に緩和ケアチームが介入し、個別に相談を行い対応している（益田赤十字病院）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 緩和ケア病棟において、ご遺族へのグリーフレターの送付を行っている。緩和ケア病棟でのデスカンファレンス、緩和ケアチームによる一般病棟でのデスカンファレンスを実施している（島根大学医学部附属病院）</li> <li>・ 個々の症例カンファレンスを定期的に多職種で行っている</li> <li>・ 在宅緩和ケア多職種カンファレンスコア委員会での事例検討（2回開催）（6/27・12/12）</li> <li>・ 緩和ケアチームや緩和ケア病棟によるデスカンファレンスの実施</li> <li>・ 遺族来院時の対応や遺族へのグリーフハガキの送付</li> <li>・ 緩和ケア病棟主催の遺族会の定期開催（松江市立病院）</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必要に応じて、在宅緩和ケア適応ケースでの事例検討、デスカンファレンスの実施（松江赤十字病院）</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 認知症のあるがん患者や高齢で精査困難でがんの診断がつかない患者など個別の状況に応じて、主診療科と合わせて緩和ケアチームが介入して説明の補助や意思決定の支援、症状緩和を行っている</li> <li>・ 困難事例では必要に応じてデスカンファレンスを実施して、今後のケアに活かせるように取り組んでいる（県立中央病院）</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ デスカンファレンス用紙を改正し、令和2年1月より運用開始した（益田赤十字病院）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個々の症例カンファレンスを定期的に多職種で行っている</li> <li>・ 在宅緩和ケア多職種カンファレンスコア委員会での事例検討（3回開催）（7/31・3/12 他12月に文書報告を行った）</li> <li>・ 緩和ケアチームや緩和ケア病棟によるデスカンファレンスの実施</li> <li>・ 遺族来院時の対応や遺族へのグリーフハガキの送付</li> <li>・ 緩和ケア病棟主催の遺族会の定期開催（松江市立病院）</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必要に応じて、在宅緩和ケア適応ケースでの事例検討、デスカンファレンスを実施している</li> <li>・ 自死患者の対応について診療科、精神科医師、他関わった部門、職種が参加してカンファレンスを開催。今後の医療ケアに生かせるよう取り組んでいる</li> <li>・ AMED津端班老年腫瘍学ワークショップに医師2名が参加</li> <li>・ NST、RST、認知症ケアチーム、褥瘡チーム等の専門チームと連携し、総合的見地からがん患者のQOL改善に努めている（松江赤十字病院）</li> </ul> <p>緩和ケア病棟において、ご遺族へのグリーフレターの送付を行っている。緩和ケア病棟でのデスカンファレンス、緩和ケアチームによる一般病棟でのデスカンファレンスを実施している（島根大学医学部附属病院）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 奨励カンファレンスを定期的に多職種で行っている</li> <li>・ 必要に応じてデスカンファレンスを実施して、今後のケアに活かせるように取り組んでいる（県立中央病院）</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 緩和ケア病棟において、ご遺族へグリーフレターの送付をしている。デスカンファレンスの実施している（浜田医療センター）</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 引き続きデスカンファレンスを行っている（益田赤十字病院）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病棟での季節の行事へ家族の参加ができないため、行事での写真を手紙に添え送付している（浜田医療センター）</li> </ul>



[中間アウトカム9] 患者が望む場所で適切な緩和ケアを受けられている

具体的施策	実施主体	重点施策	H30(2018)年度	R1(2019)年度	R2(2020)年度	コロナの影響
施策38 地域での緩和ケアの提供を支える基盤の強化	県医療機関	重点施策	・拠点病院主催の緩和ケア研修会を医療機関及び各医師会へ案内	・拠点病院主催の緩和ケア研修会を医療機関及び各医師会へ案内	・拠点病院主催の緩和ケア研修会を医療機関及び各医師会へ案内 ・令和3年度から実施する在宅医への緩和ケア研修会の企画及び準備(県、県医師会)	
施策39 圏域ごとの在宅緩和ケア提供体制の強化	県	重点施策	・緩和ケアネットワーク会議開催、緩和ケア従事者研修会実施、圏域在宅医療・緩和ケア資源情報の更新、住民への普及啓発、がんサロン活動支援、ハンドブック作成(県、市町村)	・緩和ケアネットワーク会議開催、緩和ケア従事者研修会実施、遺族間取調の実施、圏域在宅医療・緩和ケア資源情報の更新、住民への普及啓発、がんサロン活動支援ハンドブック作成(県、市町村)	・緩和ケア地域ネットワーク会議開催、遺族間取調調査結果の配布、住民への普及啓発・出前講座、圏域在宅医療・緩和ケア資源情報の更新、がんサロン活動支援(県、市町村)	・一同に会する会議、研修は書面に変更したり中止したものがあつた

[中間アウトカム10] 患者とその家族が、自分らしく生きるために治療や療養生活を自己選択し、その状況に満足している

具体的施策	実施主体	重点施策	H30(2018)年度	R1(2019)年度	R2(2020)年度	コロナの影響
施策40 意思決定支援に対する取組の検討	県拠点病院等	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域包括ケアシステム関係機関連絡会議(3/12)でACP取組事例を共有(県)</li> <li>・「ACPワーキンググループ」を立ち上げ、検討している</li> <li>・パンフレットを作成し、院内スタッフへの周知や外来へ配置したり、患者・家族へ配布し支援を行っている</li> <li>・「がん患者さんの意思を支えるワーキンググループ」を立ち上げ、検討・支援実施をしている(松江市立病院)</li> <li>・日本臨床倫理学会の2018年度研修カリキュラム「臨床倫理認定士(臨床倫理アドバイザー)コース」を受講。医師2名が臨床倫理認定士(臨床倫理アドバイザー)に認定された。</li> <li>・厚生労働省委託事業「本人の意向を尊重した意思決定のための研修会 相談員研修会」を受講(9/24)。(松江赤十字病院)</li> <li>・アドバンスケアプランニングについて、病院内研修、地域との定期的な緩和ケア地域連携カンファレンスなどで普及を図っている(島根大学医学部附属病院)</li> <li>・救命のために最善の医療や措置を行ったにもかかわらず、死が不可避になった患者に対する医療行為の開始・不開始、医療内容の変更、医療行為中止などの判断の道筋を示した終末期医療に係るガイドラインを作成。全職員に周知後使用開始</li> <li>・がんと診断されたときから、納得した治療を受けられるように、希望する療養生活を送ることができるように本人や家族、医療従事者で治療内容や療養場所などを繰り返し話し合うケースもある(がん看護外来の利用やがん相談支援センターの利用など)(県立中央病院)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アドバンスケアプランニングについて、病院内研修、地域との定期的な緩和ケア地域連携カンファレンスなどで普及を図っている(島根大学医学部附属病院)</li> <li>・「ACPワーキンググループ」で事例検討や情報交換をしている</li> <li>・パンフレットを作成し、院内スタッフへの周知や外来へ配置したり、患者・家族へ配布し支援を行っている</li> <li>・「がん患者さんの意思を支えるワーキンググループ」で意思決定支援をしている(松江市立病院)</li> <li>・医療倫理コンサルテーションチームと連携による、医療チームの意思決定支援のサポートの実施</li> <li>・相談支援部門における意思決定支援の研修を実施し、がん患者支援の充実をはかっている</li> <li>・ACPの普及・啓発の推進にかかる協議・検討、市民を対象とした講座の開催などを行っている、「まっえアドバンス・ケア・プランニング普及・啓発推進協議会」に、複数診療科の医師が参加している(副会長、幹事)</li> <li>・告知における心理的負担軽減をはかるために、意思決定支援に専門領域看護師が関与している(松江赤十字病院)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マンガ「ACP=人生会議って何だろう?」を作成し、普及啓発した(県)</li> <li>・「ACPワーキンググループ」で事例検討や情報交換をしている</li> <li>・パンフレットを作成し、院内スタッフへの周知や外来へ配置したり、患者・家族へ配布し支援を行っている</li> <li>・「がん患者さんの意思を支えるワーキンググループ」で意思決定支援をしている(松江市立病院)</li> <li>・医療倫理コンサルテーションチームと連携による、医療チームの意思決定支援のサポートの実施</li> <li>・相談支援部門における意思決定支援の研修を実施し、がん患者支援の充実をはかっている</li> <li>・ACPの普及・啓発の推進にかかる協議・検討、市民を対象とした講座の開催などを行っている、「まっえアドバンス・ケア・プランニング普及・啓発推進協議会」に、複数診療科の医師が参加している(副会長、幹事)。</li> <li>・告知における心理的負担軽減をはかるために、意思決定支援に専門領域看護師が関与している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緩和ケア地域連携検討会(研修会)(10/30)を、隠岐圏域とのWeb中継にて開催した(松江赤十字病院)</li> <li>・コロナ対応のため、十分な検討時間がとれていない(益田赤十字病院)</li> </ul>

具体的施策	実施主体	重点施策	H30(2018)年度	R1(2019)年度	R2(2020)年度
					コロナの影響
<p>施策 40 意思決定支援に対する取組の検討</p>	<p>県拠点病院等</p>	<p>—</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インフォームドコンセントマニュアルについて定めており、個々の状況に合わせ患者・家族の意思が尊重されるよう図っている〈益田赤十字病院〉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・救命のために最善の医療や措置を行ったにもかかわらず、死が不可避になった患者に対する医療行為の開始・不開始、医療内容の変更、医療行為中止などの判断の道筋を示した終末期医療に係るガイドラインを作成。全職員に周知後使用開始されている</li> <li>・「共に治療について考えていくための質問紙」運用について検討中〈県立中央病院〉</li> <li>・緩和ケアチームにて、ACPIに関して院内検討を進めている〈益田赤十字病院〉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緩和ケア地域連携検討会で患者の意向、価値を尊重した療養場所の選択、支援について検討した</li> <li>・終末期の意思決定に係るマニュアルを整備・共有している</li> <li>・インフォームドコンセントに関するマニュアルを改訂、共有〈松江赤十字病院〉</li> <li>アドバンスケアプランニングについて、病院内での研修、地域医療機関との定期的な緩和ケア地域連携カンファレンスなどで、普及の啓発を図っている〈島根大学医学部附属病院〉</li> <li>・救命のために最善の医療や措置を行ったにもかかわらず、死が不可避になった患者に対する医療行為の開始・不開始、医療内容の変更、医療行為中止などの判断の道筋を示した終末期医療に係るガイドラインを作成。全職員に周知後運用している</li> <li>・ACP勉強会（研修医向け）開催</li> <li>・介護施設へACP講演会講師派遣〈県立中央病院〉</li> <li>・アドバンスケアプランニングに関する普及、運用についての検討を進めている。〈浜田医療センター〉</li> <li>・ACP計画の策定は進んでいない。〈益田赤十字病院〉</li> </ul>

【全体目標】 尊厳をもって安心して暮らせる社会の構築 (患者家族支援、がん教育)

(1) 患者・家族の治療や療養生活の悩みが軽減するための支援 (患者家族支援)

[最終アウトカム5] 患者とその家族の治療や療養生活の悩みが軽減している

[中間アウトカム11] 患者が相談できる環境があると感じている

具体的施策	実施主体	重点施策	H30(2018)年度	R1(2019)年度	R2(2020)年度	
						コロナの影響
施策41 国が提唱する統括相談支援センター（がん患者家族サポートセンター）の運営	県 島根 大学 医学 部附 属病 院	-	・がん患者家族サポートセンター運営を島根大学に委託<県> ・がん相談員実務担当者会と連携し、相談員等研修会、ピアサポーター相談会・フォローアップ研修、就労支援、広報活動実施について企画運営・情報共有の実施<島根大学医学部附属病院>	・がん相談員実務担当者会と連携し、相談員等研修会、ピアサポーター相談会・フォローアップ研修、就労支援、広報活動実施について、企画運営・情報共有の実施<島根大学医学部附属病院>	がん相談員実務担当者会を開催し、相談員等の研修会や、ピアサポーター相談会・フォローアップ研修、就労支援、広報活動実施について、企画運営・情報共有を行った<島根大学医学部附属病院>	

具体的施策	実施主体	重点施策	H30(2018)年度	R1(2019)年度	R2(2020)年度	コロナの影響
<p>施策42</p> <p>がん相談支援センターの認知度向上</p>		<p>拠点病院の医療従事者</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページ・院内掲示・入院時に渡す「入院のご案内」等で紹介している</li> <li>・パンフレットを作成し、必要時に患者・家族に渡したり、受付にも設置</li> <li>・がん対策関連の活動時には、病院来院者や一般市民の方々に配布し、周知を図っている</li> <li>・市民向けのがん関係の出前講座に相談員も同行し、周知を図っている〈松江市立病院〉</li> <li>・日常診療での案内やパンフレット・ホームページ、啓発イベントを通じて周知活動を行っている〈松江赤十字病院〉</li> <li>・リーフレットを各病棟・外来に設置。医療者より情報提供する取組みを実施</li> <li>・院内モニターへの掲載〈島根大学医学部附属病院〉</li> </ul> <p>【院内】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・院内イベントの際にがん相談支援センターのブース設置やチラシ配りを実施(看護の日、緩和ケアチーム会、市民公開講座など)</li> <li>・院内ポスター掲示</li> </ul> <p>【院外】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民公開講座にてブース設置。がん征圧月間イベントとして出雲中央図書館、島大病院と市民向け講座を実施〈県立中央病院〉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページの掲載、外来各病棟へのリーフレットの設置、院内モニターへの掲載を継続〈島根大学医学部附属病院〉</li> <li>・ホームページ・院内掲示・入院時に渡す「入院のご案内」等で紹介している</li> <li>・パンフレットを作成し、必要時に患者・家族に渡したり、受付にも設置</li> <li>・がん啓発イベント時には、病院来院者や一般市民の方々にパンフレット等を配布、パネル展示などを行い周知を図っている</li> <li>・がん関係の市民向け出前講座にがん専門相談員も同行し周知を図っている〈松江市立病院〉</li> <li>・パンフレット・ホームページ、ブログ、院内掲示・モニター、啓発イベント(病院まつり・カラコ秋祭り)により周知活動を実施し、がん告知時に個別に紹介〈松江赤十字病院〉</li> </ul> <p>・【院内】院内イベントの際にがん相談支援センターのブース設置やチラシ配りを実施(看護の日、緩和ケアチーム会、市民公開講座など)</p> <p>院内ポスター掲示</p> <p>・【院外】市民公開講座にてブース設置やチラシ配りを実施。がん征圧月間イベントとして出雲中央図書館にて島大病院がん相談支援センターと市民向け講座を実施〈県立中央病院〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページ、院内掲示、広報紙、出前講座により周知〈浜田医療センター〉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページ・院内掲示・入院時に渡す「入院のご案内」等で紹介している</li> <li>・パンフレットを作成し、必要時に患者・家族に渡したり、受付にも設置</li> <li>・がん啓発イベント時には、病院来院者や一般市民の方々にパンフレット等を配布、パネル展示などを行い周知を図っている</li> <li>・がん関係の市民向け出前講座にがん専門相談員も同行し周知を図っている〈松江市立病院〉</li> <li>・パンフレット・ホームページ、ブログ、院内掲示・モニターにより周知活動を実施。がん告知時に個別に医師、看護師より紹介</li> <li>・入院時前の説明、情報収集時に就労、両立支援が必要な方へ個別に情報提供を行う</li> <li>・ケーブルTVを活用した市民公開講座の番組作成・院内活用。(放射線治療・肺がんの治療・ゲノム診療について)</li> <li>・作成した番組を院内のTVで放映した</li> <li>・UICGワールドキャンサーデーの取り組みに参加し、院内をイルミネーションによりライトアップし、セレモニーを行った。また地元TV局の協力を得て、鉄塔のライトアップを行った</li> <li>・患者さんの応援メッセージを動画で作成し、YouTubeに投稿した。また、ポスターを掲示し、院内外に周知を行った</li> <li>・地元TV局の取材を受け、コロナ禍でのがん診療やサポートの仕組みについて情報発信を行った〈松江赤十字病院〉</li> </ul> <p>ホームページへの掲載、外来各病棟へのリーフレット設置、院内モニターでの放映〈島根大学医学部附属病院〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病院ホームページの掲載、院内各所にがん相談支援センターのポスターを掲示、入院案内にちらしを添付〈県立中央病院〉</li> <li>・ホームページ、院内掲示、広報紙、出前講座により周知〈浜田医療センター〉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケーブルTVを活用した市民公開講座の番組作成・院内活用(例年は病院まつりにおいて市民公開講座を開催していた)</li> <li>・地元TV局の取材を受け、コロナ禍でのがん診療やサポートの仕組みについて情報発信を行った〈松江赤十字病院〉</li> <li>・例年実施していた市民公開講座や院内イベントが実施できず、広報活動をする機会が減った〈県立中央病院〉</li> </ul>
<p>施策43</p> <p>がん相談支援体制の広域連携の構築</p>		<p>県、サポートセンター、拠点病院</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・島根県がん診療ネットワーク協議会がん相談部会へ参加〈松江市立病院〉</li> <li>・がん相談実務担当者会での協議、検討されている〈松江赤十字病院〉</li> <li>・鳥取県との共催による、2019年度相談員研修企画協議実施〈島根大学医学部附属病院〉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鳥取県、国立がん研究センターとの共催による相談員研修「相談対応の質保障を学ぶ」を開催(7/7)(参加者 島根県:13病院32名 鳥取県:8病院14名、他県1名)〈島根大学医学部附属病院〉</li> <li>・島根県がん診療ネットワーク協議会がん相談部会へ参加〈松江市立病院〉</li> <li>・がん相談員広域研修企画への参画〈松江赤十字病院〉</li> <li>・がん相談員実務担当者会(6/10、1/23)〈県立中央病院〉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・島根県がん診療ネットワーク協議会がん相談部会へ参加〈松江市立病院〉</li> <li>・まめネット会議サービスを活用したWebカンファレンスの開催(隠岐、安来圏域)</li> <li>・島根県がん診療ネットワーク協議会がん相談部会への参加〈松江赤十字病院〉</li> <li>・がん相談員実務担当者会に参加〈県立中央病院〉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・がん相談員実務担当者会がオンライン開催になったことで複数での出席が可能になった〈県立中央病院〉</li> </ul>

[中間アウトカム12] がん相談支援センター等が患者やその家族の不安や悩みに対応できている

具体的施策	実施主体	重点施策	H30(2018)年度	R1(2019)年度	R2(2020)年度	
						コロナの影響
施策44 がん相談に関わる相談員の一層の資質向上	県、サポートセンター、拠点病院	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>・がん相談員等研修会の開催(10/21) 参加者数：31名(13病院)〈県〉</li> <li>・がん相談員対象の島根県中央研修会開催への参画と研修への参加</li> <li>・緩和ケア研修会(8/26開催)</li> <li>・在宅緩和ケア多職種カンファレンス講演会2回(10/18、31年3/4開催)〈松江市立病院〉</li> <li>・がん相談実務担当者が県内相談員を対象とした研修会を実施〈松江赤十字病院〉</li> <li>・がん相談員実務担当者会で協議の上、10/21(土)「相談員自身のセルフケアを大切に～よりよい相談支援のために～」をテーマに研修会実施(参加者：13病院31名参加)〈島根大学病院からは5名(MSW)参加〉〈島根大学医学部附属病院〉</li> <li>・がん相談員向け研修の企画・運営〈県立中央病院〉</li> <li>・がん相談に関する研修会に相談員を参加させた(平成30年度は1回)〈益田赤十字病院〉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鳥取県、国立がん研究センターとの共催による相談員研修「相談対応の質保障を学ぶ」を開催(7/7)(参加者島根県：13病院32名 鳥取県：8病院14名、他県1名)</li> <li>・テレビ会議システムによるがん相談員等研修会 AYA世代がん患者家族の支援をテーマに開催(参加者17病院42名参加)〈島根大学医学部附属病院〉</li> <li>・がん相談員対象の島根県中央研修会開催への参画と研修への参加</li> <li>・緩和ケア研修会(9/1開催)への参加</li> <li>・国立がん研究センター認定がん専門相談員に2名のMSWが認定された</li> <li>・がん相談支援センター相談員指導者研修修了(1名)〈松江市立病院〉</li> <li>・がん相談員研修会への参加〈松江赤十字病院〉</li> <li>・がん相談員向け研修の企画・運営〈県立中央病院〉</li> <li>・がん相談員等研修会にMSWを参加させた(H31年度：7/7、12/7の計2回、延べ6名が参加)〈益田赤十字病院〉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緩和ケア研修会(10/24開催)への参加〈松江市立病院〉</li> <li>・がん相談員研修会への参加。</li> <li>・島根県がん診療ネットワーク協議会がん相談研修会への参加(4名)。〈松江赤十字病院〉</li> <li>島根県がん診療ネットワーク協議会がん相談実務担当者会の開催(7/3、3/8)。がん相談員等研修会の開催(3/7)〈島根大学医学部附属病院〉</li> <li>・がん相談員向け研修への参加</li> <li>・中国地区地域フォーラム研修会への参加〈県立中央病院〉</li> <li>・がん相談員等研修会にMSWをオンライン参加させた(R2年度：3/7、1名が参加)〈益田赤十字病院〉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンラインにより開催をした〈島根大学医学部附属病院〉</li> <li>・コロナウイルス感染症の影響で外部の研修会の開催回数減少、また県外で開催される研修会への参加困難〈松江市立病院〉</li> <li>・集合研修ができなかった</li> <li>・オンライン研修になり、県外の研修に参加しづらい相談員が研修を受けることが出来た〈県立中央病院〉</li> </ul>
施策45 (再掲：施策43) がん相談支援体制の広域連携の構築	県、サポートセンター、拠点病院	—	(再掲：施策43)	(再掲：施策43)	(再掲：施策43)	(再掲：施策43)

【中間アウトカム13】患者やその家族が正しい情報を得られている

具体的施策		実施主体	重点施策	H30(2018)年度	R1(2019)年度	R2(2020)年度	
							コロナの影響
施策46	わかりやすく確実に伝わる情報提供の実施（ホームページ、SNS、しまねのがんサポートブック等）	県	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> <li>県ホームページ「しまねのがん対策」の情報更新、配布 作成部数：5,000部</li> <li>「しまねのがんサポートブック」高額療養費制度の更新</li> <li>県立図書館におけるがん関連図書整備（H30 158冊）累計2,056冊（H21～）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>県ホームページ「しまねのがん対策」のリニューアルを行った</li> <li>県立図書館におけるがん関連図書整備（H31 137冊）累計2,193冊（H21～）〈県〉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>県ホームページ「しまねのがん対策」の情報更新</li> <li>県立図書館におけるがん関連図書整備（R2 132冊）累計2,325冊（H21～）〈県〉</li> </ul>	
施策47	わかりやすく確実に伝わる情報提供の実施（SNSは双方向の情報発信が可能である特性を活かし、県民からの反応に対して、必要な対応を行う）	県	重点施策	-	-	-	
施策48	正しいがん情報の提供	拠点病院等	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページに各診療科の治療実績を掲載している〈松江市立病院〉</li> <li>がん情報センターの活用（インターネット・冊子等）や他の拠点病院との連携、医師や専門領域看護師等院内スタッフと連携し正確かつ分かりやすい情報提供に努めている</li> <li>お食事読本（がん治療中の食事内容等について患者に情報提供するもの）の作成と病院HPでの情報提供</li> <li>ホームページに各診療科の治療実績を掲載</li> <li>患者総合支援センターや外来化学療法センター、その他院内各所での冊子、葉、ポスターによる情報提供及び内容の充実</li> <li>島根県がんサポートブックの積極的な提供〈松江赤十字病院〉</li> <li>国立がん研究センターがん情報サービス、静岡がんセンターよろず相談、県内拠点病院ホームページを活用した情報提供の実施</li> <li>一般向けのガイドラインを提示しながらの相談支援の実施〈島根大学医学部附属病院〉</li> <li>がん相談員として個々の状況にあった情報提供の実施〈県立中央病院〉</li> <li>がん相談の場においては、サポートブックやがん情報サービス等の公的な情報源を元に相談を行っている〈益田赤十字病院〉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国立がん研究センターがん情報サービス、静岡がんセンターよろず相談、県内拠点病院ホームページを活用した情報提供の実施</li> <li>一般向けのガイドラインを提示しながらの相談支援の実施〈島根大学医学部附属病院〉</li> <li>ホームページに各診療科の治療実績を掲載している</li> <li>がん情報センターの活用（インターネット・冊子等）や他の拠点病院との連携、医師や専門領域看護師等との連携による情報提供〈松江市立病院〉</li> <li>ホームページに各診療科の治療実績を掲載している</li> <li>がん情報センターの活用（インターネット・冊子等）や他の拠点病院との連携、医師や専門領域看護師等との連携による情報提供や直接的支援を行っている</li> <li>お食事読本（がん治療中の食事内容等について患者に情報提供するもの）の作成と病院HPでの情報提供</li> <li>お食事読本（がん治療中の食事内容等について患者に情報提供するもの）の作成と病院HPでの情報提供</li> <li>ホームページに各診療科の治療実績を掲載</li> <li>患者総合支援センターや外来化学療法センター、その他院内各所での冊子、葉、ポスターによる情報提供及び内容の充実</li> <li>島根県がんサポートブックの積極的な提供〈松江赤十字病院〉</li> <li>がん相談員として個々の状況にあった情報提供の実施〈県立中央病院〉</li> <li>がん患者や家族向けの冊子を提供</li> <li>がん相談支援センター内でのインターネット端末や図書を活用した情報提供</li> <li>ホームページに院内がん登録報告書を掲載〈浜田医療センター〉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページに各診療科の治療実績を掲載している</li> <li>がん情報センターの活用（インターネット・冊子等）や他の拠点病院との連携、医師や専門領域看護師等との連携による情報提供〈松江市立病院〉</li> <li>がん情報センターの活用（インターネット・冊子等）や、院内の医師、専門領域看護師等、または他の拠点病院との連携による情報提供や直接的支援を行っている</li> <li>お食事読本No.2（がん治療中の食事内容等について患者に情報提供するもの）の作成と病院HPでの情報提供</li> <li>お食事読本（がん治療中の食事内容等について患者に情報提供するもの）の作成と病院HPでの情報提供</li> <li>ホームページに各診療科の治療実績を掲載</li> <li>患者総合支援センターや外来化学療法センター、その他院内各所での冊子、葉、ポスターによる情報提供及び内容の充実</li> <li>島根県がんサポートブックの積極的な提供</li> <li>がん遺伝子パネル検査についてのパンフレットを作成</li> <li>ケーブルTVを活用した市民公開講座の番組作成・院内活用（例年は病院まつりにおいて市民公開講座を開催していた）〈松江赤十字病院〉</li> <li>国立がん研究センターがん情報サービス、静岡がんセンターよろず相談、県内拠点病院ホームページを活用した情報提供の実施</li> <li>一般向けのガイドラインを提示しながらの相談支援の実施〈島根大学医学部附属病院〉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ケーブルTVを活用した市民公開講座の番組作成・院内活用（例年は病院まつりにおいて市民公開講座を開催していた）〈松江赤十字病院〉</li> </ul>

具体的施策		実施主体	重点施策	H30(2018)年度	R1(2019)年度	R2(2020)年度	
							コロナの影響
施策 48	正しいがん情報の提供	拠点 病院 等	—		<ul style="list-style-type: none"> <li>・がん相談の際に、島根県がんサポートブックやがん情報サービスなどの公的な情報資源を活用し、適切な情報提供を心掛けている〈益田赤十字病院〉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・がん情報サービスによる情報や島根県がんサポートブックを活用した情報提供を実施している</li> <li>・相談の内容によっては、専門職と連携を図り情報提供をしている〈県立中央病院〉</li> <li>・ホームページに院内がん登録報告書を掲載</li> <li>・がん患者や家族向け冊子の提供</li> <li>・がん相談支援センター内でのインターネット端末や図書を活用した情報提供</li> <li>・診療実績や専門領域看護師等の情報を掲載〈浜田医療センター〉</li> </ul>	
					<ul style="list-style-type: none"> <li>・がん相談の際に、島根県がんサポートブックやがん情報サービスなどの公的な情報資源を活用し、適切な情報提供を心掛けている。今年度から病院ホームページにもがんに関する情報ページを作成し、上記ページのリンクを張っている〈益田赤十字病院〉</li> </ul>		

【中間アウトカム14】患者やその家族がピアサポートを受けることで悩みが軽減できている

具体的施策	実施主体	重点施策	H30(2018)年度		R1(2019)年度	R2(2020)年度	
						コロナの影響	
<p>施策49</p> <p>ピアサポートの充実(患者サロン、ピアサポーター相談会)</p>	<p>県、サポーターセンター、拠点病院等</p>	<p>重点施策</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ピアサポーター相談会(島根大学へ委託) 開催病院:松江市立、松江赤十字、県立中央病院、島根大学医学部附属病院、浜田医療センター、益田赤十字、安来第一、雲南市立、大田市立、隠岐(10病院) 開催回数:42回 相談者数39名(34組) ・がんピアサポーター活動を考える会(島根大学へ委託) 開催日程:5/15,7/3,10/3(3回) ・ピアサポーターフォローアップ研修(島根大学へ委託)(11/17) 参加者数:ピアサポーター14名、サロン関係者4名 ・ピアサポート養成研修会(厚生労働省委託事業)への参加(松江市立) 開催日程:2/9~10 参加者数:2名(患者と相談員のペア)(県)</li> <li>・ピアサポーター相談会開催への支援。(3回開催)</li> <li>・患者サロンの活動支援(学習会、カフェサロン開催等)</li> <li>・厚生労働省委託事業ピアサポート養成研修受講(患者・相談員1組修了)(松江市立病院)</li> <li>・インターネット、ポスター掲示、院内放送等周知活動を行い、専門領域看護師、MSW等相談担当スタッフとの連携によるニーズ掘り起こし等、ピアサポーター相談会実施を支援している</li> <li>・乳がん患者会の支援</li> <li>・患者サロンの活動支援</li> <li>・清音会(松江赤十字病院喉摘者会)の支援</li> <li>・あゆみ会(人工肛門保有患者の患者会)の支援(松江赤十字病院)</li> <li>・ほっとサロンとの連携による相談支援、ほっとサロン便り作成支援の実施</li> <li>・毎月15日にがんピアサポーター相談会を実施(島根大学医学部附属病院)</li> <li>・ピアサポーター相談会開催(6回/年)。昨年よりも開催回数を増</li> <li>・なごやかサロン実施(毎月第2、4金曜)、周知活動のため院内ホールにてイベントを実施(県立中央病院)</li> <li>・院内でピアサポーター相談会を開催した(平成30年度は月1回程度(年10回)開催した)(益田赤十字病院)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほっとサロンとの連携による相談支援、ほっとサロン便り作成支援</li> <li>・ほっとサロンの新たな取組みとして、「AYA世代ががん患者交流会」「小児がん経験者の親の交流会」を開催</li> <li>・がんピアサポーター相談会 開催病院:松江市立、松江赤十字、県立中央病院、島根大学病院、浜田医療センター、益田赤十字、安来第一、雲南市立、大田市立、隠岐(10病院) 開催回数:39回 相談者数:52名(45組)</li> <li>・がんピアサポーターフォローアップ研修(11/17) 参加者数:ピアサポーター16名、サロン関係者3名(島根大学医学部附属病院)</li> <li>・ピアサポーター相談会開催への支援。(3回開催)</li> <li>・患者サロンの活動支援(毎月曜定例会、学習会7回、カフェサロン開催等)</li> <li>・AYA世代交流会開催への支援(1回)(松江市立病院)</li> <li>・インターネット、ポスター掲示、院内放送等周知活動を行い、専門領域看護師、MSW等相談担当スタッフとの連携によるニーズ掘り起こし等、ピアサポーター相談会実施を支援している</li> <li>・乳がん患者会の支援</li> <li>・患者サロンの活動支援</li> <li>・清音会(松江赤十字病院喉摘者会)の支援</li> <li>・あゆみ会(人工肛門保有患者の患者会)の支援(松江赤十字病院)</li> <li>・ピアサポーター相談会開催(6回/年)</li> <li>・なごやかサロン実施(毎月第2、4金曜)サロン周知活動のため絵紙教室の開催や院内ホールにてイベントを実施(県立中央病院)</li> <li>・がんサロン(ほっとサロン浜田、女性だけの会、サロンひまわり)の院内掲示による周知と活動支援(浜田医療センター)</li> <li>・院内にがんサロンの開催会場を提供し、MSWも参加している。(毎週火曜日)</li> <li>・H31年度は、がんサロンとがんピアサポーター相談会を共催とし、毎月第2火曜日にピアサポーターががんサロンに常駐することで、互いのメリットを生かした相談の場を設けることができた(益田赤十字病院)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ピアサポーター相談会開催への支援。(開催出来ず)</li> <li>・患者サロンの活動支援(毎月曜定例会一定例では実施出来ず3回のみ実施、学習会一開催出来ず、カフェサロン開催出来ず)</li> <li>・AYA世代交流会開催への支援(開催出来ず)(松江市立病院)</li> <li>・インターネット、ポスター掲示、院内放送等周知活動を行い、専門領域看護師、MSW等相談担当スタッフとの連携によるニーズ掘り起こし等、ピアサポーター相談会実施を支援している</li> <li>・ピアサポーター相談会の開催。(7月、11月、3月)</li> <li>・乳がん患者会の支援</li> <li>・くつろぎサロン(患者サロンの活動支援)</li> <li>・清音会(松江赤十字病院喉摘者会)の支援</li> <li>・あゆみ会(人工肛門保有患者の患者会)の支援</li> <li>・遺伝性乳がん・卵巣がんの当事者会の協力を得て、遺伝性がんの当事者を対象にした講演会をオンラインで実施し、双方での意見交換を行った。</li> <li>・遺伝性乳がん・卵巣がんの当事者会の協力を得て、当事者が家族にあてた手紙を紹介する写真パネル展を実施し、当事者の方への支援や社会への啓発活動を行った(松江赤十字病院)</li> <li>・ほっとサロンとの連携による相談支援、ほっとサロン便り作成支援</li> <li>・ほっとサロンの新たな取組みとして、「AYA世代がん患者交流会」「小児がん経験者の親の交流会」を開催</li> <li>・がんピアサポーター相談会 開催病院:松江市立、松江赤十字、県立中央病院、島根大学病院、浜田医療センター、益田赤十字、安来第一、雲南市立、大田市立、隠岐(10病院) 開催回数:39回 相談者数:52名(45組)</li> <li>・がんピアサポーターフォローアップ研修(11/17) 参加者数:ピアサポーター16名、サロン関係者3名(島根大学医学部附属病院)</li> <li>・ピアサポーター相談会を計画</li> <li>・なごやかサロン実施(毎月第2、4金曜)(県立中央病院)</li> <li>・がんサロン(ほっとサロン浜田、女性だけの会、サロンひまわり)の院内掲示による周知と活動支援(浜田医療センター)</li> <li>・がんサロンは独自に院外に会場を設け開催されており、その開催周知のため当院で「のぼり」を作成した(益田赤十字病院)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナウイルス感染症の影響あり、予定していた相談会等が開催出来なかった(松江市立病院)</li> <li>・緩和ケアシンポジウムの開催を中止した</li> <li>・昨年3月のピアサポーター相談会を新型コロナウイルス感染症の影響で中止した</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響で、乳がん患者会の活動を今年度4月~9月の間の会と、1月開催予定の会を取りやめた</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響で、くつろぎサロン(患者サロンの活動)が昨年3月より休止状態となっている</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響で、去年2月より清音会の活動を休止している</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響で、あゆみ会の会合を中止している(資料の送付などにより、会員に情報提供は行っている)(松江赤十字病院)</li> <li>・ピアサポーター相談会はコロナウイルス感染予防等により実施できなかった</li> <li>・なごやかサロンは感染流行状況に応じて月1回の開催または中止とした(県立中央病院)</li> <li>・院内にがんサロンの開催会場を提供していたが、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で院内開催は中止している</li> <li>・がんピアサポーター相談会についても同様に中止している(益田赤十字病院)</li> </ul>	



【中間アウトカム15】患者のQOLが向上している

具体的施策	実施主体	重点施策	H30(2018)年度	R1(2019)年度	R2(2020)年度	コロナの影響
<p>施策50 社会生活支援(就労以外)の充実</p>	<p>県、拠点病院等</p>	<p>—</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アピアランス(外見)ケア講演会・相談会 開催日程：11/9 参加者数：24名</li> <li>・ウィッグ、補整下着補助 ウィッグ 50人 補整下着 8人(県)</li> <li>・がんセンターの外来化学療法室での医療提供によって、日常生活を続けながらの治療を可能にすることで、QOLの向上につなげている</li> <li>・経済的問題に関しては、医療相談係の担当者が対応・支援している</li> <li>・アピアランス支援については、乳がん看護認定看護師が窓口となり、がん患者全般に対応している</li> <li>・がんセンターの外来化学療法室にはパウダールームを設置し、アピアランスへの対応が可能な設備を備えている(松江市立病院)</li> <li>・化学療法など予定入院の患者には相談員が面談し、医療費制度などの情報提供や経済的問題の相談にあたる手順となっている</li> <li>・各部署で緩和や化学療法など専門的知識をもったスタッフが助言等支援を行っている(松江赤十字病院)</li> <li>・社会保障制度の情報提供(ウィッグ・補整下着助成制度も含む)の実施</li> <li>・アピアランスケアについて、看護専門外来と連携し情報提供の実施(島根大学医学部附属病院)</li> <li>・個々の相談に対し、専門知識を有する看護師が対応(県立中央病院)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アピアランス(外見)ケア講演会・相談会(11/30) 講師：【講演】 一般社団法人HWBPヘアウェアビューティープログラム 山岡 純三氏、今井 勇人氏 【個別相談】 松江市立病院がん化学療法看護認定看護師 山田 恵子氏 参加者数：6名</li> <li>・ウィッグ、補整下着補助 ウィッグ 69人 補整下着 8人(県)</li> <li>・がんセンターの外来化学療法室での医療提供によって、日常生活を続けながらの治療を可能にすることで、QOLの向上につなげている</li> <li>・経済的問題に関しては、医療相談係の担当者が対応・支援している</li> <li>・アピアランス支援については、乳がん看護認定看護師が窓口となり、がん患者全般に対応している</li> <li>・がんセンターの外来化学療法室にはパウダールームを設置し、アピアランスへの対応が可能な設備を備えている(松江市立病院)</li> <li>・がん治療に関連した医療費等の制度説明(一部の診療科では入院毎に相談員との面接を必須としている)や、経済的問題の相談支援、社会保障制度活用による個別支援を行っている</li> <li>・お手入れ読本の作成</li> <li>・脱毛中のケア、ウィッグに関する情報提供</li> <li>・補整下着に関する情報提供</li> <li>・脱毛予防に「頭部冷却法」を乳癌科臨床試験として行った</li> <li>・皮膚障害に関するセルフケア支援</li> <li>・外来治療中の皮膚障害の患者への定期的な電話訪問</li> <li>・入院支援センターでの入院前の説明・情報収集時、担当者と連携した問題の早期把握と支援を実施している</li> <li>・入院時の説明・情報収集時、担当者と連携した問題の早期把握</li> <li>・外来化学療法センター待合室でのパンフレット本、ポスターなどでの情報提供(松江赤十字病院)</li> <li>・ウィッグや補整下着の助成制度について情報提供</li> <li>・乳がん看護認定看護師と連携してウィッグ購入希望者への支援を行っている</li> <li>・医療費や生活費等の経済的な相談をがん相談支援センターで対応し、活用できる制度などにつなげている(県立中央病院)</li> <li>・がん専門相談員による経済的問題の相談支援やアピアランスケアについての情報提供(浜田医療センター)</li> <li>・各メーカーの医療用ウィッグ等のパンフレットを院内に設置している</li> <li>・島根県が実施している助成事業の周知、利用手続きの支援を行った(益田赤十字病院)</li> <li>・がんサロンが主体となり、アピアランスケアに関する研修会を開催した</li> <li>・毎月第4火曜日のがんサロン開催日には、がんサロンの働きかけでアピアランスケアの専門家が参加されている(益田赤十字病院)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウィッグ、補整下着補助 ウィッグ 92人 補整下着 7人(県)</li> <li>・がんセンターの外来化学療法室での医療提供によって、日常生活を続けながらの治療を可能にすることで、QOLの向上につなげている</li> <li>・経済的問題に関しては、医療相談係の担当者が対応・支援している</li> <li>・アピアランス支援については、乳がん看護認定看護師が窓口となり、がん患者全般に対応している</li> <li>・がんセンターの外来化学療法室にはパウダールームを設置し、アピアランスへの対応が可能な設備を備えている(松江市立病院)</li> <li>・がん治療に関連した医療費等の制度説明(一部の診療科では入院毎に相談員との面接を必須としている)や、経済的問題の相談支援、社会保障制度活用による個別支援を行っている</li> <li>・お手入れ読本の作成</li> <li>・脱毛中のケア、ウィッグに関する情報提供</li> <li>・補整下着に関する情報提供</li> <li>・脱毛予防に「頭部冷却法」を乳癌科臨床試験として行った</li> <li>・皮膚障害に関するセルフケア支援</li> <li>・外来治療中の皮膚障害の患者への定期的な電話訪問</li> <li>・入院支援センターでの入院前の説明・情報収集時、担当者と連携した問題の早期把握と支援を実施している</li> <li>・入院時の説明・情報収集時、担当者と連携した問題の早期把握</li> <li>・外来化学療法センター待合室でのパンフレット本、ポスターなどでの情報提供(松江赤十字病院)</li> <li>・ウィッグや補整下着の助成制度について情報提供</li> <li>・乳がん看護認定看護師と連携してウィッグ購入希望者への支援を行っている</li> <li>・医療費や生活費等の経済的な相談をがん相談支援センターで対応し、活用できる制度などにつなげている(県立中央病院)</li> <li>・がん専門相談員による経済的問題の相談支援やアピアランスケアについての情報提供(浜田医療センター)</li> <li>・各メーカーの医療用ウィッグ等のパンフレットを院内に設置している</li> <li>・島根県が実施している助成事業の周知、利用手続きの支援を行った(益田赤十字病院)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・例年のがんサロンが主体となりアピアランスケア相談会を開催されていたが、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で開催は中止している(益田赤十字病院)</li> </ul>

【中間アウトカム16】 【小児・AYA】患者や家族が相談できる環境が整っている

具体的施策	実施主体	重点施策	H30(2018)年度	R1(2019)年度	R2(2020)年度	コロナの影響
施策51 【小児・AYA】患者に必要な施策の検討・実施	県、拠点病院	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小児がん患者実態調査（島根大学医学部に委託） 調査期間：2/12～3/15 対象病院：島根大学医学部附属病院 回答者数/送付者数：39名/74名</li> <li>・AYA実態調査（島根大学医学部に委託） 調査期間：12/1～1/4 対象病院：松江市立、松江赤十字、県中、島大医学部附属、 浜田医療センター、益田赤十字、安来市立、松江生協(8病院) 回答者数/送付者数：98名/227名〈県〉</li> <li>・AYA世代患者については、がん看護専門看護師が中心となり、対象者への面談をし、情報提供や心理的サポートを行っている</li> <li>・島根県が実施するAYA世代のがん患者・家族の実態調査への協力〈松江市立病院〉</li> <li>・小児AYA世代へのアンケート実施協力〈島根大学医学部附属病院〉</li> <li>・がん相談支援センターで相談を受け事例ごとに対応を検討して実施〈県立中央病院〉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・島根県小児がん対策部会への参加</li> <li>・島根県AYA世代のがん対策部会への参加〈島根大学医学部附属病院〉</li> <li>・AYA世代患者については、がん看護専門看護師が中心となり、対象者への面談をし、情報提供や心理的サポートを行っている</li> <li>・AYA世代交流会開催への支援（1回実施）〈松江市立病院〉</li> <li>・がん相談支援センターにて情報提供を行っている〈松江赤十字病院〉</li> <li>・がん相談支援センターで相談を受け事例ごとに対応を検討して実施〈県立中央病院〉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・AYA世代患者については、がん看護専門看護師が中心となり、対象者への面談をし、情報提供や心理的サポートを行っている</li> <li>・AYA世代交流会開催への支援（開催出来ず）〈松江市立病院〉</li> <li>・がん相談支援センターにて情報提供を行っている</li> <li>・小冊子を活用した情報提供や、事例ごとに関係機関での相談を調整している〈松江赤十字病院〉</li> <li>島根県小児がん対策部会への参加</li> <li>島根県AYA世代のがん対策部会への参加〈島根大学医学部附属病院〉</li> <li>・がん相談支援センターで相談を受け事例ごとに対応を検討して実施〈県立中央病院〉</li> </ul>	
施策52 【小児・AYA】世代特有の課題へのワーキンググループの開催（患者きょうだいへの支援の検討）	県、拠点病院	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族からの相談に対し、小冊子を活用し情報提供の実施〈島根大学医学部附属病院〉</li> <li>・事例があれば関係機関と連携、調整する〈県立中央病院〉</li> <li>・がん相談体制はあるが、対象患者がいないため未実施〈益田赤十字病院〉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもAYA世代サポートセンターの設置</li> <li>・小冊子を活用した情報提供の実施〈島根大学医学部附属病院〉</li> <li>・事例があれば関係機関と調整する〈県立中央病院〉</li> <li>・相談体制はあるが、対象患者がいないため未実施〈益田赤十字病院〉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもAYA世代サポートセンターの設置</li> <li>小冊子を活用した情報提供の実施〈島根大学医学部附属病院〉</li> <li>・事例があれば関係機関と調整する〈県立中央病院〉</li> <li>・相談体制はあるが、対象患者がいないため未実施〈益田赤十字病院〉</li> </ul>	

【中間アウトカム17】 【小児・AYA】医療機関や相談支援センターが患者やその家族の不安や悩みに対応できている

具体的施策	実施主体	重点施策	H30(2018)年度	R1(2019)年度	R2(2020)年度	コロナの影響
施策53 【小児・AYA】家族の付き添い支援の実施	島根大学医学部附属病院	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入院児童等家族宿泊施設「だんだんハウス」の運営〈島根大学医学部附属病院〉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入院児童等家族宿泊施設「だんだんハウス」の運営〈島根大学医学部附属病院〉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入院児童等家族宿泊施設「だんだんハウス」の運営〈島根大学医学部附属病院〉</li> </ul>	
施策54 【小児・AYA】世代特有の課題へのワーキンググループの開催（生殖機能の温存等に関する施策の実施を検討）	県	—	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>・AYA世代のがん対策部会（1/30）</li> <li>・地域がん・生殖医療ネットワーク構築を考える会（2/5）@東京への参加</li> <li>・島根県がん・生殖医療ネットワーク会則の検討〈県〉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小児・AYA世代のがん対策部会（2/8）</li> <li>・島根県がん・生殖医療ネットワーク構築及び妊孕性温存療法助成事業について、島根大学産科婦人科等の関係者等と協議</li> <li>・島根県小児・AYA世代のがん患者等の妊孕性温存療法研究促進事業実施要綱の検討〈県〉</li> </ul>	
施策55 【新規】（再掲：施策33）【小児・AYA】生殖機能の温存等に関する施策の実施	県、拠点病院等	重点施策	（再掲：施策33）	（再掲：施策33）	（再掲：施策33）	（再掲：施策33）

【中間アウトカム18】 【小児・AYA】 患者が療養生活において保育・教育を受けられる環境が整備されている

具体的施策	実施主体	重点施策	H30(2018)年度	R1(2019)年度	R2(2020)年度	
						コロナの影響
施策56	【AYA】世代特有の課題へのワーキンググループの開催（療養中の保育や高等教育のあり方の検討）	県	-	・AYA世代のがん対策部会で、小児がん拠点病院の取組について情報収集（県）	・高校生がん患者の教育支援検討会（9/16）で、入院中の高校生がん患者に対する遠隔授業実施の支援フローを検討、作成 ・小児・AYA世代のがん対策部会や、教育委員会担当者より特別支援教育コーディネーター会で支援周知（県）	・新型コロナの影響により、各高校に対し、遠隔授業用のタブレット端末等の機器が配置された（県）

【中間アウトカム19】 【働き盛り】 患者が療養生活と仕事を両立できている

具体的施策	実施主体	重点施策	H30(2018)年度	R1(2019)年度	R2(2020)年度	
						コロナの影響
施策57	就労支援相談会等の開催（がん患者への両立支援を推進）	県、拠点病院等、ハローワーク、産業保健総合支援センター等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就労支援ナビゲーターとの連携による就労相談会 場所（日程）：島根大学医学部附属病院（毎週木曜日） 県立中央病院（毎月第1,3水曜日） 相談者数：18名（ハローワーク出張）</li> <li>・両立支援促進推進員による就労相談会 場所（日程）：松江市立（毎月第1水曜日） 松江赤十字（毎月第4水曜日） 県立中央病院（毎月第2水曜日） 相談者数：4名（県）</li> <li>・平成29年度から島根県産業保健総合支援センターとの連携のもと、両立支援の相談窓口を開設し対応している（1回/月）</li> <li>・ホームページ・がん相談支援センターのパンフレットへの掲載、院内へのポスター掲示や電子掲示板での掲示で周知に努めている（松江市立病院）</li> <li>・産業保健センターの出張相談を実施中</li> <li>・令和元年度はハローワークの出張相談も定期開催予定（松江赤十字病院）</li> <li>・ハローワーク就職支援ナビゲーター来院による出張相談会実施</li> <li>・院内モニターによる広報実施（島根大学医学部附属病院）</li> <li>・ハローワーク出張相談会の開催（毎月第1、3水曜）</li> <li>・産業保健総合支援センター両立支援出張相談会の開催（毎月第2水曜）（県立中央病院）</li> <li>・がん相談の場において、随時対応している</li> <li>・また平成31年度からは産業保健総合支援センターと連携し、相談会を随時開催することとしている（益田赤十字病院）</li> <li>・浜田医療センターへ出張相談窓口を新設、がん情報提供促進病院別訪問による周知（産業保健総合支援センター）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハローワーク出張就業支援ナビゲーターとの連携による相談会開催（毎週木曜日10：00～12：00）がん患者利用者数：18名</li> <li>・島根県産業保健総合支援センター両立支援促進員による就労相談会（毎月第4水曜日13：00～16：00）がん患者利用者数：6名</li> <li>・院内モニター、ポスター掲示、リーフレットにより広報（島根大学医学部附属病院）</li> <li>島根県産業保健総合支援センターとの連携のもと、両立支援の相談窓口を開設し対応している（毎月第1水曜）</li> <li>・ホームページ・がん相談支援センターのパンフレットへの掲載、院内へのポスター掲示や電子掲示板での掲示で周知に努めている</li> <li>相談者数：5名（松江市立病院）</li> <li>・就労支援ナビゲーターとの連携による就労相談会（毎月第3火曜日）</li> <li>・両立支援促進推進員による就労相談会（毎月第4水曜日）の開催とともに、インターネット・院内掲示・放送による周知、MSWや専門領域看護師の連携による潜在的ニーズの掘り起こしを行っている（松江赤十字病院）</li> <li>・ハローワーク出張相談会の開催（毎月第1,3水曜）</li> <li>・産業保健総合支援センター両立支援出張相談会の開催（毎月第2水曜）（県立中央病院）</li> <li>・産業保健支援センターと連携し、がん患者の治療と仕事の両立支援のための出張相談会を随時開催することとした。（H31年度：地域が関わった相談件数は1件）</li> <li>・労働局が主催する両立支援チームにMSWが参加した。（H31年度：チーム会1回開催）（益田赤十字病院）</li> <li>・地域がん診療連携拠点病院にて看護管理職向け研修会、がん情報提供促進病院にて全職員向け研修会をそれぞれ実施し、出張相談窓口の存在や両立支援に係る周知を行った</li> <li>・両立支援促進員による出張相談窓口 島根大学医学部附属病院4/1～第4水曜日 益田赤十字病院4/1～随時開設</li> <li>・出張ハローワークに連携依頼を行い、相談窓口の相互紹介をすることとなった</li> <li>・看護協会、医療ソーシャルワーカー協会、糖尿病療養指導士関連4団体に周知を依頼し、パンフレットの配布等に協力を得た</li> <li>・情報提供促進病院を対象として両立支援の実施状況をアンケート調査</li> <li>・患者用リーフレットを作成し、相談窓口について周知（島根県産業保健総合支援センター）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>島根県産業保健総合支援センターとの連携のもと、両立支援の相談窓口を開設し対応している（毎月第1水曜）</li> <li>・ホームページ・がん相談支援センターのパンフレットへの掲載、院内へのポスター掲示や電子掲示板での掲示で周知に努めている</li> <li>相談者数：4名</li> <li>・長期療養者についての就労支援も行っている（松江市立病院）</li> <li>・就労支援ナビゲーター（ハローワーク）との連携による就労相談会（毎月第3火曜日）</li> <li>・両立支援促進員（産業保健総合支援センター）による就労相談会（毎月第4水曜日）の開催とともに、インターネット・院内掲示・放送による周知、MSWや専門領域看護師の連携による潜在的ニーズの掘り起こしを行っている</li> <li>・入院・外来でのつらさのスクリーニングで仕事・経済面の不安をもつ患者が相談希望を申し出ることができる体制を整備している</li> <li>・入院の事前説明時に、就労中のがん患者に対し、両立支援の情報提供を積極的に行っている（松江赤十字病院）</li> <li>・ハローワーク出張就業支援ナビゲーターとの連携による相談会開催（毎週木曜日10：00～12：00）がん患者利用者数：18名</li> <li>・島根県産業保健総合支援センター両立支援促進員による就労相談会（毎月第4水曜日13：00～16：00）がん患者利用者数：6名</li> <li>・院内モニター、ポスター掲示、リーフレットによる周知・啓発（島根大学医学部附属病院）</li> <li>・ハローワーク出張の就労支援ナビゲーターと連携して出張相談会の開催（毎月第1,3水曜）</li> <li>・産業保健総合支援センター両立支援出張相談会の開催（毎月第2水曜）</li> <li>・がん相談員による就労相談は随時対応している（県立中央病院）</li> <li>・産業保健総合支援センター両立支援出張相談会の開催（9/16、1/19）（浜田医療センター）</li> <li>・一昨年から産業保健総合支援センターと連携し、がん患者の治療と仕事の両立支援のための出張相談会を院内で随時開催してきたが、R2年度は産業保健総合支援センターと当院をつなぎオンライン開催とした（2回開催、申込者0名、2回目は圏域でのコロナ患者発生により中止）</li> <li>・島根労働局が主催する両立支援チームと、産業保健総合支援センターが開催する相談窓口担当者会議にMSWがオンライン参加した（R2年度：チーム会、担当者会、各1回開催）（益田赤十字病院）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年3月～5月のみ新型コロナウイルス感染症の影響で、就労支援ナビゲーターとの連携による就労相談会、両立支援促進員による就労相談会ともに開催を中止した（松江赤十字病院）</li> <li>・新型コロナウイルス感染予防のため、ハローワークおよび産業保健総合支援センターとの相談会は予約のみの対応とした（県立中央病院）</li> <li>・新型コロナウイルス感染症対策のため、1/19実施分についてはwebで開催（浜田医療センター）</li> <li>・がん患者の治療と仕事の両立支援のための出張相談会をオンラインで2度予定していたが、2回目については益田圏域でのコロナ患者発生による当院内への立ち入り制限した時期と重なり中止とした（益田赤十字病院）</li> </ul>

具体的施策	実施主体	重点施策	H30(2018)年度	R1(2019)年度	R2(2020)年度	
					コロナの影響	
<p>施策58 就労支援相談会等の開催（事業所への両立支援を推進）</p>	<p>県、拠点病院等、島根労働局、産業保健総合支援センター等</p>	<p>—</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・しまね☆まめなカンパニー登録制度 登録数：146事業所（31.3末）〈県〉</li> <li>・島根県地域両立支援推進チームへの参加〈島根大学医学部附属病院〉</li> <li>・産業保健総合支援センター両立支援出張相談会の開催（毎月第2水曜）</li> <li>・産業保健総合支援センターとの勉強会を実施〈県立中央病院〉</li> <li>・がん相談の場において、随時対応している</li> <li>・また平成31年度からは産業保健総合支援センターと提携し、相談会を随時開催することとしている〈益田赤十字病院〉</li> <li>・島根県、医療機関、労使団体、島根産業保健総合支援センター等からなる島根県地域両立支援推進チームの活動を通じた、「事業場における治療と職業生活の両立支援のためのガイドライン」や治療と仕事の両立支援に取り組む事業者に対する助成金制度の周知</li> <li>・島根産業保健総合支援センターが実施する両立支援に関する相談、研修講師の派遣、両立支援コーディネーターの養成等の各種支援についての利用促進</li> <li>・各労働基準監督署が実施する研修会、説明会等における島根産業保健総合支援センター所属講師による「事業場における治療と職業生活の両立支援のためのガイドライン」等の周知〈島根労働局〉</li> <li>・浜田医療センターへ出張相談窓口を新設、産業医・事業場担当者向け研修会の開催、事業場個別訪問による周知・普及〈島根県産業保健総合支援センター〉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・しまね☆まめなカンパニー登録制度 登録数：189事業所（R2.3末）</li> <li>・浜田公共職業安定所主催のセミナーで、がん患者の就労支援について説明及び依頼を行った（8/27）〈県〉</li> <li>・島根県地域両立支援推進チーム会議への参加〈島根大学医学部附属病院〉</li> <li>・がん相談支援センターにて情報提供を行っている〈松江赤十字病院〉</li> <li>・産業保健総合支援センター両立支援出張相談会の開催（毎月第2水曜）〈県立中央病院〉</li> <li>・厚生労働省の作成したリーフレットを設置し周知を行った〈益田赤十字病院〉</li> <li>・島根県地域両立支援推進チームの活動を通じ、「事業場における治療と仕事の両立支援のためのガイドライン」及び企業と医療機関の連携のためのマニュアルの周知を行うとともに、治療と仕事の両立支援に係る相談窓口等の周知、利用促進を行った</li> <li>・労働局及び労働基準監督署が行う事業場に対する安全衛生指導等の際、産保センターのリーフレットを配布し、両立支援対策の必要性の説明とセンターの利用促進を行った。また、その際に、事業場における両立支援の実態把握も行った</li> <li>・労働局において設置している安全衛生労使専門家会議において、企業での治療と仕事の両立支援の取組報告をさせていただき、両立支援について協議した〈島根労働局〉</li> <li>・事業場個別訪問による周知、また、事業場における労働者教育を実施した</li> <li>・産業保健研修会を定期的に開催。6、7月には両立支援をテーマとした研修を重点的に6回開催した</li> <li>・働き方改革センターセミナーにおいて中小事業場を対象に両立支援を周知</li> <li>・局、基準協会と共催した衛生週間説明会にて周知</li> <li>・各圏域の事業主セミナーにて周知</li> <li>・事業場の産業看護職を対象に交流会を開催し、事例検討を含めて情報交換を行った</li> <li>・事業場用リーフレットを作成し、無料の支援について周知〈島根産業保健総合支援センター〉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・しまね☆まめなカンパニー登録制度 登録数：210事業所（R2.3末）〈県〉</li> <li>・がん相談支援センターにて情報提供を行っている</li> <li>・両立支援促進員による就労相談会に事業主にも参加を得て事業主と連携し、治療と仕事の両立に関する支援を行った〈松江赤十字病院〉</li> <li>・島根県地域両立支援推進チーム会議への参加〈島根大学医学部附属病院〉</li> <li>・個々のケースで患者の希望があれば事業場に対して治療経過や仕事の上での制限の有無等について情報提供を行い、今後の連携について働きかけている〈県立中央病院〉</li> <li>・厚生労働省の作成したリーフレットを設置し周知を行ったが、手に取り持ち帰られたのは僅かである〈益田赤十字病院〉</li> <li>・島根県地域両立支援推進チームの活動を通じ、「事業場における治療と仕事の両立支援のためのガイドライン」及び企業と医療機関の連携のためのマニュアルの周知を行うとともに、治療と仕事の両立支援に係る相談窓口等の周知、利用促進を行った</li> <li>・労働局及び労働基準監督署が行う事業場に対する安全衛生指導等の際、産保センターのリーフレットを配布し、両立支援対策の必要性の説明とセンターの利用促進を行った。また、その際に、事業場における両立支援の実態把握も行った</li> <li>・労働局において設置している安全衛生労使専門家会議において、企業での治療と仕事の両立支援の取組報告をさせていただき、両立支援について協議した〈島根労働局〉</li> <li>・1月に浜田医療センター及び益田赤十字病院において、オンラインによる両立支援に関する「オンライン相談会」を開催した。その後、令和3年度からは浜田市にて半期に1回、益田市においては年1回開催することとなった</li> <li>・県内2か所のがんサロンにおいて、両立支援の啓発セミナーを実施し、うち1か所では、新聞社と地元ケーブルテレビの取材を受けた</li> <li>・島根県経営者協会の協力を得て、同協会の各支部で開催された協議会において、両立支援制度の周知を行った</li> <li>・松江東ロータリークラブ、松江ロータリークラブにて事業者向けに両立支援の周知を行い、好評を得た</li> <li>・治療と仕事の両立支援の出張相談窓口を開設する病院の担当者や両立支援促進員による会議を開催。労災病院勤務のソーシャルワーカーの事例発表や検討会等により、出席した各担当者の意識向上が図られ、実績にもつながった〈島根産業保健総合支援センター〉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・島根県地域両立支援推進チーム会議については、ハイブリッド方式で開催した〈島根労働局〉</li> </ul>
<p>施策59 復職支援モデル事業の実施</p>	<p>県、ハローワーク</p>	<p>重点施策</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・嘱託職員を雇用し情報発信（1名 30.8～30.11）〈県〉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・嘱託職員を雇用し情報発信（1名 H31.4～R2.3）</li> </ul>		
<p>施策60 （再掲：施策4）事業所と連携した情報提供を実施する</p>	<p>県</p>	<p>—</p>	<p>（再掲：施策4）</p>	<p>（再掲：施策4）</p>	<p>（再掲：施策4）</p>	

【中間アウトカム20】 【働き盛り】患者の子供等の悩みが軽減できている

具体的施策	実施主体	重点施策	H30(2018)年度	R1(2019)年度	R2(2020)年度
			コロナの影響		
施策61 がん患者を親に持つ子ども等に対する必要な支援の検討	県、拠点病院	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもへの支援が必要となった場合は、関連する機関(学校・保健所)と連携し、対応している(松江市立病院)</li> <li>事例があれば関係機関と調整し、対応する。(松江赤十字病院)</li> <li>小児科医師、CLSを中心とした、「子どもサポートチーム」で個別支援実施(島根大学医学部附属病院)</li> <li>事例があれば関係機関と調整する(県立中央病院)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「子どもAYA世代のサポートセンター」の設置</li> <li>がんの親を持つ子ども達へ支援としてCLIMBプログラムを開催(島根大学医学部附属病院)</li> <li>子どもへの支援が必要となった場合は、関連する機関(学校・保健所)と連携し、対応している(松江市立病院)</li> <li>事例があれば関係機関と調整し、対応する。(松江赤十字病院)</li> <li>事例があれば関係機関と調整する(県立中央病院)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもへの支援が必要となった場合は、関連する機関(学校・保健所)と連携し、対応している(松江市立病院)</li> <li>事例があれば関係機関と調整し、対応する。(松江赤十字病院)</li> <li>事例があれば関係機関と調整する(県立中央病院)</li> </ul>

【中間アウトカム21】 【高齢者】意思決定支援が可能となるための方策の検討

具体的施策	実施主体	重点施策	H30(2018)年度	R1(2019)年度	R2(2020)年度
			コロナの影響		
施策62 がん患者及びその家族に対する必要な支援の実施	県、拠点病院等	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>認知症ケアチームや緩和ケアチーム、精神科リエゾンチーム、栄養サポートチーム等の医療チームと病棟メンバー・院内外の関連部署・関連する多職種間での連携をし、対応している(松江市立病院)</li> <li>2017年度に高齢患者への支援をテーマとしたがん相談員等研修会を実施</li> <li>それを踏まえ、高齢者の身体的精神的状況を捉えながら相談対応が実践できるよう努めた(島根大学医学部附属病院)</li> <li>国が策定するガイドラインを基に作成した、院内用意思決定プロセスのガイドラインにより、対応(県立中央病院)</li> <li>がん相談の場において、随時対応している(益田赤十字病院)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>認知症ケアチームや緩和ケアチーム、精神科リエゾンチーム、栄養サポートチーム等の医療チームと病棟メンバー・院内外の関連部署・関連する多職種間での連携をし、対応している(松江市立病院)</li> <li>認知症を合併したがん患者の治療に関して相談があった場合に、緩和ケアチーム、認知症ケアチーム、認知症対応力向上研修を修了した看護師が介入し、必要な支援を行う</li> <li>認知症ケア委員会を設置し、必要な検討を行う(松江赤十字病院)</li> <li>入院患者に対して認知症ケアチームが適宜介入している</li> <li>認知症の有無に関わらず患者の意思決定を尊重し、家族や関係者も含めた方針決定を心がけている(県立中央病院)</li> <li>がん相談の場に限らず、あらゆる相談支援の場において認知症についても配慮して相談対応している(益田赤十字病院)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>認知症ケアチームや緩和ケアチーム、精神科リエゾンチーム、栄養サポートチーム等の医療チームと病棟メンバー・院内外の関連部署・関連する多職種間での連携をし、対応している(松江市立病院)</li> <li>認知症を合併したがん患者の治療に対して、認知症ケアチーム、精神科リエゾンチーム、栄養サポートチーム、緩和ケアチーム、老人看護専門看護師、認知症対応力向上研修を修了した看護師、MSW等が介入し、必要な支援を行う</li> <li>認知症ケア委員会を設置し、必要な検討を行う(松江赤十字病院)</li> <li>がん患者・家族サポートセンターと認知症疾患医療センターで連携し、お互いに情報共有し、患者相談・支援にあたっている</li> <li>また、院内の周術期管理チームにおいてはがん疾患の担当医師だけでなく、精神科医師や、看護師、歯科医師、歯科衛生士、MSW等他職種が関わり、必要な検討を行っている(島根大学医学部附属病院)</li> <li>入院患者に対して認知症ケアチームが適宜介入している</li> <li>認知症の有無に関わらず患者の意思決定を尊重し、家族や関係者も含めた方針決定を心がけている(県立中央病院)</li> <li>がん相談の場に限らず、あらゆる相談援助の場において認知症についても配慮して相談対応している(益田赤十字病院)</li> </ul>

(2) がんを正しく理解し、がんに向き合うためのがん教育 (がん教育)

[最終アウトカム6] 県民が自分や身近な人ががんに罹患していてもそれを正しく理解し向き合っている

【ア 子どもへのがん教育】

[中間アウトカム22] 県民ががんについて正しく理解している

[中間アウトカム23] 県民が健康や命の大切さについて理解している

具体的施策	実施主体	重点施策	H30(2018)年度	R1(2019)年度	R2(2020)年度	
						コロナの影響
施策63 子どもへのがん教育の円滑な実施	学校	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康教育研修で健康教育担当者に、県内3校のがん教育に関する取組の発表や、日本女子大学の助友教授の「がん教育の実際」についての講義など、がん教育の必要性や進め方についての研修会を実施した</li> <li>・また、養護教諭部会など養護教諭が集まる機会を利用して、がん教育の進め方の周知も図った</li> <li>・H30年度は喫煙・飲酒・薬物乱用防止教室や食育等と兼ねて実施した学校が多かった。取り組んでいない学校もあるので、さらに積極的な周知、推進をしていく</li> </ul> <p>【公立】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校 125校 (61.6%)</li> <li>・中学校 68校 (69.4%)</li> <li>・高等学校 18校 (50.0%)</li> </ul> <p>【私立】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校 3校</li> <li>・高等学校 4校〈県〉</li> </ul>	<p>【公立】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校91校 (45.5%)</li> <li>・中学校59校 (62.0%)</li> <li>・高等学校31校 (79.5%)</li> <li>・特別支援学校2校 (11.8%)</li> </ul> <p>【私立】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校 2校</li> <li>・高等学校 5校</li> </ul>	<p>○がん教育の実施率 (R2健康教育に関する状況調査票より)</p> <p>【公立】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校106校 (53.3%)</li> <li>・中学校74校 (79.6%)</li> <li>・高等学校27校 (75.0%)</li> </ul> <p>【私立】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校 3校</li> <li>・高等学校 7校</li> </ul>	
施策64 校内研修の実施	学校	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康教育研修や養護教諭部会等の機会を利用して、校内研修の必要性の周知を図った</li> <li>・小中学校では約6%、高等学校では約3%という結果を受け、今後さらに校内研修の呼びかけをしていきたい</li> </ul> <p>【公立】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校 13校 (6%)</li> <li>・中学校 7校 (7%)</li> <li>・高等学校 1校 (3%)</li> </ul> <p>【私立】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校 0校</li> <li>・高等学校 1校〈県〉</li> </ul>	<p>【公立】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校8校 (4.1%)</li> <li>・中学校9校 (9.8%)</li> <li>・高等学校2校 (6.9%)</li> <li>・特別支援学校0校</li> </ul> <p>【私立】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校 0校</li> <li>・高等学校 0校</li> </ul>	<p>○がん教育に関する校内研修の実施率 (R2健康教育に関する状況調査票より)</p> <p>【公立】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校9校 (4.5%)</li> <li>・中学校7校 (7.5%)</li> <li>・高等学校0校 (0%)</li> </ul> <p>【私立】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校 0校</li> <li>・高等学校 0校</li> </ul>	
施策65 外部講師の養成	県	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>・がん教育外部講師養成研修 (3/3)</li> <li>講師：東京女子医科大学教授 林 和彦氏 松本医院院長 松本 祐二氏</li> <li>参加者数：79名〈県〉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・がん教育外部講師養成研修 (2/16)</li> <li>講師：国立研究開発法人国立がん研究センター がん対策情報センター センター長 若尾 文彦 氏</li> <li>参加者数：120名〈県〉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・がん教育外部講師フォローアップ研修 (12/3)</li> <li>※教育庁保健体育課主催がん教育研修会と共催</li> <li>講師：聖心女子大学 現代教養学部教育学科 教授・副学長 植田誠治氏</li> <li>参加者数：35名〈県〉</li> </ul>	

【イ 大人へのがん教育】

【中間アウトカム22】 県民ががんについて正しく理解している

【中間アウトカム23】 県民が健康や命の大切さについて理解している

具体的施策	実施主体	重点施策	H30(2018)年度	R1(2019)年度	R2(2020)年度	コロナの影響
施策66 子どもへのがん教育を通じて大人への正しいがん情報の提供	県	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康教育研修や養護教諭部会などの機会を利用して、がん教育の授業や講演会を保護者等に公開すること、また、たより等を通じて保護者へ啓発することを促した（県（教育庁保健体育課））</li> </ul> <p>【公立】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>健康教育研修や養護教諭部会において啓発、たより等による啓発</li> <li>がん教育公開授業（12/18） 対象：浜田高等学校定時制課程 講師：NPO法人がんサポートかごしま 三好 綾氏（県）</li> </ul>	<p>【公立】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>がん教育研修会、養護教諭研修などにおいて啓発</li> <li>〈実践校〉</li> <li>出雲市立河南中学校のPTA教育講演会 対象：全校生徒、保護者、教職員 講師：NPO法人がんサポートかごしま 三好 綾氏</li> <li>松江農林高等学校公開授業 ①対象：3年生（総合学科福祉サービス系） 講師：看護師、がん経験者</li> <li>②対象：2年生（保健体育科 科目「保健」） 講師：保健師（県）</li> </ul>	<p>○がん教育の公開実施率（R2健康教育に関する状況調査票より） （公開実施とは、授業公開、講演会、便り、HPブログ）</p> <p>【公立】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小学校10校（9.4%）</li> <li>中学校4校（5.4%）</li> <li>高等学校3校（11.1%）</li> </ul>	
施策67 わかりやすく確実に伝わる情報提供の実施（ホームページ、SNS、広報等）	県	重点施策	<ul style="list-style-type: none"> <li>県ホームページで情報発信を行った（県）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>県ホームページ「しまねのがん対策」のリニューアルを行った（県）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>県ホームページで情報発信を行った（県）</li> </ul>	
施策68 わかりやすく確実に伝わる情報提供の実施（SNSは双方向の情報発信が可能である特性を活かし、県民からの反応に対して、必要な対応を行う）	県	重点施策	—	—	—	
施策69 関係者と連携した情報提供の実施	県、がん検診啓発サポーター、島根県立大学、各種団体等	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>がん検診啓発サポーターが地域の健康講座や催事などで啓発及び情報発信を行った</li> <li>「しまね☆まめなカンパニー」について県のホームページに掲載した</li> <li>がん征圧月間において関係団体と街頭キャンペーン等を実施した（県）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>がん検診啓発サポーターが地域の健康講座や催事などで啓発及び情報発信を行った</li> <li>「しまね☆まめなカンパニー」について県のホームページに掲載した</li> <li>がん征圧月間において関係団体と街頭キャンペーン等を実施した（県）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>がん検診啓発サポーターが地域の健康講座や催事などで啓発及び情報発信を行った</li> <li>「しまね☆まめなカンパニー」について県のホームページに掲載した（県）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍において、イベントや街頭キャンペーン等は全県で中止となった</li> <li>県主催の街頭キャンペーンも中止した</li> </ul>
施策70 （再掲：施策4）事業所と連携した情報提供を実施する	県	—	（再掲：施策4）	（再掲：施策4）	（再掲：施策4）	（再掲：施策4）

## 数 値 目 標

(平成 30 年度～令和 2 年度)



数値目標 (H30~R2)

【基本理念】すべての県民が、がんを知り、がんの克服を目指す

項目	計画策定時	進捗			目標値	備考	
	H29年度 (2017年度)	H30年度 (2018年度)	R1年度 (2019年度)	R2年度 (2020年度)	R5年度 (2023年度)		
数1 がんの年齢調整死亡率(75歳未満人口10万対)	H27年 (2015年)	H28年 (2016年)	H29年 (2017年)	H30年 (2018年)	R3年 (2021年)	国立がん研究センター がん登録 基準値(第1期計画策定時 H17(2005)年) 男 131.5、女 60.6	
	男	105.2	97.5	95.0	89.2		86.1
	女	54.9	59.9	52.6	47.7		50.4

【全体目標Ⅰ】科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実（1次予防、がん検診）

項目			計画策定時	進捗				目標値	備考		
			H29年度 (2017年度)	H30年度 (2018年度)	R1年度 (2019年度)	R2年度 (2020年度)	R5年度 (2023年度)				
<b>(1) がんの1次予防(発生病リスクの低減) (1次予防)</b>											
数2	最終	1	がんの年齢調整罹患率(人口10万対) ( )は上皮内がんを含む値	H25年 (2013年)	H27年 (2015年)	H28年 (2016年)	H29年 (2017年)	R1年度 (2019年度)	島根県 がん登録		
				胃がん	60.9	57.5	56.5	56.3		低減	
				大腸がん	51.8(81.9)	54.4(81.5)	59.6(88.2)	53.9(81.3)		低減	
				肺がん	37.1(37.3)	43.9(43.9)	49.1(49.2)	45.5(45.6)		低減	
				子宮頸がん	8.1(54.2)	12.3(59.5)	12.1(72.2)	14.7(68.6)		低減	
				乳がん	73.2(84.1)	84.2(96.9)	82.2(100.6)	88.9(104.1)		低減	
	肝がん	18.4	16.1	17.2	15.0	低減					
数3	中間	1	成人の喫煙率	H28年度 (2016年度)				R3年度 (2021年度)	島根県 健康長寿しまね推進計画 (県民健康・栄養調査) 令和4年度調査実施予定		
				20～79歳	男	27.4%	—	—		12.3%	
				20～79歳	女	4.4%	—	—		3.2%	
				20～39歳	男	30.3%	—	—		17.7%	
				20～39歳	女	7.1%	—	—		5.4%	
数4	中間	1	生活習慣のリスクを高める量を飲酒している者の割合	H28年度 (2016年度)	—	—	—	R3年度 (2021年度)	島根県 健康長寿しまね推進計画 (県民健康・栄養調査) 令和4年度調査実施予定		
				男	14.7%	—	—	13.0%			
				女	7.1%	—	—	6.4%			
数5	施策	2	重点 施策	敷地内・施設内禁煙、完全分煙を実施している事業所の割合	H28年度 (2016年度)	—	—	—	R3年度 (2021年度)	100%	島根県 健康長寿しまね推進計画 (事業所健康づくり調査)
数6	施策	4		しまね☆まめなカンパニー登録事業所数	H30年度 (2018年度)	H30年度 (2018年度)	R元年度 (2019年度)	R2年度 (2020年度)	R4年度 (2022年度)	島根県 健康推進課調査	
					146事業所	146事業所	189事業所	210事業所	増加		
数7	中間	2	肝炎ウイルス検査受験者数	H30年度 (2018年度)	—	—	R元年度 (2019年度)	R3年度 (2021年度)	島根県 肝炎対策推進基本指針 指針:H29年3月改定 数値目標:H30年10月改定 目標値:4年間の累計受験者数		
				男女計	6,260人	—	—	16,157人		3万人以上	

項目			計画策定時	進捗			目標値	備考		
			H29年度 (2017年度)	H30年度 (2018年度)	R1年度 (2019年度)	R2年度 (2020年度)	R5年度 (2023年度)			
<b>(2) がんの2次予防(早期発見・早期受診) (がん検診)</b>										
数8	最終	2	臨床進行度 早期がん(上皮内及び限局)の割合	H25年 (2013年)	H27年 (2015年)	H28年 (2016年)	H29年 (2017年)	R1年 (2019年)	島根県 がん登録	
				胃がん	55.1%	61.4%	60.3%	63.7%		10%増加
				肺がん	32.6%	39.2%	42.0%	40.0%		10%増加
				大腸がん	59.3%	55.8%	59.0%	58.4%		10%増加
				子宮頸がん	80.8%	83.1%	86.3%	79.1%		10%増加
乳がん	60.3%	61.9%	68.1%	61.3%	10%増加					
数9	中間	3	科学的根拠に基づくがん検診(対策型検診)を実施している市町村数	H29年度 (2017年度)	H30年度 (2018年度)	R1年度 (2019年度)	R2年度 (2020年度)	R4年度 (2022年度)	厚生労働省 市区町村におけるがん検診の実施状況 調査	
				15市町村	18市町村	19市町村	19市町村	19市町村		
数10	中間	3	市町村が実施するがん検診の精密検査受診率	H26年度 (2014年度)	H27年 (2015年)	H28年 (2016年)	H29年 (2017年)	R1年度 (2019年度)	島根県 地域保健健康増進事業報告	
				40～74歳 胃がん	80.8%	81.9%	83.1%	78.0%		90.0%以上
				40～74歳 肺がん	83.9%	88.4%	89.1%	85.3%		90.0%以上
				40～74歳 大腸がん	64.9%	72.2%	70.4%	68.3%		90.0%以上
				20～74歳 子宮頸がん	69.6%	67.2%	70.3%	77.1%		90.0%以上
				40～74歳 乳がん	93.7%	94.1%	96.6%	95.2%		90.0%以上
数11	中間	4	島根県全体のがん検診受診率	H28年度 (2016年度)	—	—	R1年度 (2019年度)	R4年度 (2022年度)	厚生労働省 国民生活基礎調査 令和4年度調査実施予定	
				胃がん	45.9%	—	—	45.7%		50.0%以上
				肺がん	53.8%	—	—	56.9%		50.0%以上
				大腸がん	46.6%	—	—	49.4%		50.0%以上
				子宮頸がん	40.5%	—	—	39.0%		50.0%以上
				乳がん	43.0%	—	—	43.7%		50.0%以上
数12	施策	18	(再掲:数6)しまね☆まめなカンパニー登録事業所数	(再掲:数6)	(再掲:数6)	(再掲:数6)	(再掲:数6)	(再掲:数6)		

項目				計画策定時	進捗			目標値	備考	
				H29年度 (2017年度)	H30年度 (2018年度)	R1年度 (2019年度)	R2年度 (2020年度)	R5年度 (2023年度)		
数13	施策	20	重点 施策	松江圏域のがん検診受診率(市町村実施分)	H27年度 (2015年度)	H28年度 (2016年度)	H29年度 (2017年度)	H30年度 (2018年度)	R3年度 (2021年度)	島根県 地域保健健康増進事業報告 (健康推進課)
				大腸がん	9.0%	7.9%	7.7%	7.4%	13.5%	
数14	施策	20	重点 施策	雲南圏域のがん検診受診率(市町村実施分)	H27年度 (2015年度)	H28年度 (2016年度)	H29年度 (2017年度)	H30年度 (2018年度)	R3年度 (2021年度)	島根県 地域保健健康増進事業報告 (健康推進課)
				大腸がん	12.2%	12.7%	11.9%	11.2%	20.0%	
数15	施策	20	重点 施策	出雲圏域のがん検診受診率(市町村実施分)	H27年度 (2015年度)	H28年度 (2016年度)	H29年度 (2017年度)	H30年度 (2018年度)	R3年度 (2021年度)	島根県 地域保健健康増進事業報告 (健康推進課)
				胃がん	0.8%	不詳	1.7%	1.4%	1.2%	
数16	施策	20	重点 施策	大田圏域のがん検診受診率(市町村実施分)	H27年度 (2015年度)	H28年度 (2016年度)	H29年度 (2017年度)	H30年度 (2018年度)	R3年度 (2021年度)	島根県 地域保健健康増進事業報告 (健康推進課)
				肺がん	18.2%	16.1%	15.0%	30.6%	50.0%	
				胃がん	5.0%	8.0%	7.7%	6.7%	50.0%	
				大腸がん	14.3%	11.6%	10.8%	10.6%	50.0%	
				子宮頸がん	22.8%	25.5%	21.4%	23.8%	50.0%	
				乳がん	22.6%	25.0%	24.9%	25.3%	50.0%	
数17	施策	20	重点 施策	浜田圏域のがん検診受診率(市町村実施分)	H27年度 (2015年度)	H28年度 (2016年度)	H29年度 (2017年度)	H30年度 (2018年度)	R3年度 (2021年度)	島根県 地域保健健康増進事業報告 (健康推進課)
				胃がん	2.4%	4.7%	4.8%	5.0%	5.5%	
				肺がん	4.0%	4.0%	4.4%	4.1%	8.6%	
				乳がん	21.6%	24.4%	25.3%	25.3%	30.0%	
				※受診率はマンモ単独+マンモ・視触診併用						
数18	施策	20	重点 施策	益田圏域のがん検診受診率(市町村実施分)	H28年度 (2016年度)	H29年度 (2017年度)	H30年度 (2018年度)	R元年度 (2019年度)	R3年度 (2021年度)	益田圏域がん検診受診率
				子宮頸がん	33.5%	30.9%	30.9%	30.9%	50.0%	
数19	施策	20	重点 施策	隠岐圏域のがん検診受診率(市町村実施分)	H27年度 (2015年度)	H28年度 (2016年度)	H29年度 (2017年度)	H30年度 (2018年度)	R3年度 (2021年度)	島根県 地域保健健康増進事業報告 (健康推進課)
				肺がん	13.8%	13.5%	11.9%	11.8%	50.0%	
				大腸がん	12.2%	10.8%	9.8%	8.9%	50.0%	
				乳がん	24.2%	25.1%	25.6%	24.5%	50.0%	

【全体目標Ⅱ】患者本位で将来にわたって持続可能なしまねらしいがん医療の実現（がん医療、緩和ケア）

項目			計画策定時	進捗			目標値	備考			
			H29年度 (2017年度)	H30年度 (2018年度)	R1年度 (2019年度)	R2年度 (2020年度)	R5年度 (2023年度)				
<b>(1) どこに住んでも安心してがん医療が受けられる体制の構築（がん医療）</b>											
数20	最終	3	全がんの5年相対生存率		H25年 (2013年) 62.3% ※2008年診断症例	H27年 (2015年) 58.8% ※2010年診断症例	H28年 (2016年) 59.7% ※2011年診断症例	H29年 (2017年) 60.2% ※2012年診断症例	R1年 (2019年) 増加	島根県 がん登録	
数21	最終	3	がんの診断から治療開始までの状況を総合的に振り返って、納得いく治療選択ができたと回答した患者の割合 (納得のいく治療選択)		H26年度 (2014年度) 81.90%	— — —	— — —	H30年度 (2018年度) 77.8%	R4年度 (2022年度) 84.5%	国立がん研究センター 患者体験調査 H30回答選択肢等改定により比較困難	
数22	中間	5	一般の人が受けられるがん医療は数年前と比べて進歩したと回答した患者の割合 (医療の進歩の実感)		H26年度 (2014年度) 77.0%	— — —	— — —	H30年度 (2018年度) 76.6%	R4年度 (2022年度) 80.1%	国立がん研究センター 患者体験調査 H30回答選択肢等改定により比較困難	
数23	施策	21	重点 施策	島根県内のがん診療連携拠点病院の数	H29年度 (2017年度) 5施設	H30年度 (2018年度) 5施設	R1年度 (2019年度) 5施設	R2年度 (2020年度) 5施設	R5年度 (2023年度) 5施設	島根県 健康推進課調査	
数24	施策	24	重点 施策	【新規】がんゲノム医療連携病院	— — —	— — —	— — —	R2年度 (2020年度) 4施設	R5年度 (2023年度) 4施設	厚生労働省指定状況	
数25	中間	6		圏域内受診率(外来)	H27年度 (2015年度)	H28年度 (2016年度)	H29年度 (2017年度)	H30年度 (2018年度)	R3年度 (2021年度)	国 医療計画作成支援データブック R2年度データブックへの掲載に向け、厚生労働省で作業中	
					雲南	56.0%	50.7%	—	—		70.0%
					大田	59.7%	58.8%	—	—		70.0%
					益田	88.6%	86.2%	—	—		90.0%
					隠岐	81.6%	78.5%	—	—		90.0%
数26	中間	6		病院から診療所・在宅医療(介護も含む)へ移った際、病院での診療方針が診療所・訪問看護ステーションへ円滑に引き継がれたと思う患者の割合	H26年度 (2014年度) 72.3%	— — —	— — —	H30年度 (2018年度) 項目なし	R4年度 (2022年度) 72.7%	国立がん研究センター 患者体験調査	
数26 案	中間	6		紹介先の医療機関を支障なく受診できたと回答した患者の割合  (紹介先医療機関の支障のない受診)	— — —	— — —	— — —	H30年度 (2018年度) 80.3%	— — —	国立がん研究センター 患者体験調査	

項目				計画策定時	進捗			目標値	備考
				H29年度 (2017年度)	H30年度 (2018年度)	R1年度 (2019年度)	R2年度 (2020年度)	R5年度 (2023年度)	
数27	施策 25	重点 施策	地域がん診療病院の数	H29年度 (2017年度) 0施設	H30年度 (2018年度) 0施設	R1年度 (2019年度) 0施設	R2年度 (2020年度) 0施設	R5年度 (2023年度) 1施設	島根県 健康推進課調査
数28	施策 28		24時間対応が可能な在宅医療を提供している医療機関数(成人) <small>県内病院及び訪問看護ステーション並びに一部の診療所及び助産所に対して医療機能の現状を調査、その結果を計画に掲載し公表されることについて了解の上、当該医療機関を持っていると回答した機関の数。以下、本調査の結果を引用しているものについては、特に記載のある場合を除き同様の集計方法による。</small>	H29年度 (2017年度) 164施設	— — —	— — —	— — —	R5年度 (2023年度) 増加	島根県 医療機能調査 令和4年度調査実施予定
数29	施策 28		24時間対応が可能な在宅医療を提供している医療機関数(小児)	H29年度 (2017年度) 20施設	— — —	— — —	— — —	R5年度 (2023年度) 増加	島根県 医療機能調査 令和4年度調査実施予定
数30	中間 7		最初のがん治療が開始される前に、医師からその治療による不妊の影響について説明があったと回答した患者・家族の割合(40歳未満) (妊孕性についての説明)	H26年度 (2014年度) 42.7%	— — —	— — —	H30年度 (2018年度) 40.8%	R4年度 (2022年度) 92.8%	国立がん研究センター 患者体験調査 H30回答選択肢等改定により比較困難
数31	施策 32	重点 施策	(再掲:数24)【新規】がんゲノム医療連携病院	(再掲:数24)	(再掲:数24)	(再掲:数24)	(再掲:数24)	(再掲:数24)	(再掲:数24)

項目			計画策定時	進捗			目標値	備考		
			H29年度 (2017年度)	H30年度 (2018年度)	R1年度 (2019年度)	R2年度 (2020年度)	R5年度 (2023年度)			
<b>(2) 切れ目のない緩和ケアの提供（緩和ケア）</b>										
数32	最終	4	がんやがん治療に伴う身体の苦痛がないと回答した患者の割合 (身体的苦痛(痛みに限らず包括的))	H26年度 (2014年度)	—	—	H30年度 (2018年度)	R4年度 (2022年度)	国立がん研究センター 患者体験調査 H30回答選択肢等改定により比較困難	
				54.1%	—	—	51.1%	57.4%		
数33	最終	4	がんやがん治療に伴い気持ちがつかないと回答した患者の割合 (精神的苦痛)	H26年度 (2014年度)	—	—	H30年度 (2018年度)	R4年度 (2022年度)	国立がん研究センター 患者体験調査 H30回答選択肢等改定により比較困難	
				54.8%	—	—	68.6%	61.5%		
数34	中間	8	医療者は、患者のつらい症状にすみやかに対応していたと回答した遺族の割合	H30年度 (2018年度)	—	—	H30年度 (2018年度)	R4年度 (2022年度)	国立がん研究センター 遺族調査 設定困難	
数35	中間	8	がんやがん治療に伴う痛みがないと回答した患者の割合 (がんに伴う痛み)	H26年度 (2014年度)	—	—	H30年度 (2018年度)	R4年度 (2022年度)	国立がん研究センター 患者体験調査 H30回答選択肢等改定により比較困難	
数36	施策	34	緩和ケア研修会を受講した医師の割合  県内で受講した医師・歯科医師／計算時最新の県内医師・歯科医師数	H29年度 (2017年度)	H30年度 (2018年度)	R1年度 (2019年度)	R2年度 (2020年度)	R4年度 (2022年度)	島根県 健康推進課調査  算出に用いる拠点病院等現況報告書の様式変更に伴い「拠点病院全医師」及び「卒後2年目の医師」の項目が変更となった	
				52.1%	59.1%	60.9%	62.3%	69.0%		
				拠点病院全医師	84.6%	—	—	—		90%以上
				卒後2年目の医師	82.5%	—	—	—		100%
				拠点病院等1年以上所属するがん診療に携わる医師・歯科医師	—	96.6%	95.2%	96.5%		増加
拠点病院等臨床研修医	—	34.3%	57.1%	83.3%	増加					
数37	施策	36	苦痛のスクリーニングを行っている施設数	H29年度 (2017年度)	—	—	R2年度 (2020年度)	R5年度 (2023年度)	島根県 健康推進課調査	
数38	中間	9	患者は望んだ場所で過ごせたと回答し遺族の割合	H30年度 (2018年度)	—	—	H30年度 (2018年度)	R4年度 (2022年度)	国立がん研究センター 遺族調査 設定困難	
数39	施策	38	重点 施策 成人の患者に対してがん性疼痛等に対する緩和ケアが実施できている診療所	H29年度 (2017年度)	—	—	—	R5年度 (2023年度)	島根県 医療機能調査 令和4年度調査実施予定	
				98施設	—	—	—	増加		
数40	施策	38	重点 施策 成人の患者に対して医療用麻薬を提供できる体制を有する医療機関	H29年度 (2017年度)	—	—	—	R5年度 (2023年度)	島根県 医療機能調査 令和4年度調査実施予定	
				228施設	—	—	—	増加		

項目				計画策定時	進捗			目標値	備考	
				H29年度 (2017年度)	H30年度 (2018年度)	R1年度 (2019年度)	R2年度 (2020年度)	R5年度 (2023年度)		
数41	施策	39	重点 施策	緩和ケアネットワーク会議を開催している圏域	H28年度 (2016年度) 6圏域	H29年度 (2017年度) 6圏域	H30年度 (2018年度) 6圏域	R1年度 (2019年度) 7圏域	R4年度 (2022年度) 7圏域	島根県 健康推進課調査
数42	中間	10		治療における希望が尊重されたと回答した患者の割合 (希望の尊重)	H26年度 (2014年度) 79.6%	— — —	— — —	H30年度 (2018年度) 74.6%	R4年度 (2022年度) 80.7%	国立がん研究センター 患者体験調査 H30回答選択肢等改定により比較困難



**【全体目標】 尊厳をもって安心して暮らせる社会の構築（患者家族支援、がん教育）**

項目			計画策定時	進捗			目標値	備考	
			H29年度 (2017年度)	H30年度 (2018年度)	R1年度 (2019年度)	R2年度 (2020年度)	R5年度 (2023年度)		
<b>(1) 患者・家族の治療や療養生活の悩みが軽減するための支援（患者家族支援）</b>									
数43	最終	5	現在自分らしい日常生活を送れていると回答した患者の割合 (自分らしい日常生活)	H26年度 (2014年度) 72.1%	— — —	— — —	H30年度 (2018年度) 77.2%	R4年度 (2022年度) 77.7%	国立がん研究センター 患者体験調査 H30回答選択肢等改定により比較困難
数44	最終	5	【新規】がん患者の家族の悩みや負担を相談できる支援・サービス・場所が十分あると回答した患者・家族の割合 (家族への支援・サービス・場所)	— — —	— — —	— — —	H30年度 (2018年度) 53.7%	— — —	国立がん研究センター 患者体験調査
数45	中間	11	相談する場があったと回答した患者の割合 (療養に関する相談)	H26年度 (2014年度) 69.4%	— — —	— — —	H30年度 (2018年度) 77.1%	R4年度 (2022年度) 82.5%	国立がん研究センター 患者体験調査 H30回答選択肢等改定により比較困難
数46	施策	42	がん相談支援センターを知っていると回答した患者の割合 (がん相談支援センターの認知度)	H28年度 (2016年度) 49.7%	— — —	— — —	— — —	R3年度 (2021年度) 60.0%	島根県 県民健康調査
数46	施策	42	がん相談支援センターを知っていると回答した患者・家族の割合 (がん相談支援センターの利用)	— — —	— — —	— — —	H30年度 (2018年度) 75.9%	— — —	国立がん研究センター 患者体験調査
数47	中間	12	がん相談支援センターを利用して役に立ったと回答した患者・家族の割合(がん相談センターを知っていると回答した人のうち) (がん相談支援センター利用者満足度)	H26年度 (2014年度) 71.0%	— — —	— — —	H30年度 (2018年度) 値なし	R4年度 (2022年度) 81.4%	国立がん研究センター 患者体験調査
数47	中間	12	がん相談支援センターを利用したことがあると回答した患者・家族の割合(がん相談センターを知っていると回答した患者・家族のうち) (がん相談支援センターの利用)	— — —	— — —	— — —	H30年度 (2018年度) 13.5%	— — —	国立がん研究センター 患者体験調査
数48	施策	44	重点 施策 がん患者・家族サポートセンターが実施する資質向上研修を受講した病院の割合	H26年度 (2014年度) 64%	H30年度 (2018年度) 46%	R1年度 (2019年度) 61%	R2年度 (2020年度) 46%	R4年度 (2022年度) 100%	島根県 健康推進課調査
数49	中間	14	ピアサポート利用者満足度	H30年度 (2018年度) 測定困難	— — —	— — —	— — —	R4年度 (2022年度) 設定困難	島根県 健康推進課調査

項目				計画策定時	進捗			目標値	備考
				H29年度 (2017年度)	H30年度 (2018年度)	R1年度 (2019年度)	R2年度 (2020年度)	R5年度 (2023年度)	
数50	中間	16	小児・AYA患者家族が、相談体制が整っていると感じている割合	H30年度 (2018年度) 57.7%	H30年度 (2018年度) 57.7%	— — —	— — —	R4年度 (2022年度) 中間評価で設定予定	島根県 健康推進課調査
	中間	17	小児・AYA患者家族が、不安や悩みが軽減されていると感じている割合	H30年度 (2018年度) 69.3%	H30年度 (2018年度) 69.3%	— — —	— — —	R4年度 (2022年度) 中間評価で設定予定	島根県 健康推進課調査
	中間	18	小児・AYA患者家族が、保育・教育を受けられる環境が整備されていると感じている割合	H30年度 (2018年度) 82.1%	H30年度 (2018年度) 82.1%	— — —	— — —	R4年度 (2022年度) 中間評価で設定予定	島根県 健康推進課調査
	中間	19	がんによる退職後の復職率 (復職)	H26年度 (2014年度) 76.2%	— — —	— — —	H30年度 (2018年度) 項目なし	R4年度 (2022年度) 84.5%	国立がん研究センター 患者体験調査
	中間	12	がんと診断された時の仕事について「休職・休業はしたが、退職・廃業はしなかった」と回答した患者の割合 (休職・休業)	— — —	— — —	— — —	H30年度 (2018年度) 55.2%	— — —	国立がん研究センター 患者体験調査
数54	中間	19	職場や仕事上の関係者から治療と仕事を両方続けられるような勤務上の配慮があったと回答した患者の割合 (就労に際する配慮)	H26年度 (2014年度) 82.5%	— — —	— — —	H30年度 (2018年度) 61.3%	R4年度 (2022年度) 85.0%	国立がん研究センター 患者体験調査 H30回答選択肢等改定により比較困難
数55	施策	18	(再掲:数6)しまね☆まめなカンパニー登録事業所数	(再掲:数6)	(再掲:数6)	(再掲:数6)	(再掲:数6)	(再掲:数6)	(再掲:数6)

項目			計画策定時	進捗			目標値	備考	
			H29年度 (2017年度)	H30年度 (2018年度)	R1年度 (2019年度)	R2年度 (2020年度)	R5年度 (2023年度)		
<b>(2) がんを正しく理解し、がんに向き合うためのがん教育（がん教育）</b>									
数56	最終	6	がん患者が周囲の人(家族、友人、近所の人、職場関係者など)からがんに対する偏見を感じると回答した割合 (がんに対する偏見)	H26年度 (2014年度) 5.5%	— — —	— — —	H30年度 (2018年度) 項目なし	R4年度 (2022年度) 1.4%	国立がん研究センター 患者体験調査
数56	最終	6	(家族以外の)周囲の人からがんに対する偏見を感じると回答した患者の割合 (がんに対する偏見)	— — —	— — —	— — —	H30年度 (2018年度) 3.7%	— — —	国立がん研究センター 患者体験調査
数57	最終	6	がん患者が家族以外の周囲の人(友人、近所の人、職場関係者など)から不必要に気を遣われていると感じると回答した割合 (社会からの孤立)	H26年度 (2014年度) 20.4%	— — —	— — —	H30年度 (2018年度) 項目なし	R4年度 (2022年度) 15.1%	国立がん研究センター 患者体験調査
数57	最終	6	がんと診断されてから周囲に不必要に気を遣われていると感じると回答した患者の割合 (周囲からの不必要な気遣い)	— — —	— — —	— — —	H30年度 (2018年度) 6.1%	— — —	国立がん研究センター 患者体験調査
数58	施策	63	重点 施策 学校におけるがん教育の実施率	H30年度 (2018年度) 小学校 61.6% 中学校 69.4% 高等学校 50.0%	H30年度 (2018年度) 小学校 61.6% 中学校 69.4% 高等学校 50.0%	R1年度 (2019年度) 小学校 45.3% 中学校 61.6% 高等学校 76.6%	R2年度 (2020年度) 小学校 54.7% 中学校 77.8% 高等学校 72.3%	R4年度 (2022年度) 中間評価で設定予定	島根県 教育委員会調査
数59	施策	64	学校におけるがん教育に関する校内研修の実施率	H30年度 (2018年度) 小学校 6.4% 中学校 7.2% 高等学校 2.8%	H30年度 (2018年度) 小学校 6.4% 中学校 7.2% 高等学校 2.8%	R1年度 (2019年度) 小学校 4.0% 中学校 9.1% 高等学校 4.3%	R2年度 (2020年度) 小学校 4.5% 中学校 7.1% 高等学校 0.0%	R4年度 (2022年度) 中間評価で設定予定	島根県 教育委員会調査
数60	施策	65	がん教育の外部講師養成研修受講者数	H29年度 (2017年度) 36人	H30年度 (2018年度) 115人	R1年度 (2019年度) 235人	R2年度 (2020年度) 270人	R4年度 (2022年度) 200人	島根県 健康推進課調査
数61	施策	66	がん教育を公開実施した学校の割合	H30年度 (2018年度) 小学校 6.0% 中学校 7.4% 高等学校 7.1%	H30年度 (2018年度) 小学校 6.0% 中学校 7.4% 高等学校 7.1%	R1年度 (2019年度) 小学校 7.0% 中学校 7.4% 高等学校 7.7%	R2年度 (2020年度) 小学校 9.4% 中学校 5.4% 高等学校 11.1%	R4年度 (2022年度) 中間評価で設定予定	島根県 教育委員会調査
数62	施策	70	(再掲:数6)しまね☆まめなカンパニー登録事業所数	(再掲:数6)	(再掲:数6)	(再掲:数6)	(再掲:数6)	(再掲:数6)	(再掲:数6)